

過日齊多国民議會ノ決議シタル人民ニ対スル檄文中ニハ明カニ日本人ヲ以テ唯一ノ敵ト為シ外國軍隊及反動派ノ軍隊ヲ掃蕩スル迄奮闘ヲ継続スヘシトテ戦線及背後ニ於ケル犠牲ヲ要求シ又世界各国国民ノ政府ニ対スル檄文ニハ日本ハ露領ヲ占領シ利権ヲ奪取シ干涉ノ口実ヲ作ランカ為内乱ヲ煽動シ「セメノフ」「メルクーロフ」ニ兵器ヲ供給シ大連會議ニ於テハ駐兵ニ対シ承諾ヲ求メ韃靼海灣地方ノ事實的割譲ヲ要求シ其他条件ノ苛酷ナル之ヲ承諾セハ極東共和国ハ主権ヲ喪失シ日本ノ権力下ニ置カルルニ至ラントテ何レノ

国モ日本ノ侵略ヲ防止セス却ッテ行動ノ自由ヲ認ムルヲ非難シ齊多代表者ヲ参加セシメサル「ワシントン」會議ノ決議ヲ否認ストノ趣旨ヲ述ヘ居レリ  
右ノ如ク事實ヲ誣ヒ我方ニ敵対宣伝ヲ行フハ大連會議進行中ノ此際不都合極マルニ付貴官ハ「ベトロフ」ニ対シ齊多側ノ不信ノ態度ヲ責メ今後国民議會其ノ他ニ於テ此ノ種不都合極マル措置ヲ繰返サシメサル様取計方嚴重申入レラレタシ

## 事項二一 薩哈噠州占領地域施政關係一件

一〇〇一 一月十八日 薩哈噠州派遣軍參謀長ヨリ  
陸軍次官宛(電報)

### ニコライエフスク方面ノ政情等ニ關スル情報

#### 報告ノ件

十八日薩參二六 (一月二十一日陸軍省ヨリ写接受)  
過般來尼港代表者ノ通信及尼港ヘ到着セル各地ノ電話文書等ニ依リ調査セルトコロ大要次ノ如シ

一、尼港及「ソフィスク」ニ至ル間ノ各部落ハ平穩ナリ然シテ目下同所ニ於ケル政治的代表者ト称シアルハ「ケルビ」ニ於ケル軍代表者タリシ「プロカペンコ」ニシテ目下「マリンスク」ニ根拠ヲ置キ勢力拡張ニ努力中ナルモ「ボリシエミハイロスク」以北ニ於ケル各村落人民ノ信用大ナラス彼ニ反對シアリ

二、元「トリヤピーチン」一派タリシ無政府主義者「デードボノマレヨフ」ナルモノハ哈府南方約六十露里「ウヤツスキ」ニ在リテ自ラ尼港哈府地方軍參謀長ト称シ過

二二 薩哈噠州占領地域施政關係一件 一〇〇一

激ノ命令ヲ下シツツアリ

三、内務大臣「ヅナーメンスキ」ハ「プロカペンコ」及薩哈噠州委員ニ対シ薩哈噠州ハ極東共和国ノ一部ナルモ目下日本ノ圧迫ヲ受ク前ニ極力薩哈噠州及沿海州ヨリ其ノ勢力ヲ排除シ州革命委員會ニテ此ノ地ヲ支配スヘキヲ希望シ尚同州代表者ヲ哈府會議ニ召集スルコトヲ命令セリ

四、新治黑竜州ノ境界ハ「ハバロフスキ」及「イマンスキー」及「ウドスキ」ノ諸郡並ニ黑竜州ノ一部ナル旨發表セリ

五、各村落ハ稍ヤ日本軍ノ再來ヲ顧慮シ躊躇ノ傾アルモ代表者ヲ出ス事ハ目下ノ形勢止ムヲ得サルモノトセリ

尼港代表者ハ召集委員會ニ出席スルノ可否ヲ当司令部ニ伺ヒ來レルヲ以テ諸情況ヲ蒐集報告スルノ条件ヲ附シ任意召集ニ応セシメタリ

六、尼港代表者ハ「チタ」政府ヨリ送附シ來レル諸情報ニ

依リ露国西部諸州及南部露国ノ行動並ニ世界ノ出来事等ハ可ナリ能ク通報セラレ反ッテ軍ヨリハ早く且ツ多クノ事ヲ知レル感アリ

七、現在ノ有様ニテハ当分「ポリシエミハイロフスコエ」ノ「プロカペンコ」ガ該方面政治の代表者トナリ活動スルモ果シテ各村民ヲ能ク統御スルヲ得ルヤハ疑問ナリ然レトモ「チタ」政府カ極力日本ノ再来迄ニ人心ヲ収攬シ排日策ヲ講スル事ハ明ナリ軍ハ極力尼港代表者ヲ通シテ諜報ニ努メントス

(陸軍次官、參謀次長、浦潮派遣軍參謀長 濟)

一〇〇二 一月二十八日

植原外務次官ヨリ  
陸軍次官海軍次官各宛

ニコライエフスク最近情報送付ノ件

附屬書 右情報

欧一機密合送第五四号

尼港最近情報送付ノ件

昨秋帝国軍隊尼港撤退ノ際同市残留露国人ヲシテ組織セシメタル委員會会長「エーポフ」ヨリ昨年十二月十五日附ヲ以テ島田元太郎ニ送越セル私信同人ヨリ提出有之候処其中

尼港近状ニ関スル部分御参考迄訳出及御送付候也

(附屬書)

尼港最近情報

昨秋帝国軍隊尼港撤退ノ際同市残留露国人ヲシテ組織セシメタル委員會会長「エーポフ」ヨリ昨年十二月十五日附ヲ以テ島田商会店主島田元太郎ニ送リタル私信中最近尼港方面ノ情况ニ関スルモノ左ノ如シ

前略……………殆ント各村落ニ少数ツツノ「パルチザン」出沒シ居ルモ目下ノ処別ニ異状ナシ最近憲法會議ノ選舉ニ関シ幾多ノ電報及指令ヲ受理シツツアリ十二月十二日尼港及「デニソフカ」村ニ電話機ヲ又「ミハイロフスコエ」及「ボゴロドスコエ」兩村ニハ電信及電話機ヲ架設シ「ハバロフスク」郵便電信管区ト接続セリ又之ト同時ニ「ミハイロフスコエ」ニハ其支局ヲ開設セリ十二月十九日「ミハイロフスコエ」村ニ地方會議開催セラルルヲ以テ当地ヨリモ經濟問題ニ関スル決定權ヲ与ヘラレタル代表者ニ名参加スヘシ

哈府附近「ウヤトスク」ニ「ヂエド、ポノマリヨフ」ナル者(「トリヤピーチン」ノ補佐官トシテ糧食及文教事務ヲ

流布シツツアリ云々

一〇〇三 一月二十八日

(註)  
松村總領事(亞港出張中)ヨリ  
内田外務大臣宛

極東共和国ガアレクサンドロフスクニ派遣セントスル薩哈噠州執政官ノ取扱振ニ関シ訓詁ノ件

機密第二号

(二月二十八日接受)

大正十年一月二十八日

在亞港

總領事 松村 貞雄(印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

当地ニ派遣セラルヘキ極東共和国執政官

取扱振ニ関スル件

情報ニ依レハ所謂極東共和国ハ今春解氷期ニ至リ浦潮当地間交通開始ト共ニ薩哈噠州執政官ナルモノヲ当地ニ派遣スル由ニ有之候処右到着ノ上ハ我方トシテハ先我軍政ト相容レサル行動ヲ取ルコトヲ許ササル旨懇切ニ説諭シ万一我説論ニ服セサルカ又ハ密ニ我軍政ト相容レサル行動ヲ為スノ恐アル時ハ軍律ニ依リ之ヲ処分スヘキモノト相考候得共果

シテ右ノ取扱振ニテ差支無之候哉事大局ノ機微ニ相触居候儀ニ付為念折返シ何分ノ儀以電報御指示相仰度此段及稟請候 敬具

追而本件ハ軍參謀長ヨリモ陸軍省ヘ今回上京ノ多門參謀ヲ以テ協議アル筈ニ有之候

註 總領事松村貞雄ハ大正九年十一月二日附ヲ以テ（外務省囑託鈴木相之助及外務書記生根本福次郎ト同時ニ）アレクサンドロフスクヘ出張ヲ命ゼラレ同年十一月五日附ヲ以テ薩哈噠州派遣軍司令部附兼勤仰付ケラレタリ尚垂港トハ右アレクサンドロフスクノコトナリ

一〇〇四 一月二十八日 松村總領事（垂港出張中）ヨリ内田外務大臣宛

件 黑竜江下流航行監視ノ必要ニ付稟申及請訓ノ

附屬書 黑竜江下流略図

機密第三号

大正十年一月二十八日

（二月二十八日接受）

在垂港

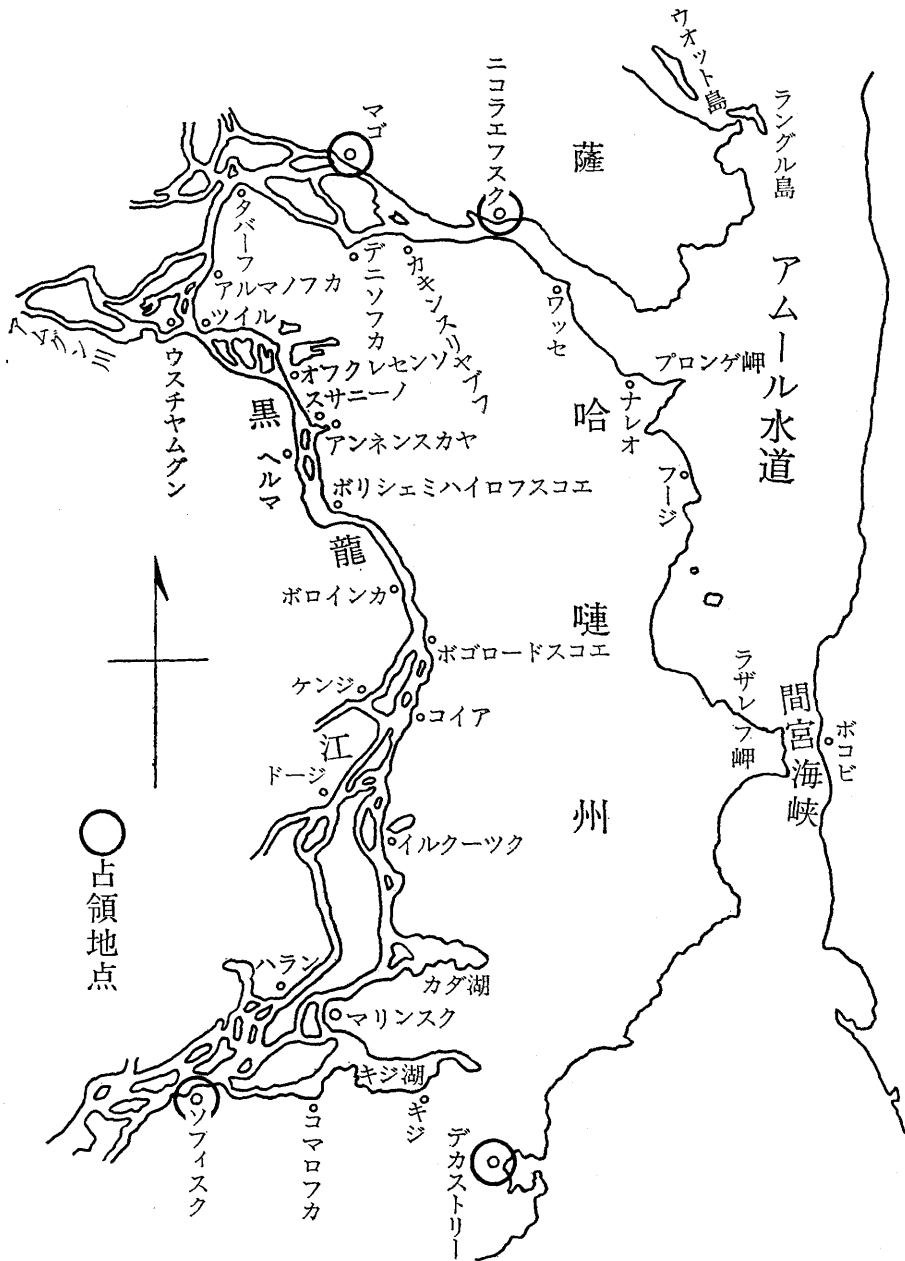
總領事 松村 貞雄（印）

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

黑竜江下流航行監視ニ関スル件

本春解氷期ヲ以テ愈々対岸要地ノ軍事占領実行セラルル筈ニ有之候処附屬別紙略図ニ於テ一見明了ナル如ク尼港其他ノ四要地ヲ確實安全ニ占領シ尼港事件ノ如キ不測ノ災害ヲ未然ニ防ガントセバ勢ヒ「ソフィスク」以北ノ黑竜江下流ニ於ケル船舶ノ航行ヲ嚴重ニ監視シ不逞分子ノ横行画策ヲ妨止スル必要有之右監視ヲ完全ニ実行スルニハ不斷黑竜江下流ノ水面ヲ巡邏警戒シテ常ニ兩岸各村落ノ動靜ヲ詳カニシ且ツ尼港「ソフィスク」等ノ要処ニ於テ出入ノ船舶ヲ監視スル等周到ナル措置ヲ施スノ已ムヲ得ザル哉ニ存ゼラルルモ右実行ニ対シテハ当分諸方面ヨリノ苦情可有之時々問題ヲ惹起スルコトアルハ免レザル次第ニ有之候ニ付右実行方法ニ関シテハ充分慎重ナル研究ヲ遂グル必要有之候儀ト存候間右ニ対スル何分之儀委細御訓示相仰度本件ニ関シテハ当派遣軍ヨリモ陸軍当局ヘ打合相成居候筈ニ付自然陸軍側ヨリノ協議ニ接セラルル儀ト相察候得共為念右及稟申候 敬具

（附屬書）黑竜江下流略図



一〇〇五 二月五日 内田外務大臣ヨリ

松村総領事(亜港出張中)宛(電報)

薩哈噠州占領地域ニ於ケル露人其他外国人ノ既得權ヲ尊重ストノ意義ニ関シ現地ノ利害關係調査方訓令ノ件

附記一 大正九年十二月十五日内田外務大臣発在アレク

サンドロフスク松村総領事宛電報第三号

薩哈噠州占領地施政方針ニ関スル閣議決定ニ則リ措置方訓令ノ件

二 大正九年十二月十七日在アレクサンドロフスク

松村総領事発内田外務大臣宛電報第四号

薩哈噠州占領地施政方針中ニ所謂既得權ノ意義ニ付請訓ノ件

第一号

貴電第四号ニ関シ

既得權ノ何タルヤハ占領地以外ニ付テモ一併考慮ノ必要アル処我漁業權ノ如キ重要ナル利權ニ付滿洲政權ヲ相手トシ居ル次第モアリ其他現在本邦人ノ關係セル諸種ノ利權ヲ主張スル上ヨリ見レバ広ク「レニン」政府以外ノ歐露政府並

極東政權ヨリ取得シタル総テノ適法ナル權利ヲ含ムモノト解釈スル方得策ナルガ如ク占領区域ニ於テモ著シキ第三国人ノ利權ナキ以上大体同様解釈シ占領當時現存セル此等利權ヲ包含セシメ差支ナキヤニ思考セラルル所本件ハ現地ニ於ケル利權關係ニ重キヲ置キ帝國ニ都合ヨキ様考査スルヲ適當トスヘク例ヘハ前記解釈ヲ採ルトキハ中央政府特許ノ鉅業權ニシテ亞港鉅務監督署ノ原簿ニ登録サレ居ラザルモノアル場合之ヲモ尊重セザルベカラザルコトナルモ我方ニ取リテハ占領當時同監督署ノ原簿ニ存スル權利ニ限ルヲ安全トスルカ如キ事情モアルヘキニ依リ実地ノ事情御考究ノ上本件ニ対スル貴見回電アリタシ

註 本電冒頭ノ松村総領事大正九年発外務大臣宛第四号及同第四

号ニ援用セラレ居ル外務大臣大正九年發松村総領事宛第三号

ヲ左ニ附記トシテ掲載ス

(附記一)

大正九年十二月十五日内田外務大臣発在アレクサンドロフス

ク松村総領事宛電報第三号

薩哈噠州占領地施政方針ニ関スル閣議決定ニ則リ措置方訓令ノ件

第三号

往電第二号ニ関シ貴官ハ占領ノ性質ニ鑑ミ大体戰時占領ニ関スル國際法規ニ準拠シ左記閣議決定ノ趣旨ヲ体シ慎重事ニ膺ラレ度シ

一、占領地域内ニ於テハ他ノ權力ヲ否認スルコト

二、絶対ニ支障ナキ限り露國ノ法律ニ準拠スルコト

三、占領地域ニ於ケル我經濟利益ノ合法的發展ヲ図ルコト

四、内外人ノ間ニ公平ヲ欠クノ嫌アル措置ハカメテ之ヲ避クルコト

五、露西亞人其他外国人ノ既得權ハカメテ之ヲ尊重スルコト

ト

註 本電冒頭ニ援用ノ往電第二号ニ付テハ日本外交文書大正九年

第一冊下卷八三〇頁第六八六文書本件閣議決定ニ付テハ同シク下卷八〇九頁第六六三文書參看

(附記二)

大正九年十二月十七日在アレクサンドロフスク松村総領事発

内田外務大臣宛電報第四号

薩哈噠州占領地施政方針中ニ所謂既得權ノ意義ニ付請訓ノ件

第四号

(十二月十八日接受)

一一二 薩哈噠州占領地域施政關係一件 一〇〇六

貴電第三号第五既得權トハ露國帝政時代ニ得タリシ權利ト解スベク存ゼラルルモ實際ニ於テハ革命以後歐露政權又ハ極東政權等ヨリ得タルモノモアルベク是等ハ絶対ニ承認セザル御趣意ナリヤ明確ナラズ将来問題ヲ生ズル虞アルニ付此点ニ関スル帝國政府ノ御方針御指示ヲ仰グ

一〇〇六 二月七日

薩哈噠州派遣軍參謀長ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

チタ政府ガ治黑竜江州ノ新設薩哈噠州ノ縮少

等行政区画ヲ変更セル旨松村総領事報告ノ件

松村総領事ヨリ

(二月七日接受)

第一号

知多政府ハ今回沿海州中「ハバロフスキー」「イマンスキ」ノ二郡及薩哈噠州中「ウドスキー」郡ヲ包有スル治黑竜江州ヲ新設シ其ノ首府ヲ「ハバロフスク」トシ薩哈噠州ヲ北樺太ニ縮少シテ「アレキサンドロフスク」其ノ首府トス尚旧「ウドスキー」郡ヲ二分シ新ニ「ウドスキー」(首府「マリンスク」)「ケルビンスキー」(首府「ケルビー」)ノ二郡ヲ設ケ在哈府現任治黑竜江州國民革命委員會行政部長「ブロカベンマサ」州政ヲ司リ我軍ノ占領ニ対シ何等願



慮スル処ナキハ勿論寧ロ敵意ヲ以テ着々此施政方針ヲ定メ過激派政策ノ実行ヲ期シ居レリ其ノ結果今春我軍對岸要地ヲ占領スルニ當リ意外ノ障害ニ接スルヤモ計リ難シ本件ニ関シテハ派遣軍ヨリモ中央ノ方針伺ヒ出ノ筈

一〇〇七 二月七日 松村總領事(亞港出張中)ヨリ  
内田外務大臣宛

薩哈噠州行政区画變更ニ関スル件

附屬書 薩哈噠州行政区画變更ニ関スル情報

公第一号

大正十年二月七日

在亞港 總領事 松村 貞雄(印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

本件ニ関シテハ本日拙電第一号ヲ以テ概略及具報置候間既ニ鑑閲ヲ經タルコトト被存候尚為念本件ニ関シ得タル情報別冊ヲ以テ及報告候間御覽相成度此段申進候 敬具

(附屬書)

薩哈噠州行政区画變更ニ関スル情報

客年五月下旬「トリヤピーツイン」一派ノ「バルチザン」過激派尼港ヲ撤退シテ亞牟郡河ノ上流「ケルビ」ニ移リ同

地ヲ中心トシテ地方住民ニ對シ例ノ暴政ヲ振ヒシガ七月下旬ニ至リ其ノ部下ノ一人「アンドレーエフ」ハ首領「トリヤピーツイン」及其ノ幕僚ヲ殺害シテ自ラ赤軍ノ主將トナリ暫ク該地方ノ政權ヲ握リシガ九月末ニ及ビテ赤軍亦崩潰シ「アンドレーエフ」及ビ其ノ一派ノ輩ハ相率イテ「武市」ニ落行キ殘党ハ各其ノ志スルニ離散シ茲ニ尼港ヲ脅シタル薩哈噠州「バルチザン」ハ事實ニ於テ其ノ本拠ヲ失フニ至レリ然ルニ「アンドレーエフ」ノ尚「ケルビ」ニ在リタル際「プロカペンコ」ナルモノアリ州会ノ一部ヨリ選バレテ州國民革命委員會ノ代表者トナリ爾來「ケルビ」地方ノ行政ヲ掌レリ然ルニ昨年夏頃ニ至リ薩哈噠州ニ州会ノ名稱ヲ有スルモノ同時ニ二個アリ各其ノ管轄区域ヲ異ニシ一ハ「ケルビ」ニ在リテ「アムグン」及「ケルビ」地方ヲ支配シ前記「プロカペンコ」選ハレテ其ノ代表者タリ他ハ尼港ニ在リテ黑竜江及黑竜海灣ニ沿ヒタル部分ヲ管轄トシ「エメリヤーノフ」選バレテ尼港委員會ノ全權トナレリ而シテ「ケルビ」委員會ハ過激派ニ屬シ尼港委員會ハ勿論反過激ニシテ前記兩人ハ州ノ代表權ニ付常ニ相反目セルト共ニ兩管轄区域内ノ住民ハ兩州会ト何等ノ連絡ヲ有セズ兩委員

会ヲ以テ正當ナル州会ノ選舉ニ依ルモノニアラズトシテ之ヲ承認セズ斯クノ如ク薩哈噠州ノ政情ハ當時渾沌タル情態ニ在リテ政令ニ途ニ出ツ事實ニ於テ州ハ如何ナル政權ニモ屬セザル有様ナリシガ客年十月我軍一時尼港ヲ撤退スルニ

當リ前記尼港全權及ビ地方有力者モ同時ニ同地ヲ退去セシ為「プロカペンコ」ハ自ラ州國民革命委員會代表者ト稱シ旧臘新治黑竜州ノ編成セラルルト共ニ同州國民革命委員會委員トナリ兼テ同会行政部長ニ任命セラレ一時本拠ヲ「マリンスク」ニ移シタルモ次テ哈府ニ転シ現ニ同地ニアリテ旧薩哈噠州ヲ支配シ各種ノ政令ヲ發布シ居レリ尤モ旧臘「ボルシエ、ミハイロフスコエ」ニ於テ開催セラレタル附近村団會議ニ於テハ唯知多政府ヲ承認シ「プロカペンコ」ノ權能ヲ承認セズ但ダ「マリンスク」以南ノ各村ノミ同人ノ權能ヲ承認セリトイフ

新州編成ニ関シ客年末「プロカペンコ」ガ「マリンスク」經由尼港委員會ニ宛テタル電報ニ曰ク

複雑ナル事情ニ依リ知多政府ハ今回「ハバロフスキー」郡「イマンスキー」郡及「ウドスキー」郡ヲ以テ境界トスル一州ヲ作り沿黑竜州ト命名シ其ノ首府ヲ「ハバロフスク」

ニ置クコトトセリ尚薩哈噠ハ別ニ一州トシ「アレクサンドロフスク」ヲ其ノ首府トス是等新行政州ノ政治組織ニ関シテハ目下知多政府内務大臣ニ於テ起案中ナリト又本年一月三日ノ同電報ニ曰ク

千九百二十年十二月二十八日附治黑竜州國民革命委員會ノ命令左ノ如シ、  
「ニコラエフスク」市「セルゲ、ロジエストヴェンスキ」村「ポリシエミハイロフスカヤ」村及「マリンスカヤ」村ハ旧境界ノ儘「ウドスキー」郡ヲ編成シ其ノ首府ヲ「マリインスク」トス又「アムグン、ケルビンスキー」区域ハ「ウジンスカヤ」村及「ケルビンスカヤ」村ト共ニ「ケルビンスキー」郡ヲ編成シ其ノ首府ヲ「ケルビ」トス尚郡会召集迄ハ郡國民革命委員會ヲ組織シテ行政ヲ掌ラシム委員長ニハ「ウォストロコフ」就任目下委員會ハ「マリインスク」ニ在ルモ追テ在哈府州國民革命委員會内ニ移転スベシト

右ノ如ク知多政府成立以来同政府ハ我薩哈噠州占領ニ對シテ何等顧慮スル処ナク着々其ノ施政方針ヲ定メ行政区画ノ變更及行政機關ノ整理ヲ行フハ勿論知多政府内務大臣ガ前

記「プロカペンコ」ニ与ヘタル訓諭ニ依レバ「少クモ薩哈噠州ハ極東共和國ノ一部ナリ而シテ茲ニ極東ノ統一完成セラレタリト雖現ニ同州ハ日本軍ノ圧迫ヲ蒙リテ特殊ノ状態ニ在リ故ニ薩哈噠島及沿海州ヨリ外力ヲ排除スルハ最緊急事ニ属ス云々」トアルニ觀ルモ知多政府ハ過激派タル「プロカペンコ」ヲ督勵シテ極力我國ニ不利ナル施設行動ヲナサシムベキハ明白ナル次第ニシテ今春実行セラルベキ對岸黑竜江要地占領ニ對シ意外ナル障害ヲ見ルヤモ図リ難キハ勿論折角我軍ヲ力トシテ過激派ニ抗シ我方ニ好意ヲ持續シツツアル占領予定地方ノ民心ヲシテ離反セシムル恐アリ尚今回新設セラレタル沿海黑竜州ハ別紙附圖中薩哈噠州中ヨリ北樺太ヲ除キタル「ウドスキー」郡及沿海州中綠色ニ着色シタル<sup>(註)</sup>二郡ヲ合シ之レニ黑竜州ノ一部「ブイレンスキー」区域ヲ加ヘタルモノノ如ク報ゼラルルモ其ノ範圍明確ナラズ尚旧薩哈噠州中北樺太ヲ一州トシテ薩哈噠州ト稱シテ当地ヲ首都トシ殘部ヲ「ウドスキー」及「ケルビンスキー」ノ二郡ニ分チ「マリインスク」及「ケルビ」ヲ其ノ行政ノ中心トセリ

註 綠色ニ着色シタル二郡トハ「ハバロフスキー」郡及「イマン

スキー」郡ナリ

(別紙)

薩哈噠州沿海黑竜州附近略圖 次頁

一〇〇八 二月十日

植原外務次官ヨリ  
陸軍海軍及農商務各次官宛

薩哈噠州占領地域ニ於ケル既得權ノ意義ニ関スル件

歐一機密合送第八二号

薩哈噠州占領地域内ニ於ケル露国人及外国人ノ既得權ハ力メテ之ヲ尊重スルコトニ客年七月二十七日閣議決定相成居候処右既得權ノ意義ニ関シ曩ニ在亞港松村總領事ヨリ請訓アリタルニ對シ今般別紙写<sup>(註)</sup>ノ通回電相成候条右様御了承相成度此段申進候也

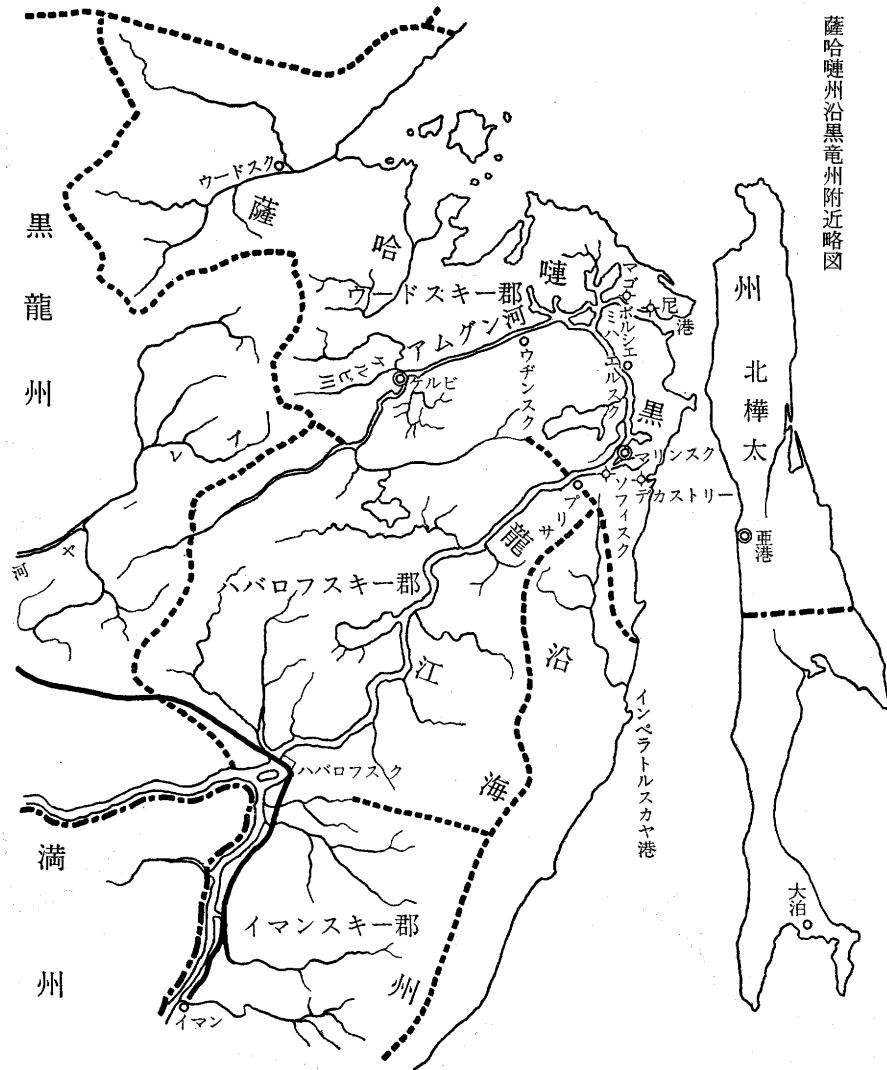
註 別紙写ハ前出二月五日内田外務大臣發松村總領事宛往電第一号ナリ

一〇〇九 二月二十二日

薩哈噠州派遣軍參謀長ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

松村總領事ヨリ薩哈噠占領地ニ於ケル既得權ノ調査報告及其取扱ニ関スル意見稟申ノ件

(別紙) 薩哈噠州沿海黑竜州附近略圖



松村総領事ヨリ

第九号

(二月二十三日接受)

貴電第一号ニ関シ

種々調査研究ヲ重ネタルニ工務局登録原簿ニ依レハ石炭ニ  
関シテハ採掘権総数四十鉱区中帝政時代ノモノ二六(内  
「スタヘーフ」五)「オムスク」政府ノモノ八浦潮政権ノ  
モノ六(内日本人四)試掘権総数二三鉱区中帝政時代及  
「ケレンスキー」時代九五(内「スタヘーフ」六二日本人  
四)「オムスク」時代六一(内「スタヘーフ」五九)浦潮  
政権ノモノ四三(内「スタヘーフ」三九)権利未確定ノモ  
ノ三五アリ次ニ石油ニ関シテハ総数五三五鉱区全部「スタ  
ヘーフ」ノ名義ニテ大正九年二月乃至五月ノ獲得ニ係ル此  
外一露人ニ属スル金鉱(不明)区アリ「オムスク」時代以  
後ノモノナリ然ルニ北樺太ノ行政ハ一九一七年十月「ケレ  
ンスキー」政府倒レテ以来ハ一時「オムスク」政府ノ代表  
者ニ依リテ行ハレタルコトアルモ多クハ主權ノ所在明確ナ  
ラス殊ニ昨年一月以降我占領迄ハ「パルチザン」一派専ラ  
跋扈跳梁セルアリ現ニ当地露人總代タル前工務局長ハ一九  
一五年九月ヨリ引続キ在職シ大体完全ニ其職務ヲ執行シタ

リト称シ居ルモ鉱業權ノ許可及登録ノ如キ果シテ正當ニ行  
ハレタルヤ疑ナキ能ハス從テ登録セルモノスラ全部適法ニ  
獲得シタルモノト認メ難キ始末ニ付占領地ニ於テ今日總テ  
ノ権利ヲ既得權トシテ(不明)スルトキハ其權原ノ調査困  
難ナルハ勿論其間種々ノ詭計モ数多行ハレ易ク徒ニ他國ノ  
勢力ヲ輸入シ易キ結果ヲモ来シ将来禍根ヲ殘ス虞アリ前記  
ノ如ク金鉱ヲ除キテハ大部分「スタヘーフ」關係ノモノ多  
ク石炭ニ付テハ既ニ我ト協同約成リ石油ニ関シテモ亦相当  
ノ了解アリトセハ原則トシテハ北樺太ニ於ケル鉱業ニ関ス  
ル既得權ハ鉱務局原簿ニ登録セルモノノ内帝政時代及「ケ  
レンスキー」時代ノモノニ限リ之ヲ認メ他ハ更ニ慎重調査  
ノ上必要ノ時機ニ於テ可成登録名義人ニ優先權ヲ与フルコ  
トトシ改メテ我軍ニ於テ許可スル方万全ノ策ナリト思考ス

一〇一〇 三月二日

内田外務大臣ヨリ  
松村総領事(亜港出張中)宛(電報)

極東共和国ガアレクサンドロスクニ派遣セン  
トスル薩哈噠州執政官ノ取扱振ニ関シ回訓ノ

件

第四号

貴信機密第二号ノ件ニ付テハ菊池政務部長ヲシテ在浦潮

「チタ」政府外交代表者ニ対シ本件執政官派遣ハ我占領軍  
ノ権力ト相容レザル旨ヲ説示シ万一之ヲ派遣シ行政ヲ行ハ  
シメムトセハ必ず不愉快ナル衝突アルヘキヲ懇談のニ注意  
セシムルコトトセリ

右ニモ不拘執政官貴地ニ来着スルトキハ前記貴信記載ノ通  
リ措置アリ度シ

一〇一一 三月二日

内田外務大臣ヨリ  
松村総領事(亜港出張中)宛(電報)

黑竜江下流航行監視ニ付回訓ノ件

附記 陸軍トノ協議案

第五号

貴信機密第三号ニ関シ

已ムヲ得ザル措置ナレトモ要ハ手加減ニ在ルヲ以テ安寧秩  
序ノ維持上特別ノ必要アル場合ノ外可成干渉セザルコト及  
露人ヲ愛撫スルノ精神ヲ以テ行フコトヲ取扱者ニ徹底のニ  
覚知セシムル様致シタシ

(附記)

陸軍トノ協議案(三月二日協議済)

二二 薩哈噠州占領地域施政關係一件 一〇一一 一〇一二

黑竜江下流航行監視ニ関スル件

本件ハ已ムヲ得ザル措置ナレトモ要ハ手加減ニ在ルヲ以テ  
安寧秩序ノ維持上特別ノ必要ノ場合ノ外可成干渉セザル  
コト及露人ヲ愛撫スルノ精神ヲ以テ行フコトヲ取扱者ニ徹  
底のニ覚知セシムルコトヲ要ス

一〇一二 三月二日

内田外務大臣ヨリ  
在浦潮菊池政務部長宛(電報)

チタ政府ノ予定セル薩哈噠州執政官派遣ハ我占  
領軍ノ権力ト相容レザル旨ヲ先方ニ申入方訓令

ノ件

附記一 陸軍トノ協議案

亜港ニ派遣セラルヘキ極東共和国執政官ニ関ス  
ル件

二 陸軍当局ガ薩哈噠州派遣軍參謀ニ与フル注意

第三八号

在亜港松村ノ得タル情報ニ依レハ「チタ」政府ハ今春解氷  
期ニ至リ同地ニ薩哈噠州執政官ナルモノヲ派遣スル由ナル  
処右ハ我占領軍ノ権力ト相容レサルニ付貴官ハ「ツェット  
リン」ニ対シ右ノ趣ヲ説示シ万一之ヲ派遣シ行政ヲ行ハシ  
メムトセハ必ず不愉快ナル衝突アルヘキヲ懇談のニ注意シ

置カレタシ

(附記一)

陸軍トノ協議案(三月二日済)

亜港ニ派遣セラルベキ極東共和国執政官ニ関スル件

帝國政府ハ本件ニ対シ左記三段ノ措置ヲ採ルベキコト

一、在浦潮菊池政務部長ヲシテ同地「チタ」政府外交代表者「ツェットリン」ニ対シ亜港ニ極東共和国執政官派遣ノ噂アル処右ハ我占領軍ノ權力ト相容レザル旨ヲ説示シ万一之ヲ派遣シ行政ヲ行ハシメムトセバ必ず不愉快ナル衝突アルベキヲ懇談的ニ注意セシムルコト

二、右ニモ不拘執政官亜港ニ来着スル時ハ之ニ対シ我軍政ト相容レザル行動ヲ採ルコトヲ許サザル旨懇切ニ説諭スルコト

三、右説論ニ服セザルカ又ハ密ニ我軍政ト相容レザル行動ヲ為スノ懼アルトキハ軍律ニ依リテ之ヲ処分スルコト

(附記二)

陸軍当局ガ薩哈噠州派遣軍參謀ニ与フル注意

(三月二日外務省ヲ接受)

一、帝國政府ハ知多政權ヲ政府トシテ認メアラス然レトモ

対岸ノ状況報告ノ件

本件ニ関シテハ前ニ拙信第一号及拙電第一、二号ヲ以テ大要報告致置候処更ニ其ノ後ノ状況別記概略及報告候間御覽相成度此段申進候

敬具

(別紙)

対岸ノ状況

「ウドスキー」郡行政部長「ウォストコフ」ハ本名ヲ「アナトリ、ミハイロウイチ、フォミン」ト言ヒ先年彼ノ「バルチザン」首領「トリヤピーツィン」カ「ポリシエ、ミハイロフスカヤ」村「ノーワヤ、フェルコ」区ニ侵入シ来ル迄ハ学校教師ノ職ニ在リ「トリヤピーツィン」ノ来着ト共ニ「バルチザン」隊ニ入りテ一部ノ隊長トナリ「クリフリン」ナル者ト共ニ「バルチザン」隊ヲ率ヒテ薩哈噠島ニ来リ当地方ニ於テ權力ヲ擅ニセリ、其ノ後「ハバロフスク」ニ赴キテ「ウォストコフ」ト改称シ前記代表者トナリシ者ニシテ今ヤ「マリンスク」ニ在リテ「ウドスキー」郡ニ命令シツツ在リ、最近尼港ヨリ得タル情報ニ依レハ「本年二月十一日」「ポリシエ、ミハイロフスコエ」安全會書記「シ

露国ニ対スル私人ノ通商ハ今日迄禁シアラス又知多ニハ最近特務機關トシテ若干ノ我將校ヲ派遣シタルモ其目的ハ単ニ該方面ノ状況ヲ視察セシムルニアリ尚将来外交及政策ニ関スル件ヲ処理セシムル為メ非公式ナル代表的文官ヲ派遣セラルコトアルヘシ

一、軍ノ占領地域内ニ於テハ知多政權ノ代表者ナルモノヲ認メス

一、軍ノ占領地域内ニ於ケル黒竜江航行船舶ノ取締ニ就テハ從來ノ慣行、旧規ヲ尊重シテ実施スヘク安寧秩序ノ維持上等特別ノ必要ナキ限り干涉ニ過キササルヲ可トス

一〇一三 三月十日

松村総領事(亜港出張中) ヨリ  
内田外務大臣宛

アレクサンドロフスクノ対岸ウドスキー郡ノ

状況ニ関シ報告ノ件

公第七号

(四月四日接受)

大正十年三月十日

在アレクサンドロフスク

総領事 松村 貞雄(印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

ヨボ」ハ「ウォストコフ」ト電話ニ依リテ大要左記ノ如キ談話ヲ交換シタリト云フ、

「ウ」曰ク「ハバロフスク」市並ニ同市ヨリ「マリンスク」ニ至ル途中ニ於テ余ノ得タル情報ニ依リ「ウドスキー」郡ノ行政ハ一部貴會ノ掌握スル所ナルヲ知レリ貴會ノ為シタル事業ハ大体ニ於テ余カ「ウドスキー」郡ニ関シ任務トセル事業ト大差ナキヲ認ム、然レトモ中央政府タル「ハバロフスク」ト「ウドスキー」郡トノ間ニ生セル關係状態ニ就キテ云ハンニ「ウドスキー」郡ニ於ケル現行政治ト「ハバロフスク」官憲代表者トノ間ニ意志ノ阻隔及私怨アルモノノ如ク觀察セラルルヲ以テ宜シク更ニ事業綱領ヲ調査シ具体的ニ不一致点ヲ闡明スルノ要アリ余ハ特ニ本件ニ関シ各方面ヨリ干与スヘシ、村委員會ハ極東共和国ノ法規ニ依リ之ヲ組織スヘシ、学校事業ニ付テハ貴會ノ施設見ルヘキモノナシ、教育事業ニ関シテハ目下中央政府ニ於テ立案中ナリ、医療並ニ衛生事業ハ等閑ニ附スヲ許サス、極端ナル政治的行為ハ左党タルト右党タルヲ問ハス政府ニ於テ之ヲ犯罪行為ト見做シ絶對ニ禁止ス、凡テ首領連ハ之ヲ放逐シ部下ノ徒輩ハ之ヲ各所ニ分離シ兵役ニ服セシム、自

衛軍ハ各地方ニ組織セラレタルモノナルカ「ウドスキ」郡ニ於テモ自衛ノ為スル組織ヲ見シコトヲ希望ス、統一セル極東ノ政治ハ知多中央政府ヨリ出ツ、貴会ハ行政区画ニ考量シ政治ヲ行フヲ要ス、從來「ウドスキ」郡ハ薩哈噠州ノ一部ナリシモ同郡ハ今回沿黒竜江州ニ編入セラレ同郡ニ日本軍駐在スルト否トヲ問ハス「イマンスキー」「ニコリスキー」及「オリギンスキー」諸郡ニ於ケルカ如ク露国民政ニ服従スヘキモノトス、外人ニ關スル問題ハ凡テ中央政府ニ於テ之ヲ解決ス、日本軍ト露國人トノ關係ニ於テ無謀ノ拳アルハ特ニ宜シカラス、本問題ハ事頗ル重大ナルカ故ニ吾人ハ統一平和及内乱ノ防正ニ全力ヲ尽シ一定ノ協商ニ入ル時アルヲ信ス貴会ハ此趣旨ヲ以テ行動セラルヘシ

「シ」曰ク貴見尤モナリ、然レトモ之ハ吾人ノ力ノ及フ処ニアラス吾人ハ正當ノ行為ヲ以テ干涉ノ下ニ生活シ行クコトヲ考ヘ又吾人ノ生活ノ窮境ヲモ顧ミ之カ救済ニ努メサル可カラス余ノ私見ハ政府ノ法律ニ基キ地方行政ヲ行フハ住民ノ贊成スル所ナルモ本問題ニ關シテハ憲法會議ノ決定ヲ待チテ之ヲ施行シ又日本軍トノ關係解決迄ハ「ウドスキ

」郡ニハ民兵ヲ派遣セサルヲ良トスト思惟ス「ウ」曰ク民兵ニ關シテハ貴会ニ説明スルヲ要ス、本問題ノ解決ハ吾人カ国家主義者ニシテ無政府主義者ニ非サルカ故ニ政府主腦機關ヲ經テ之ヲ行フヲ要ス、然レトモ民兵ニ就テハ既ニ日本軍ト露国政府トノ間ニ協定アリ、露国官憲ハ該協定ニ基キ浦潮「ニコリス」及「イマン」ニ民兵ヲ駐在セシメ居レリ、他ノ地方ニ於テモ今後同シク地方良民ヨリ民兵ヲ組織スル方針ナリ

一〇一四 三月十二日

在浦潮菊池政務部長ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

チタ政府ノ薩哈噠州執政官派遣ハ我占領軍ノ  
権力ト相容レザル旨外交委員ニ申入済ノ件

第一四四号

(三月十三日接受)

貴電第三八号ニ関シ

外交委員「ツェットリン」病氣ノタメ会見スル能ハザリシ  
処三月十二日漸ク会見ノ機ヲ得御来示ノ趣旨ヲ伝ヘタル処  
同人ハ知多政府ニ至リ旧薩哈噠州ハ廢止セラレ同州ノ大陸  
ニ存スル部分ハ沿黒竜州ノ管内ニ入り已ニ沿黒竜執政官ノ  
治下ニアリ樺太島北部ニ對スル執政官派遣ニ關シテハ自分

ニ於テ何等承知スル処無シト言ヒ余ハ從來在北樺太日本軍  
憲ハ露国官憲ノ存在ヲ認ムルモノノ如ク解シ居リシ処今回  
ノ御話ニ拠レバ日本政府ハ露国官憲ノ職務執行ヲ許サザル  
儀ニシテ即チ併合ト解スベキヤト反問セルニ付本官ハ右ハ  
軍事占領ヨリ生ズル止ムヲ得ザル結果ニシテ併合ニハ非ズ  
ト思考スト答ヘタルニ御話ノ趣旨ハ早速知多政府ニ伝達ス  
ベシト語レリ

一〇一五 三月二十二日

松村総領事(亜港出張中)ヨリ  
内田外務大臣宛

薩哈噠州派遣日本軍近ク尼港等ノ要地附近ニ

駐兵シ民政ヲ実施スル旨布告ノ件

附屬書 三月二十一日附薩哈噠州派遣軍司令官布告

公第十号

(四月九日接受)

大正十年三月二十二日

在アレクサンドロフスク

総領事 松村 貞雄(印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

対岸占領地方駐兵布告ノ件

知多政府成立後対岸地方ハ新沿黒竜州内ニ編入セラレ過激

一一 薩哈噠州占領地域施政關係一件 一〇一五

派ノ治下ニ移リタルト我軍ノ駐屯ノ確否不明ナルトノ為近  
来民心不安ヲ感シ居ルヤノ情報アリ取急キ当方ノ意思ヲ明  
示スルノ必要相生シ過般駐兵布告ニ関シ軍司令官ヨリ陸軍  
省ニ經伺ノ上別紙布告文ヲ作成シ露訳文ト共ニ三月二十一  
日付之ヲ対岸要地ニ揭示スル事ト相成候右ハ經伺當時已ニ  
陸軍側ヨリ協議ニ接セラレ已ニ御承知ノ事トハ存セラレ候  
得共為念及御送付候尚派遣軍ニ於テハ「マリンスク」ノ現  
狀ニ鑑ミ之ヲ占領地点ニ入ルルヲ適當ナリト認メ原案ニ加  
ヘタルモ陸軍省ヨリ削除ヲ命セラレタル趣ニ有之候此段申  
進候

敬具

(附屬書)

薩哈噠州派遣軍司令官布告

布 告

日本帝國政府ハ将来露国ニ正當政府樹立セラレ尼港虐殺事  
件ノ満足ナル解決ヲ見ルニ至ル迄薩哈噠州内ノ要地ヲ占領  
スヘキコトニ關シテハ昨年既ニ声明セシ所ナリ此主旨ニ基  
キ日本薩哈噠州派遣軍ハ近ク尼港泥港(註)「マゴ」「ソフィス  
ク」等ノ要地附近ニ駐兵シ民政ヲ實施シ以テ同地方全体ノ  
安寧秩序ヲ維持セムトス民衆克ク其意ヲ体シ各々其業ニ安

シ適從スル所ヲ謬ルコトナレ

大正十年三月二十一日

薩哈噠州派遣軍司令官

児島惣次郎

註 泥港トハ「デカストリー」ノコトナリ

一〇一六 三月二十五日

山梨陸軍次官ヨリ  
埴原外務次官宛

薩哈噠州占領地域内ニ於ケル鉱業既得権ニ関

シ照会ノ件

陸軍省送達西密第三九号

大正十年三月二十五日

陸軍次官 山梨 半造 (印)

外務次官 埴原 正直殿

薩哈噠州占領地施政方針ニ関シテハ大正九年七月二十七日閣議決定致シ占領地域ニ於ケル露西亜人及外国人ノ既得権ハ力メテ之ヲ尊重スルコトト相成居候ニ就テハ鉱業既得権ハ樺太ノ鉱業台帳ニ登録シアルモノノ内帝政及「ケレンスキー」時代ノモノニ限り認可シ其ノ以後ノ分ハ之ヲ認めズ新ニ軍ニテ許可スル形式トシ其ノ適當ナルモノニ対シテハ

一〇一八 四月二日

埴原外務次官ヨリ  
山梨陸軍次官宛

薩哈噠州占領地域内鉱業既得権ニ関シ異存ナ

キ旨回答ノ件

機密送第三九号

薩哈噠州占領地域内鉱業既得権ノ件

本件ニ関シ去月二十五日附西密第三九号ヲ以テ御照会ノ趣当省ニ於テ異存無之候条右様御了承相成度此段及回答候也

一〇一九 四月九日

松村総領事(亜港出張中)ヨリ  
内田外務大臣宛

アレクサンドロフスクノ対岸黒竜江流域ノ事

情報報告ノ件

公第一三三号

(四月二十五日接受)

大正十年四月九日

在アレクサンドロフスク

総領事 松村 貞雄 (印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

対岸事情報告ノ件

最近当地ニ達シタル情報ニヨレハ遠カラズ我軍隊ヲ駐屯セ

一一一 薩哈噠州占領地域施政關係一件 一〇一八 一〇一九

特別ノ優先權ヲ認ムルコトト致度此段及照会候也

註 七月二十七日ノ閣議決定ニ付テハ日本外交文書大正九年第一

冊下巻八〇九頁第六六三文書(一)參看

一〇一七 三月二十五日

在浦潮菊池政務部長ヨリ  
内田外務大臣宛

尼港ソフィスク方面ヘノ日本軍出動ノ報道ニ

関シ外務省ノ注意喚起方チタ側ヨリ申出ノ件

機密軍政送第三一号

大正十年三月二十五日

浦潮派遣軍政務部長 菊池 義郎 (印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

ニコライエフスク方面出兵ニ関スル件

三月二十五日「コゼウニコフ」ハ最近ノ国際通信ニ拠レバ日本陸軍省ハ目下北樺太ニ在ル軍隊ヲ解氷ト共ニ「ニコライエフスク」「マーゴ」「ソフィースク」方面ニ移動セシムルコトナリ居レル趣ノ処右ハ果シテ事実ナリトセバ痛ク露国民ノ神經ヲ刺戟シ頗ル好マシカラザル結果ヲ来スベシト思考スルニ付右ニ対シ日本外務省ノ注意ヲ喚起シタシト申出候間右様御了承相成度此段及報告候

敬具

シムヘキ「ソフィースク」ノ上流約六十基米ナル「キセリヨフカ」村ニ過般通称「クッパ」ナル「バルチザン」派ノ一首領来リ電話ヲ以テ「ポリシエ、ミハイロフスク」村会「ソフィースク」ノ下流約百四十基米ニ在リ」ニ不日其地ニ赴クヘキ旨ヲ通知シ来リ住民ハ恐怖ヲ感シ居レリト云フ、右「クッパ」ナル者ハ元尼港ヲ荒シタル「バルチザン」ノ一隊長タリシ「ボルゾフ」ト称セルモノニテ現今「キセリヨフカ」村ノ内奥ニアル「コレテミヤノフカ」及「レワシヨフ」鉱山ニ在リテ「バルチザン」隊ヲ組織シ居ルカ如シト云フ、又同一情報ニ依レハ「アムグン、ケルビンスキー」郡ニ於テハ三月一日付ヲ以テ極東共和国軍司令官「エイヘ」「アムグン、ケルビンスキー」管区指揮官「ボチエフ」軍事委員「ソローキン」ノ名ニ於テ一軍令ヲ発シ十八才以上三十五才以下ノ男子ヲ徵集シ兵役ニ就カシムルコトナリ命ニ応セサルモノハ逃亡者トシテ敵罰スル由ナルモ「アムグン」河下流ノ住民命ヲ奉セサルヲ以テ「ケルビ」市ヨリ「バルチザン」兵ヲ各村落ニ派シ前記動員令ノ徹底ヲ期シ居レリト云フ、右及報告候

敬具

薩哈噠州占領地域施政關係一件 一〇二〇

一〇二〇 四月十五日 松村総領事(亜港出張中)ヨリ  
内田外務大臣宛

アムダン河流域事情ニ関シ報告ノ件

附属書 アムグン流域略図

公第一五号

(四月二十五日接受)

大正十年四月十五日

在アレクサンドロフスク

総領事 松村 貞雄（印）

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

對岸黒竜江流域ノ事情ニ関シテハ三月十日付公第七号及本月九日付公第一三号拙信ヲ以テ概報致置候処旧薩哈噠州中ノ金産地ニシテ且ツ「バルチザン」派ノ残存地タル「アムグン」流域ニ於ケル事情甚タ明瞭ナラサルモ對岸方面ヨリノ情報ニヨレハ「ケルビ」地方ハ糧食甚タシク缺乏シ麦粉ノ如キハ漸ク三月中ヲ支ユルニ過キサル由ニテ「アムグン」河下流地方ヨリ糧食ヲ運搬セントスルモ住民命ニ服セス当局ハ大イニ煩悶セルモノノ如シ、尚ホ三月十日「アムグン、ケルビンスキー」管区司令官「ボチエフ」同兵事委員「ソローキン」ノ名ヲ以テ「アムグン、ケルビンスキー」

「」区行政長官「ボロヅジチ」及各村代表者ニ与ヘタル左記命令過般尼港行政委員ニ電報ヲ以テ傳達シ來リタル由ニ有之候

一、馬櫓ハ之レヲ留置シ他人ニ渡スヘカラス又日本軍ハ決シテ住民ヲ保護スルモノニ非サル事ヲ住民ニ警告スヘシ、武器ヲ有スル住民ヲ急速動員シ「クニヤゼフカ」「セルゲ、ミハエロフスク」「ウヂンスク」「グーギ」間ノ連絡ヲ安全ニスヘシ、重要ナル情報ハ速カニ特使ヲ以テ通報シ違反者ハ之レヲ戰時軍事裁判ニ附スヘシ、郵便連絡ノ為貴官ノ考量ヲ以テ馬ノ徵発ヲナスヘシ、本命令並ニ貴官ノ発スル命令ヲ遵守セサル者ハ之ヲ逮捕スヘシ、然レトモ体刑ニ処スヘカラス、尚ホ之レニ服セサル時ハ其ノ旨直チニ本官ニ通知スヘシ、本官ハ直チニ嚴罰ニ処スルノ方法ヲ採ルヘシ、必要ナル場合ハ本官自ら軍隊ヲ率イテ出動スヘシ

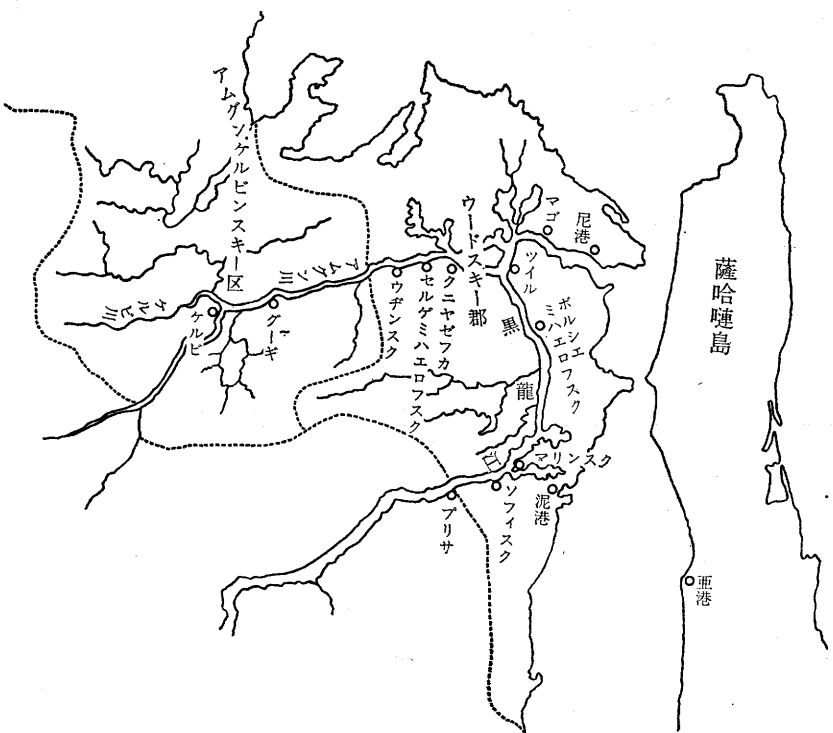
一、各村落執行委員會代表者諸氏ハ宜シク本官ノ補助官「ボロツジチ」ヲ歡迎シ凡テ同官ノ請求アル時ハ仮令日本人ニ對スル積極的行動ナリト雖直チニ之レニ応スヘシ、各村電話局員ハ各村長ニ前記ノ趣ヲ周知セシムヘシ別紙略圖相添ヘ右概要及報告候

敬具

敬具

(別紙)

アムグン流域略図



一〇一一 五月五日 松村総領事(亜港出張中) ヨリ  
内田外務大臣宛

アレクサンドロフスク対岸地区ノ駐兵及施政  
区域ニ関シ委細垂示方稟請ノ件

機密第四号

(五月十七日接受)

大正十年五月五日

在亜港

総領事 松村 貞雄(印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

対岸占領地方駐兵ニ関シテハ前ニ三月二十二日付往信公第二十号ヲ以テ申進候通り尼港、泥港、「ソフィスク」「マゴ」等ノ要地附近ニ駐兵シ民政ヲ施行スル旨政府ノ認可ヲ經、派遣軍司令官ノ名ヲ以テ一般ニ対シ布告相成尋デ四月十九日往電第十号稟報ノ通り同十八日ヲ以テ第一着トシテ兵員、參謀及軍政兩部員ヲ泥港ニ派シ同地方其他南部駐兵及施政ノ準備行為ヲナサシメ追テ建築其他ノ設備遂行ト共ニ漸次兵員及施政職員ヲ増派スベク尼港其他北部ノ駐兵及施政ニ関シテハ黑竜江下流ノ航路開始ヲ俟テ夫々直チニ実施

セラルベキ筈ニ有之候然ルニ右布告ニハ『尼港、泥港「ソフィスク」「マゴ」等ノ要地附近』トアリテ右ハ四地方其他ノ要地及其附近ト解スルモノト思考セラレ随テ時宜ニヨリテハ四地方ノ外、用兵上ノ必要ト認ムル地ニ駐兵スルハ勿論軍政署ノ管轄区域ノ如キモ漁業、林業、鉱業其他ノ事業、住民ノ救恤保護等ノ実施上自然大体ニ於テ黑竜江及海灣線ヲ以テ劃シ四要地ヲ包容スル地域全部ニ及ブコトアルベキハ已ムヲ得ザル帰結ニ有之候処此等ニ関スル政府ノ御方針ニ付テハ未ダ何等承知シ居ラズ唯施政ニ関スル大体ニ付テハ大正九年七月十六日陸軍省訓令薩哈噠州占領地施政方針ニ拠ルベク思考セラルルモ同訓令中施政地域ニ関シテハ「二、民政施行ノ地域ハ地方ノ情況ニ鑑ミ我經濟發展ノ必要ヲ顧慮シ適宜之ヲ定メ云々」ト有之漠然トシテ伸縮自在ナルガ如ク定メアリテ施政区域ハ専ラ派遣軍司令官ニ一任セルモノト解セラルルモ果シテ右様心得可然哉相惑居候前記諸点ニ関シテハ前ニ駐兵布告ニ対スル認可ヲ与ヘラルル際政府ニ於テ已ニ詳細御研究御決定相成居候儀ト存ゼラレ候ニ付テハ執務上心得迄ニ右委曲御垂示相成度此段及稟請候

敬具

一〇一二 五月六日 閣議決定

薩哈噠州産業ニ関スル請議案ノ件

薩哈噠州占領地域ニ於ケル産業中山林及鉱山(石油及石炭ヲ除ク)ノ管理ニ関シテハ露国従来ノ施政ヲ繼承シテ左ノ通り実施スルコトト致度

- 一、占領地域内ニ於ケル森林ノ伐採許可及鉱山ノ試掘採掘ノ出願ニ対シ軍司令官ハ充分其ノ資格ヲ審査シ大正九年七月二十七日閣議決定ノ主旨ニ基キ適當ト認メタルモノニ別記条件ノ下ニ其ノ許可ヲ与フルコト
- 二、前項ノ出願アル場合ニ於テ実施ノ必要ヲ認メタル時森林及鉱山ノ調査管理ヲ実施スルコト
- 三、占領終了後其ノ企業ヲ中止スルノ止ムヲ得サルニ至リ当業者ノ損害ヲ受クヘキ場合アルモ政府ハ之ヲ賠償スルノ責ニ任セサルコト
- 四、以上ノ処理ニ要スル經費ハ臨時軍事費ヨリ支弁スルコト

五、森林事業費及鉱山調査費ニ付テハ特ニ支出ノ決定ヲ得タル費額ノ範圍内ニ於テ之ヲ実施スルコト

一一一 薩哈噠州占領地域施政關係一件 一〇一二

(別紙)

森林伐採許可ニ関スル条件

- 一、伐採許可ニ当リテハ許可スヘキ伐採量ノ原木価額ニ相当スル金額ヲ料金トシテ前納セシムル外年期伐採ニ付テハ特ニ保証金トシテ年期間ノ伐採許可総量ノ価額ノ一割ヲ予納セシムルコト
- 二、国土保安上及森林ノ保続並改善上必要ナル施業方法ヲ指定シ厳格ニ遵守セシメ之カ違反ニ対シテハ相當ノ制裁ヲ設クルコト
- 三、伐採期間中ト雖外交關係、公用公益ノ為其ノ他已ムヲ得サル事由アルトキハ許可ヲ取消シ伐採ヲ停止スルコト
- 四、前項ノ場合ニ於テハ既納料金ノ中伐採未了ノ立木原木ノ価額ニ相当スル金額ヲ還付スルノ外一切損害賠償ノ責ニ任セサルコト

(欄外註記)

右一ノ点ニ関シテハ左ノ註記アリ

「原木価額ハ最近知多政權ニ於テ定メタルモノ及南樺太ノ例ニ則リ之ヲ定ム」

尚「鉱山(石油石炭ヲ除ク)ニ関シテハ当分管理ニ必要ナル調



一二 薩哈噠州占領地域施政關係一件 一〇三三 一〇三四  
查ノミニ止ム」トセラレタリ

一〇三三 五月二十五日 薩哈噠州派遣軍參謀長ヨリ  
陸軍次官宛(電報)

チタ政府ガ尼港附近及黑竜江右岸地帯ニ統治  
権ヲ及ボサントスル計画ニ関スル我軍ノ対策

報告ノ件

薩參二五七

(五月二十八日外務省写接受)

諸種ノ情報ヲ綜合スルニ知多政府ハ曩ニ州郡境界變更ニ依  
リ尼港附近並黑竜江右岸地帯ハ尼港事件ニ関スル日本政府  
声明ノ薩哈噠州要地占領地域ニ屬セサル如ク取計ヒ此ノ地  
域ニ統治権ヲ及ボサントスル計画ノ如ク少クモ日本ノ抗議  
又ハ強制撤退ニ遭遇スル迄之ヲ固執シ此ノ複雑ナル關係ノ  
間ニ幾分ニテモ有利ノ口実材料ヲ得ントスルモノノ如ク目  
下我ニ先ンシ行政官ヲ派シ行政ノ実ヲ示シ又ハ宣伝ニ利用  
セントシ哈府方面ヨリ官吏軍隊及民警等ヲ下航セシメアル  
モノト判断ス故ニ或ハ出先キニ於テハ一時ハ同シク多少睨  
合ヒノ形トナリ稍面倒ノ關係ヲ生スト思惟ス軍ハ速ニ要地  
占領ヲ急ギ彼等ト接触スルニ努メ万一相對峙スルニ至ラハ  
正當ノ理由ヲ説明シ先ツ穩和手段ヲ以テ彼等任意撤退ノ勸

ハバロフスク州政府當局ヲシテ我軍ノソフィ

スク方面占領ノ事情及意向ヲ了解セシムル様

取計方松村總領事ヨリ稟請ノ件

松村ヨリ

第二二號

(六月四日接受)

本月二十九日平穩裏ニ「ソフィスク」占領、当方面間宮海  
峽ニ大氷現出ノ為四、五日遅ルコトナレリ「マリンスク」郡行政部長「オストコフ」アリテ行政権ヲ行ヒ民兵  
若干アリ「ソフィスク」ニハ民兵五十許駐屯ス軍司令部ハ  
「マリンスク」出張武官及「ソフィスク」守備隊長ヲシテ  
是等ニ対シ努メテ穩便ニ接触シ今回我占領ノ事情ヲ説得シ  
可成彼等ヲシテ自發的ニ行政権ヲ抛棄セシムル様努力セシ  
メツツアリ他ノ役員及住民ハ喜ンテ我軍ニ服セル処二十九  
日在哈府「コミッサル」「ミレエフ」ハ「オストコフ」ニ  
対シ日本軍ノ占領ヲ極東共和国ノ内政ニ干渉スルモノナル  
ニ付極力之ヲ排斥スヘク住民ニ対シテハ日本軍ノ命ニ服従  
セサル様命令スヘキ旨電命アリ

松村ヨリ

第二二號(右第二一號ノ続キ)

一二 薩哈噠州占領地域施政關係一件 一〇三六

一〇三五

一〇七六

告ニ努メ止ムヲ得ザルニ至リ之ヲ強制スルノ途ニ出デント  
ス右報告ス

之ニ関シ必要ノ指示アラハ予メ承知シ度シ

(東京、浦潮濟)

一〇二四 五月二十八日

薩哈噠州派遣軍參謀長ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

我軍ノマリンスクニ港等占領ニ関シ松村總領

事ヨリ報告ノ件

松村ヨリ

第二二〇號

二十七日午後六時我軍無事「マリンスク」ニ入ル一部ハ  
「ソフィスク」守備兵ナルモ「ボコラ」「ソフィスク」間  
通路無キ為同地ヲ經テ水路ニ依ル又中佐ノ率イル約一大隊  
建築班軍医部員等本月三十日当地出發第三水雷艇隊ト共同  
シテ「ニコライエフスク」占領ヲ實施シ次テ「マゴ」占領  
ヲ行フ筈

一〇二五 五月三十一日

薩哈噠州派遣軍參謀長ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

越エテ三十日「オストコフ」ヨリ自分ハ「バルチザン」ナ  
ルヲ以テ哈府又ハ占領地域外ニ退去シ度キ旨電請セシニ  
「ミレエフ」ハ知多政府ヨリ日本政府ニ質問シ占領ニ関ス  
ル事情ヲ明ニスル迄依然共和政府代表者トシテ現状ヲ維持  
スヘキ旨返電アリ哈府州政府ノ態度頗ル強硬ナリ就テハ当  
方ハ勉メテ穩便ニ折衝シツツアルモ先方飽迄頑冥ニ反抗ヲ  
繼續スル時ハ終ニハ高压手段ニ出ヅルノ止ムヲ得ザルニ至  
ルベキヲ憂慮ス若シ哈府當局ヲシテ速ニ我カ占領ノ事情及  
意向ヲ了解セシムル機会アラバ何分ノ御取計ヲ請フ

一〇二六 五月三十一日

薩哈噠州派遣軍參謀長ヨリ  
參謀次長宛(電報)

マリンスク方面ノ情報等報告ノ件

薩參第二八一號

(六月三日外務省写接受)

一、三十日ラザレフ岬附近一帯ニ氷原アリ水雷戰隊モ本日  
尼港ニ進出スルヲ得ズ航路標識ノ完成ハ早クモ六月三、  
四日頃トナルベシ

二、在「マリンスク」「オストコフ」ノ去就ニ関シテハ在  
哈府ノ「ミレエフ」ヨリ「チタ」政府ニ情況ヲ報告シ  
該政府ヨリ同地政府及浦潮日本官憲ニ質問ヲ發シ占領ニ

一〇七七

一二 薩哈噠州占領地域施政關係一件 一〇二七 一〇二八

関スル事情ヲ明ニシ得ル迄其政府ノ代表者トシテ現在地ニ駐在シ民警モ当分現狀ヲ維持セントスルモノノ如シ然ルヘク配慮ヲ希フ

三、三十日約五十名ノ民警「マリンスク」ニ到着セリ

(次長、次官、浦潮濟ミ)

一〇二七 六月二日

陸軍次官ヨリ  
薩哈噠州派遣軍參謀長宛(電報)

尼港附近並黑竜江右岸地帯ニチタ政府行政官

等進入ニ関シ回訓ノ件

薩參二五七返

軍占領地域ニ知多政府行政官等進入ニ対スル処置貴見ノ通、我軍ノ占領地域ハ占領聲明當時ノ行政管区ニ拠ルヘキモノニシテ知多政府ノ行ヘル州郡境界ノ變更ニ關係ナシ従ッテ該政府目下ノ行為ニ対シテハ当然抗議ヲ要スルモ貴軍中央部若クハ浦潮派遣軍ノ何レヨリモ之ヲ直接知多政府ニ交渉スルコトハ尼港事件ノ解決ヲモ知多政府ヲ對手ニ交渉スルモノト解セラルルノ嫌ナキニアラズ依ッテ本問題ハ当分努メテ出先ノ事件トシテ貴軍力對手方出先ノ者ト折衝スルニ止ムルヲ可トスル意見ニ付為念

ニ至ルベシト存ゼラル

一〇二九 六月三日

薩哈噠州派遣軍參謀長ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

第三戰隊ノ一部ニコライエフスクニ到着ノ件

松村ヨリ

第二四号

(六月六日接受)

往電第二〇号ニ関シ

第三戰隊ノ一部六月一日朝無事「ニコライエフスク」ニ入ル住民大ニ安堵セル様子過般来氷ノタメ出發ヲ見合セ居タル守備隊其他愈々本二日出發ス第六驅逐隊本日「ニコライエフスク」着四日頃「マリンスク」ニ遡江ノ筈ナリ

一〇三〇 六月四日

在米國幣原大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

尼港邦人虐殺ニ依ル我軍ノ薩哈噠州要地占領

ニ対シ米國政府抗議ノ件

別電

同日幣原大使宛内田外務大臣宛電報第三二一三号

右抗議電書写

第三二二号(極秘)

(六月六日接受)

六月三日國務長官ノ招ニ応シテ往訪シタル処同官ハ先ツ米

二一 薩哈噠州占領地域施政關係一件 一〇二九 一〇三〇

一〇七八

一〇二八 六月三日

薩哈噠州派遣軍參謀長ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

ハバロフスク州政府ミレエフガウドスキー地方ノ行政權拋棄ヲ肯ゼザルニ付我方ハ強制手段ヲ執ルニ至ル虞アル旨報告ノ件

松村ヨリ

第二三号

(六月五日接受)

往電第二一号ニ関シ五月三十一日「オストコフ」ハ我が出張武官ヲ訪問シ在哈府「ミレエフ」ノ回答書ヲ交付セリ其ノ要旨左ノ如シ

「日本軍ノ通告ハ極東共和国政府ニ報告シ不当ナル通告ニ対シ東京政府ニ抗議スベシ日本政府ハ極東共和国ノ成立ニ際シ昨年ノ宣言ヲ繰返サザルハ勿論具体的ニ不承認ヲ宣言セズシテ寧ロ日本政府及其ノ代表者ハ極東共和国及其ノ代表者トノ間ニ国内各地ニ於テ外交的協議ヲナシツツアリ依テ「ウドスキー」地方行政モ兩國政府間ニ於テ別ニ解決スル迄ハ従前ノ通り施行スベシ」

我レハ引続キ穩和的ニ撤退或ハ行政權放棄ヲ懇諭シツツアルモ結局「オストコフ」及民警ヲ強制退去スル外致方無キ

國政府カ日本ト最モ親善ナル關係ヲ維持セントスル方針ナルコトヲ確言シ從テ兩國間ニ誤解ノ原因トナルヘキモノハ互ニ腹藏ナキ意見ノ交換ニ依リ速ニ之ヲ一掃スルノ必要ヲ認ムルコトヲ述ヘタル上西比利亞ノ形勢ニ談及シ日本軍ノ同地方ニ於ケル行動ハ当初日米兩國ノ協議ニ基キ出兵セル趣旨ト幾分背馳スル処アルガ如ク率直ニ言ヘハ米國政府ハ日本政府ガ成ルヘク速ニ全部撤兵ヲ断行セラレンコトヲ希望スルモノナルガ大体本問題ニ関スル米國政府ノ意見ハ茲ニ摘録シ置キタリトテ別電電書ヲ手交シ右ハ之ヲ世上ニ發表スルトキハ徒ニ人心ヲ刺戟シ時局ノ紛糾ヲ加フル虞アルニ付蔽ニ之ヲ機密ニ附シタキ考ナルコトヲ附言シ尙最近接手セル電報ニ依レバ日本陸軍省ハ米國大使館附陸軍武官ニ対シ五月末「セメノフ」カ將校二名ヲ率キ多量ノ武器彈藥ヲ携帯シテ旅順出發浦潮ニ入りタル旨通報シタル趣ナルガ日本ノ法權下ニ在ル地域内ニ於テ露國人カ其ノ本国ノ内争ヲ画策準備スル根拠地トスルコトヲ認容セラレタルコトハ如何ナル理由ニ依ルヤ諒解シ難シト述ヘタリ

本使ハ之ニ答ヘ右電書ハ長文ナルカ故ニ追テ歸館ノ上篤ト閱読スヘク其上ニテ意見ヲ述フルコトアルベキモ國務長官

一〇七九

ガ口頭ニテ述べタル処ニ對シテハ不取敢本使ノ承知スル限り一応ノ事情ヲ説明スヘシト云ヒ

一、日米兩國ノ西比利亞出兵ハ兩國政府ノ協議ニ基クコト事實ナルモ米國ハ其後日本ニ何等ノ予告ヲサヘ与ヘズシテ單獨ニ撤兵ヲ決行シ日本軍ヲシテ極メテ困難ナル地位ニ陥レタリ日本政府ハ本件出兵カ兩國政府ノ協議ニ依ル以上撤兵モ亦同一ノ手続ニ依ルヘキコト当然ノ事理ナルコトヲ信シ當時ノ國務長官「ランシング」ニ之ヲ指摘シタルガ同氏ハ米國內部ノ事情ニ徴シ急ニ撤兵ヲ決行スルノ已ムヲ得ザルモノアリタルコトヲ弁明シ日本ト協議ヲ遂グルノ暇ナカリシコトニ付テハ遺憾ノ意ヲ表シタル上尚本使ノ問ニ答ヘ今後西比利亞ニ於ケル日本軍ノ駐屯及増兵ニ對シテハ米國ニ於テ異議ナカルヘキコトヲ明言セリ

二、爾來日本ハ漸次「トランス、バイカル」州及「ハバロフ」地方ヨリ撤兵シタルガ之ト同時ニ我在留民ハ最早生命財産ノ保障ヲ受クルナキヲ以テ同地方ヲ撤退スルノ已ムナキニ至レリ之レ日本政府カ撤兵ヲ行フニ當リ常ニ考量ヲ加フルヲ要スル事情ニシテ殊ニ浦潮地方ノ如キ幾千ノ日本人カ多年間ノ努力ニ依リ築キ上ゲタル生活ノ根拠地ニ於テハ

日本在留民ヲ無保護ノ地位ニ放任シテ撤兵ヲ決行スルコト容易ノ術ニアラズ米國ト雖當國附近ノ方面ニ於テ同様ノ經驗ヲ有セラルルコトアルヘシ

三、日本軍ノ露領薩哈連占領ハ一般西比利亞ト全然事情ヲ異ニシ其ノ目的及性質ハ當時日本政府ノ声明セル通ナリ以上三点ノ趣旨ヲ述ヘタル上本使ハ北滿洲日本軍士官憲ノ行動ニ関スル過般國務長官ノ談話ハ直ニ日本政府ニ電報シ置キタルガ本日返電ニ接シタリトテ貴電第二二三号及第二二四号ヲ英訳説明シ支那及西比利亞地方ニハ絶エズ無根ノ風説流布セラルルニ鑑ミ我等ハ互ニ充分警戒ヲ加フルコトヲ要スベシト附言セリ國務長官ハ前記本使ノ述べタル第一点及第二点ニ付テハ思ヒ及バザリシモノノ如ク一々首肯シテ別ニ意見ヲ述べズ唯第三点ニ関シ薩哈連州ニ於ケル日本ノ報復手段ハ露國ノ主權ヲ尊重スルノ觀念ト兩立セサル所アリト云ヒ北滿洲日本軍士官憲ノ行動ニ至リテハ今回日本政府ノ説明ヲ得タルヲ喜ビ自分ハ毫モ日本政府ノ誠意ヲ疑フモノニアラズト雖出先ノ軍士官憲ガ往々政府ノ方針ニ反スル行動アルガ如ク感ゼラルルハ遺憾ナリトテ桌上ニアリタル浩辭ナル各種要録ヲ指シ自分ハ一々此種報道ヲ指摘ス

第三二三号 (六月六日、七日接受)

# MEMORANDUM

The Government of the United States has been apprised that the Japanese Government made on March 23rd, through the Ministry of War, a public statement to the effect that the Japanese command in Russian Saghalien, in accordance with the declaration of last year (presumably that of July 3, 1920), announcing the temporary military occupation of important districts in Saghalien, station troops in the near future in Nikolaievsk, Decastries, Mago, Sophiesk and other important districts to maintain peace and order in those localities by temporarily establishing a system of civil administration.

In addition this Government has been informed of the statement made by the Japanese War Office to the American Military Attaché, regarding the coup d'état attempted at Vladivostok on the night, March 31st,—only a few days after the announcement

ルノ意ナク又其内ニハ誤報ナキニアラザルモ事實トナリテ顯レタルモノモ渺カラズト語リ「セメノフ」今回ノ行動ノ如キモ日本軍士官憲ニ政府ノ承認ナク密ニ援助ヲ与ヘタル形跡アルヤノ口吻ヲ示シタルニ付本使ハ「セメノフ」ガ此際何等局面展回ノ計画ヲ為スモ到底久シキニ亘リテ成效スルノ望ナキコトハ我軍士官憲ニ於テモ能ク知悉スル所ナルヘク從テ斯ノ如ク成算ナキ計画ニ支援ヲ与フルコトアルヘキヲ想像シ難シト答ヘ國務長官ノ有セラルル報道ハ本使ノ參考迄ニ其ノ要領ナリトモ入手センコトヲ望ム旨ヲ述ベタルニ同官ハ稍々躊躇ノ上差支ナキ限リ寫ヲ送付スルコトヲ承認セリ

右同官ノ談話ニ徴スルニ我軍士官憲ノ行動ニ付テハ其ノ真相米國官憲ニ徹底セス我ニ不利ナル報道極東方面ヨリ続々國務省ニ到達スルモノノ如シ

別電ト共ニ各大使ヘ転電ス

## (別電)

六月四日在米國幣原大使宛内田外務大臣宛電報第三二三号  
日本軍ノ東部シベリア要地占領ニ對スル五月三十一日附米國政府ノ抗議覚書ヲ

above described,—and that Japanese troops would allow no further fighting in the zone occupied by them.

These declarations bring forward the correspondence which took place between the Governments of the United States and Japan in July and August last, regarding the action of the Japanese Government in occupying Nikolaievsk and the northern half of the island of Saghalien in reprisal for the affair at Nikolaievsk. They also fix attentions on the understanding of 1918, between the Governments of the United States and Japan, (which was for the purpose of assisting the Czech soldiers in Siberia), and the public statement of the Japanese Government of August, 1918, reaffirming its avowed purpose to respect the territorial integrity of Russia and to abstain from all interference in her internal affairs, and declaring again that upon the accomplishment of the objects of the undertaking for the aid

Government of the United States expected that the withdrawal of the American troops would be followed by a complete withdrawal of Japanese troops, if not very soon then at least within a reasonable period of time. Instead, Japanese troops were not withdrawn but additional extensive territory has been occupied by them.

A considerable portion of this territory is now being placed under a civil administration functioning under authority of the military occupation, lending to the occupation an appearance of permanence, and indicating a further encroachment upon Russian political and administrative rights. The Government of the United States would be untrue to the spirit of cooperation which led it, in the summer of 1918, upon an understanding with the Government of Japan, to despatch troops to Siberia, if it neglected to point out that, in its views, continued occupation of the strategic centers in Eastern Siberia, involving

of the Czechs, all Japanese troops would be withdrawn from Russian territory, leaving wholly unimpaired the sovereignty of (附) military or political.

Since this Government is a party to the understanding of 1918 and to the obligations to the people of Russia thereby implied, it feels it should in frankness make clear its views on those developments in Siberia which appear to it to be at variance with the spirit of that joint undertaking.

It will be recalled in this connection that the Government of the United States in January, 1920, issued orders for the complete evacuation of all American troops from Siberia, inasmuch as the mission of aiding the Czechs during their stay in Siberia had been practically fulfilled.

Before the first of June, 1920, all American troops had been withdrawn, and the evacuation of the Czechs was shortly thereafter accomplished. The

the indefinite possession of the port of Vladivostok, the stationing of troops at Khabarovsk, Nikolaievsk, Decastries, Mago, Sophiesk and other important points, the seizure of the Russian portion of Saghalien, and the establishment of a civil administration which inevitably lends itself to misconception and antagonism,—tends rather to increase than to allay the unrest and disorder in that region. The military occupation in reprisal for the Nikolaievsk affair is not fundamentally a question of the validity of procedure under the recognized rules of international law, nor of any redistribution of Russian administrative areas such as was referred to in the Japanese Embassy's memorandum of August 13, 1920, which in the case of Nikolaievsk (as this Government is informed) was adopted as a temporary measure for the convenience of the Russian Administrator.

The issue presented is that of the scrupulous fulfillment of the assurances given to the Russian

people, which were a matter of frank exchanges and of apparently complete understanding between the Governments of the United States and Japan. These assurances were intended by the Government of the United States to convey to the people of Russia a promise on the part of the two governments not to use the joint expedition, or any incidents which might arise out of it, as an occasion to occupy territory even temporarily or to assume any military or administrative control over the people of Siberia.

In view of its conviction that the course followed by the Government of Japan brings into question the very definite understanding concluded at the time troops were sent to Siberia, the Government of the United States must in candor explain its position and say to the Japanese Government that the Government of the United States can neither now nor hereafter recognize as valid any claims of titles arising out of the present occupation and control,

people, to be scrupulous to avoid inflicting what might appear to them a vicarious penalty for sporadic acts of unlawfulness, and above all to abstain from even the temporary and conditional impairment by any foreign power of the territorial status which, for them as for other peoples, is a matter of deep and sensitive national feeling transcending perhaps even the issues at stake among themselves.

Shidehara.

(右和訳文) (註 外務省係官ノ作成セル仮訳文ナリ)

五月三十一日附米國政府覽書写訳文

合衆國政府ハ日本政府カ三月二十三日陸軍省ヲ通シテ公表書ヲ發シ薩哈連州内重要地方ノ一時的軍事占領ヲ声明セル客年ノ宣言(一九二〇年七月三日ノ宣言ナルヘシ)ニ基キ露領薩哈連ニ於ケル日本軍司令官ハ近ク尼港「デカストリ」、「マゴ」、「ソフィスク」其他ノ要地ニ駐兵シ一時民政ヲ實施シ以テ同地方ノ安寧秩序ヲ維持スヘキ旨声明セル趣承知セリ尚合衆國政府ノ承知スル所ニ依レハ三月三十一日夜(即前頭声明ノ数日後)浦塩ニ於テ企圖セラレタル政変ニ関シ

and that it can not acquiesce in any action taken by the Government of Japan which might impair existing treaty rights, or the political or territorial integrity of Russia.

The Government of Japan will appreciate that in expressing its views the Government of the United States has no desire to impute to the Government of Japan motives or purposes other than those which have heretofore been so frankly avowed. The purpose of this Government is to inform the Japanese Government of its own conviction that in the present time of disorder in Russia, it is more than ever the duty of those who look forward to the tranquilization of the Russian people and a restoration of normal conditions among them, to avoid all action which might keep alive their antagonism and distrust towards outside political agencies. Now especially it is incumbent upon the friends of Russia to hold aloof from the domestic contentions of the Russian

日本陸軍省ハ米國陸軍武官ニ對シ日本軍ハ其占領地域内ニ於テ一切戰鬪行為ヲ許容セサルヘキ旨陳述シタル趣ナリ此等ノ宣言ハ尼港事件ノ復仇トシテ尼港並北部樺太ヲ占領シタル日本政府ノ行動ニ関シ客年七八月中日米兩國政府間ニ往復セラレタル文書ヲ想起セシメ且日米兩國政府間ノ一九一八年ノ了解(在西比利亞「チェック」軍ノ救援ヲ目的トセリ)並日本政府カ露國ノ領土保全ヲ尊重シ併セテ其ノ国内政策ニ干渉セサルノ既定主義ヲ声明スルト共ニ「チェック」救援ノ目的ヲ達成スルニ於テハ軍事上又ハ政治上露國主權ヲ何等毀損スルコトナク日本軍全部ヲ露國領土ヨリ撤退スヘキ旨宣言セル一九一八年八月ノ同政府ノ公表書ニ留意セシム

合衆國政府ハ一九一八年ノ了解並ニ其中ニ包含セル露國民ニ對スル責務ノ当事者ナルヲ以テ該共同約束ノ精神ト相扞格スルノ觀アル西比利亞ニ於ケル事態ノ發展ニ對シ率直ニ其ノ見解ヲ明ニセサルヘカラスト思考スルモノナリ

此点ニ関シ想起セラルルハ一九二〇年一月合衆國政府ハ西比利亞ニ於ケル「チェック」救援ノ任務實際上完了シタルヲ以テ西比利亞ヨリ米國軍隊全部撤退ノ訓令ヲ發シタルコ

ト之ナリ米軍ハ一九二〇年六月一日以前ニ全部撤退シ「チエック」軍ノ撤退ハ其後間モナク完了セリ合衆国政府ハ米軍ノ撤退ニ次キ即時ナラストモ相当期間内ニ日本軍亦全部撤退スヘシト期待シタルモ日本軍ハ撤退セサルノミカ却而更ニ廣大ナル領土ノ占領ヲ行ヘリ

此等日本軍占領地域ノ大部分ハ現今軍事占領ノ權力ニ基キ施行セラルル民政ノ下ニ在リ右占領ハ永久的ノ觀ヲ呈シ且露国ノ政治並ニ行政權ニ対スル一層ノ侵害タルヲ示セリサレハ若シ合衆国政府ニシテ其見解ニ依レハ東部西比利亜ニ於ケル戰略的要地占領ノ継続（浦塩港ノ無期領有、哈府、尼港、「デカストリー」「マゴ」「ソフィスク」其他ノ要地ニ於ケル軍隊ノ駐屯、露領樺太ノ占領及必然誤解及敵愾心ヲ惹起スヘキ民政ノ施行ヲ含ム）ハ該地方ニ於ケル不安混亂ヲ緩和セスシテ却テ之ヲ増大セシムル傾向アルコトヲ指摘セサルニ於テハ一九一八年ノ夏日本政府トノ了解ノ下ニ西比利亜ニ出兵スルニ至リタル協調ノ精神ニ忠実ナラサルモノト云フベシ尼港事件ニ対スル復仇トシテノ軍事占領ハ元來國際法ノ通則上正当ナル措置ナリヤ否ヤノ問題ニ非ス又一九二〇年八月十三日附日本大使館覚書中ニ示サレタル

如斯合衆国政府ハ其所見ヲ述フルニ当リ日本政府ノ精神及目的ハ其從來屢々率直ニ公言シタル所ト異ナルモノアリト為スカ如キ意思ハ毫モ之ヲ有セサルモノナルコトハ日本政府ノ諒トセラルル所ナルヘシ合衆国政府ノ趣旨ハ現下露国混亂ノ時機ニ際シ露国民ヲシテ他國政治的機關ニ対シ敵愾心ト不信ノ念トヲ起サシムル如キ一切ノ行動ヲ避クルコトハ露国民ノ平和並常態ノ恢復ヲ冀念スル者ノ義務ナルコトヲ確信スル次第ヲ日本政府ニ通告スルニアリ惟フニ露国民ノ内争ニ関与セス又露国民ニ取り偶発的不法行為ニ対スル犠牲的責罰トモ見ユヘキ行為ヲ極力回避シ殊ニ他國民ニ於ケルト等シク露国民ニ取りテハ危急ヲ告クル内部ノ問題ヲ超越シテ過敏ナル國民的感情ニ甚深ナル影響ヲ与フヘキ領土的地位ニ対スル外国ノ一時的乃至条件付侵害ヲ避クルコトハ特ニ此機ニ於テ露国友邦ノ責務ナリト謂フヘシ

一〇三一 六月七日 加藤海軍大臣ヨリ  
内田外務大臣宛

海軍艦艇尼港進出ニ付通報ノ件

官房機密第九〇三号

（六月八日接受）

大正十年六月七日

二一 薩哈噠州占領地域施政關係一件 一〇三一 一〇三二

カ如キ露国行政区劃變更ノ問題ニモアラス（合衆国政府ノ承知スル所ニ依レハ尼港ノ場合ニ於テハ右變更ハ露国行政官ノ便宜ノ為一時的措置トシテ採用セラレタルモノナリ）要スルニ現下ノ問題ハ日米両國政府間ニ於テ坦懷ナル意見ノ交換及完全ノ觀アル了解ニ基キ露国民ニ対シ与ヘタル保証ヲ嚴密ニ遂行スヘキヤ否ヤニアリ右保証ヲ与フルニ當リ合衆国政府ノ趣旨トセン所ハ兩國政府ニ於テ共同出兵又ハ之ニ起因シテ生スヘキ如何ナル事變ヲモ取テ以テ之ヲ口實トシ仮令一時的ト雖モ領土ヲ占領シ或ハ西比利亜人民ニ対シ何等軍事的又行政的支配ヲ行フコトナルヘキヲ露西亞國民ニ約スルニアリタリ

合衆国政府ハ日本政府ノ執リ來レル政策ハ西比利亜派兵當時成立セル明確ナル了解ヲ疑問タラシムルモノナリト確信スルカ故ニ率直ニ其立場ヲ説明シ合衆国政府ハ現在ニ於テモ將來ニ於テモ現下ノ占領又ハ支配ニ基ク如何ナル權源ノ要求ヲモ有效ト認ムル能ハサルコト並ニ苟クモ現存條約上ノ權利或ハ露国ノ政治的又ハ領土的主權ヲ侵害スル如キ日本政府ノ行動ハ一切之ヲ認容シ能ハサルモノナルコトヲ日本政府ニ通告セサルヘカラス

海軍大臣男爵 加藤 友三郎（印）

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

薩哈噠州沿海警備ニ任スヘキ第三水雷戰隊（平戸最上第六驅逐隊第三十一驅逐隊ヲ以テ編成ス）ハ大谷司令官指揮下ニ五月中旬以後デカストリ灣方面ニ在リテ待機セシガ大谷司令官ハ五月三十一日自ラ第三十一驅逐隊ヲ率キ間宮海峡流水ノ危險ヲ冒シツツ尼港ニ進出シ翌六月一日午前七時尼港ニ到着ス次テ六月二日第六驅逐隊六月三日最上尼港ニ到着セリ

大谷司令官ノ報告ニ依レハ尼港ハ民情至極平穩ニシテ市民ハ海軍艦艇ノ進出ニ対シ歡喜ノ意ヲ表セリト云フ  
右通牒ス

一〇三二 六月十八日 松村總領事（亜港出張中）ヨリ  
内田外務大臣宛

ウドスキ郡ノ新任郡長ニ対シ我軍ハ占領地ニ於ケル同郡長ノ行政ヲ認メザル旨説示ノ件

機密第六号

（六月二十八日接受）

大正十年六月十八日

在アレクサンドロフスク

一〇八七

總領事 松村 貞雄(印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

「ウドスキー」郡行政長更迭並ニ之ニ對スル軍ノ

処置ニ関スル件

在「マリンスク」ウドスキー郡行政長「オストコフ」同地引上ケノ件ハ本月六日往電第二五号ヲ以テ申進候処過般「プロカベンコ」ハ哈府ヨリ尼港ニ歸還スヘキ先年ノ避難民ヲ伴ヒ汽船「マカロフ」号ニテ尼港ニ至リシモ軍所定ノ規則(六月二十一日迄ハ秩序維持上予メ軍政部ノ許可ヲ得テ上陸スルコトトナリ居レリ)ニ反シ擅ニ上陸セントセル為我憲兵隊ノ為ニ上陸ヲ差止メラレ不得已其ノ儘溯江シ避難民ノ一部ヲ沿岸村落ニ上陸セシメタル後去ル十四日「マリンスク」ニ來リ同人ノミ同地ニ上陸シタリ同人ハ今回「オストコフ」ノ後任トシテ「ウドスキー」郡行政施行ノ為來任セル由ニ付軍ニ於テハ在尼港軍政部長ヲシテ我占領地域内ニ於テハ哈府州政府ノ行政ヲ認ムル能ハサルニ付行政施行ヲ差控ユルカ或ハ域外ニ退去スヘキ旨ヲ説示シ万一頑迷ニシテ応ゼザレバ退去又ハ抑留セシムル事ニ決シ其ノ旨内訓スル所アリ出張武官ヨリ懇々同人ニ説諭セルモ知多

機密第七号

(七月五日接受)

大正十年六月二十七日

アレクサンドロフスク出張

總領事 松村 貞雄(印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

黒竜江下流航行船舶取締ニ関スル件

本件ニ関シテハ本年一月二十八日付拙信機密第三号請訓ニ對シ三月三日貴電第六号ヲ以テ御回訓ノ次第有之候処今般尼港軍政署開設ヲ了リタルヲ以テ本件実施ニ関シ左記ノ取締方針ヲ定メ軍政部長ヨリ各關係軍政署長ニ内訓スル所有之候此段申進候

敬具

左記

黒竜江航行船舶取締方針

一、黒竜江航行船舶ノ取締ハ尼港ニ於テ港灣取締規則ニ依リ之ヲ実施スルノ外他ノ地域ニ在リテハ成ルヘク干涉セサルモノトス但シ軍ノ自衛上又ハ地方ノ安寧秩序ノ維持上必要ナル場合ハ此ノ限ニ在ラス

二、一般船舶ノ取締ハ所在憲兵隊主トシテ之ニ任スルモ守備隊モ亦必要ニ応シ航行着発船舶ニ對シ監視警戒ヲ為シ

政府ハ今回自分ヲ郡長ニ「アンドレエフ」(昨年「トリヤピーツイン」及「ニーナ」ヲ「ケルビ」ニテ殺セル者)ヲ補佐官ニ任命シタル次第ニ付貴軍カ強力ヲ以テ退去セシムレバ兎モ角然ラザレバ自ラ進ンデ退去スルコト能ハズ尤モ政治外交ニハ關係セズ專ラ郡民ニ糧食其ノ他生活必需品ヲ供給シ且ツ一般經濟的發展事務ニ努力スヘシトカ仮令日本軍勢力範圍ナリトモ日本帝国内ニハ已ニ外国官吏例ヘハ外交官領事官ノ在任ヲ許容シアレバ自分カ知多政府ノ派遣セル官吏トシテ駐在スルモ何等差支ナキ管杯勝手ケ間敷事申出テ当方ノ懇切ナル説示ニ服スヘキ模様ナク結局強制スルニ非ザレバ彼等ハ隠然郡内ニ於ケル行政事務ヲ行フヘク「ソフィスク」ニ於ケル民警モ亦依然駐在スルコトトナルヘシト存セラルルモ派遣軍ニ在リテハ陸軍省ノ内訓モアリ時節柄知多及哈府ニ於ケル我陸軍特務機關職員ノ身上ヲ顧慮シ可成ク高圧手段ヲ避ケ度様子ニ見受ケラレ候

敬具

一〇三三 六月二十七日

松村總領事(亜港出張中)ヨリ  
内田外務大臣宛

黒竜江下流航行船舶取締方針ニ関シ報告ノ件

兩者相扶ケ万一ノ不覺ナキ如ク努力スルモノトス漁船取締ニ関シテハ憲兵及特ニ派遣シタル軍政部監視員之ニ任スルモノトス

三、取締ルヘキ船舶ハ通常汽船バルヂ及大型ジャンクトン特ニ守備地着発ノモノニ對シテハ乗降人積卸荷物等ニ就キ監視スルモノトス

四、船舶ニ對シテ特別ノ場合ノ外停船及臨檢ヲ要求スルコトナク彼ノ意志ニヨリ我軍隊ノ守備地ニ着シタル際ハ訪問ノ形式ヲ以テ船長又ハ責任者ニ面談シ発着地点用向成シ得レハ乗客積荷仕向地等ヲ聞取ルヲ可トス但シ必要ノ場合ニハ將校ノ命令ニ依リ臨檢ヲ行フモノトス

五、各地憲兵及守備隊ハ互ニ連絡シ特ニ注意警戒ヲ要スヘキ船舶ノ通過着発ヲ互ニ通報シ監視ニ便ナラシムルヲ要ス

六、武装兵員兵器彈藥等ヲ我守備地域内ニ揚陸スルコトハ之ヲ制止スルモノトス  
單ニ河川ヲ通過スルモノニ對シテハ監視ヲ嚴ニシ干涉セサルモノトス

一〇三四 六月二十八日 閣議決定

尼港邦人虐殺ニ依ル我軍ノ薩哈噠州要地占領ニ関スル米國政府抗議覚書ニ対スル我回答覚書ノ件

覚書

帝國政府ハ米國政府カ五月三十一日附覚書ヲ以テ東部西比利亞ノ事態ニ関シ率直ニ其ノ所見ヲ述ヘラレタルヲ諒トシ腹藏ナキ意見ノ交換ハ即日米兩國政府間ノ諒解ヲ遂クル所以下信スルニ依リ茲ニ友好的精神ヲ以テ極メテ淡泊ニ帝國政府ノ所見ヲ開陳セント欲ス

米國政府ノ覚書ハ一九一八年ノ日米西比利亞共同出兵ト一九二〇年ノ尼港虐殺事件ニ基ク日本軍ノ薩哈噠地方占領トヲ混同セルモノノ如キモ帝國政府ハ右兩者ハ全然其ノ性質ヲ異ニシ從テ別個ニ取扱ハルヘキモノト信スルニ依リ以下場合ヲ分チテ其ノ所見ヲ開陳スヘシ

西比利亞共同出兵ニ関シテハ帝國政府ハ出兵当初ノ精神ヲ重シ終始日米協調ノ実ヲ挙クルノ覚悟ナリシカ一九二〇年一月「チェック」軍ノ輸送未タ完了セサルニ際シ米國政府ハ予メ帝國政府ト打合ハスルコトナク突然西比利亞ニ於ケル米國軍隊全部ノ撤退ヲ断行シ日本軍カ極メテ困難ナル

有スル武裝鮮人団カ露領ニ接セル間島地方ニ於テ帝國臣民ノ生命財産ヲ破壊シ且帝國領土内ノ安寧ヲ脅カサントシタル事實ニ徴スルモ前記懸念ノ根拠アルコトヲ証スルニ足ルヘシ沿海州地方カ我カ版圖ト国境ヲ接シ同地方ニ多数ノ日本居留民存在スル点ニ於テ帝國ト米國ト力遙ニ事情ヲ異ニスル次第ハ米國政府ニ於テ充分諒察セラレムコトヲ希望ス尤モ帝國政府カ東部西比利亞ノ政情安定次第撤兵ノ誠意アルコトハ世上種々ノ憶測流説存在セルニ不拘既ニ後貝加爾及黑竜地方ヨリ撤兵シ現在ニ於テハ僅カニ浦潮「ニコリス」方面ニ殘部ノ兵員ヲ駐ムルニ過キサル事實ニ徴スルモ明ニシテ日本軍ハ是等地方ヲ占領セルモノニアラス随テ軍政ヲ布キタルコトナク単ニ軍ノ存在ニ危害ヲ及ホシ我カ居留民ノ生命財産カ不当ニ脅カサレタル場合ニ自衛ノ手段ヲ講スルコトアルニ過キス帝國政府カ極東ノ政情安定シテ強固ナル政府ノ出現セムコトヲ期待シ各地方の政權ノ融和統一ニ対シ干涉ニ亘ラサル範圍ニ於テ便宜ヲ与ヘタルコトアルモノ一党一派ヲ助ケ他ヲ圧スルカ如キハ力メテ之ヲ避ケ居ルコトハ是亦事實ヲ以テ証スルコトヲ得ヘシ例ヘハ昨年一月「ロザノフ」將軍没落ノ際ノ如キ日本軍ハ社会党ノ運動

立場ニ陥リタルハ米國政府ノ承知セラルル所ナリ當時右米國政府ノ行動ニ関シ幣原大使ヨリ同國政府ノ説明ヲ求メタル際國務長官ハ將來日本ニ於テ單獨ニテ依然軍隊ヲ駐屯セシメ又必要ナル増兵ヲ行ヒ且鐵道運行計画ヲモ統行スル場合ニ米國政府ニ於テ何等異議ヲ唱フヘキ理由ナキ旨言明セラレタル次第同年一月二十二日附幣原大使ノ覚書ニ明カナリ爾來帝國政府ハ「チェック」軍ノ輸送完了後速ニ撤兵シ得ルニ至ラムコトヲ希望シ居リシモ露西亞ノ狀態ハ混沌トシテ直ニ日本軍ヲ引揚クルニ於テハ東部西比利亞地方ハ混亂ニ陥リ多数我カ居留民ノ生命財産ハ脅カサレ彼等カ多年同地方ニ於テ築キ上ケタル經濟的事業ハ其ノ根底ヨリ破壊セララルル虞アリタルノミナラス一方不逞鮮人ハ帝國ノ国境ニ接近セル浦塩「ニコリス」等ヲ根拠トシテ朝鮮ノ安寧秩序ニ対シ重大ナル陰謀ヲ行フ危險アリシニ顧ミ沿海州ヨリ撤兵ヲ行フコト能ハサリシ次第ハ屢次米國政府ニ説明セル所ナリ、客年帝國軍隊カ後貝加爾及黑竜地方ヨリ撤退スルヤ同地方在留帝國臣民ハ多年正当ナル努力ノ結果ニ成レル經濟的地盤ト財産ヲ放棄シ僅ニ身ヲ以テ免レ莫大ナル損害ヲ蒙リタル事實並過般露領ニ於ケル不逞鮮人ト聯絡ヲ

ヲ抑止スルコト容易ナリシニ拘ハラズ嚴正中立ヲ守リ其ノ倒壊スルニ任セタルハ當時同地ニ駐屯セル米國軍隊ノ態度ト同一ナリキ最近浦潮ニ於ケル政變ニ際シテモ目下種々ナル流説存スルニ不拘日本軍ハ全然中立ノ態度ヲ採リ一黨一派ヲ援助スルカ如キハ嚴ニ之ヲ避ケツツアリ尚帝國政府ハ可成早キ機會ニ於テ沿海州ヨリ其ノ軍隊ヲ撤退セムコトヲ希望シ軍隊撤退後ニ於テモ居留民カ其ノ生命財産ヲ脅カサルコトナク平和的ニ經濟的發展ヲ為シ得ル様及国境地方ノ安寧ヲ害セラレサル様相當ノ措置ヲ講シタル上成ルヘク速ニ撤退スヘク考慮中ナル次第ヲ米國政府内密ノ参考トシテ茲ニ附言セムト欲ス

次ニ薩哈噠州内二三地方ノ占領ハ全然右ト事情ヲ異ニス右占領ノ理由ハ占領當時ニ於ケル帝國政府ノ宣言及其後ノ説明ニ依リ明ナル如ク尼港ニ於ケル過激派軍隊カ歴史上稀ニ見ル殘虐ナル方法ヲ以テ平和的生活ヲ営ミ居タル多数居留民及其妻子ヲ殺戮シタルノミナラス帝國領事館ヲ襲撃シテ領事以下館員及其家族ヲ殺シ其家屋ヲ灰燼ニ帰セシメタル非人道的行為ト屈辱トハ日本國民ノ到底黙過シ能ハサル所ナルヲ以テ帝國政府ハ之ニ対シ相當ノ賠償ト將來ニ於ケル



事件ノ再発ニ対スル保障ヲ求メ以テ国家ノ威信ト国民保護ノ責務ヲ全ウセムト欲スルモ實際交渉シ得ヘキ政府ナキニ顧ミ不得已平時復仇ノ手段トシテ必要ナル地方ヲ占領シテ軍政ヲ布キ以テ責任アル政府ノ出現ヲ待ツ次第二シテ國際法上不当ナリト認ムル能ハス露國ノ混乱ニ乘シ其領土ヲ僭奪スルカ如キハ全ク帝國政府ノ意見ニアラス故ニ將來露國ニ於テ正当ノ政府出現シ本事件ニ対シ満足ナル解決ヲ与フルニ於テハ勿論撤兵セラルヘキモノナリ

註 本閣議決定ハ六月二十八日内田外務大臣ヨリ幣原在米大使宛電報第二六二号ヲ以テ電報セラレ同第二六一号ヲ以テ米國政府ヘノ右提出方訓令セラレタリ

一〇三五 七月一日 閣議決定

樺太對岸薩哈噠州ノ要地占領ニ関スル件

樺太對岸薩哈噠州ノ要地ハ大正九年七月三日ノ声明ニ基キ將來正当政府樹立セラレ本事件ノ満足ナル解決ヲ見ルニ至ル迄冬期ト雖軍隊ヲ駐屯セシメ之カ占領ヲ繼續スルコトニ致度

理由

尼港事件ノ解決スルニ至ル迄樺太對岸ノ要地ヲ占領スヘキ

ハ大正九年七月三日ノ声明ニヨリ明カナリ大正九年冬期ニ於テハ事件ノ突発並ニ尼港附近ノ燒夷等ノ為冬期軍隊ヲ駐屯セシメ孤立シテ敵軍及天候ト戦フヘキ準備ヲ完了シ得ルノ見込無カリシヲ以テ軍事上ノ見地ヨリシテ同年ハ冬期撤兵スルニ至レリ

薩哈噠軍ハ爾後諸般ノ調査及準備ヲ整ヘ今期解氷ト同時ニ再ヒ之等要地ヲ占領シ同時ニ必要ナル防禦設備交通設備及宿舍ノ新設等ヲ実行中ニシテ次期結氷ニ至ル迄ニハ概ネ所望ノ施設ヲ完了スヘキヲ以テ今後ハ對尼港政策ノ根本義ニ副フ如ク冬期ト雖同地方ニ駐兵越年セシメ得ルニ至レリ加フルニ同方面一般ノ政情ヲ案スルニ若シ本年冬期同地方ヨリ一時撤兵スルノ舉ニ出テンカ目下進行中ニアル諸施設ハ我ニ敵スル一味ノ輩ノ手中ニ落チ彼等ノ為有力ナル抵抗ノ根拠地ヲ与ヘ將來ニ於ケル帝國陸海軍ノ行動ヲ阻害シ帝國ノ尼港政策ノ根本ヲ覆スニ至ルノ虞無キニ非ス此レ冬期駐兵越年セシムルヲ要スル重大ナル理由ノ一ナリトス

一〇三六 七月三日 青島特務艦長ヨリ  
海軍大臣宛(電報)

オホーツク市方面ノ過激派反過激派兩首領ヲ

招致シ邦人ノ生命財産及利権尊重方ヲ宣言セ  
ル旨報告ノ件

(七月五日外務省海軍省ヨリ写接受)

二十四日過激派反過激派兩首領ヲ艦内ニ招致シ同所ニ於テ小官ノ名ヲ以テ左ノ宣言ヲ与ヘ其ノ旨了解セシム

(宣言)

本艦ハ当方面ニ於ケル邦人ノ生命財産及既得利権擁護ノ為來レリ故ニ苟モ之ニ対シ脅威ヲ加フルモノアル場合ニハ已ムヲ得ス所要ノ手段ヲ講スヘシ宜シク露國官民ハ政黨ノ如何ニ係ラス右邦人ノ生命財産及利権ヲ尊重スヘク且在留外人ニモ此旨体セシメヨ

千九百二十一年六月二十四日

日本軍艦青島艦長

情報

一、二十四日夜半ヨリ白軍約六十名「オコツク」市ヲ襲撃シ一旦其ノ大部ヲ占領シタルモ携帯彈藥欠乏シ支持スルコト能ハス終ニ奪還セラレ退却セリ此交戦約二時間死傷

二、薩哈噠州占領地域施政關係一件 一〇三七

者赤軍十一名、白軍八名ヲ出セリ邦人ハ何程モ損害無シ

二、二十五日本艦軍医長ヲシテ兩軍傷者ヲ治療セシム

三、二十六日露國々旗ヲ掲ケ米國商帆船「リマン」前夜ノ戦闘ニ赤軍ニ加担シタルニ依リ同船「オコツク」市ヨリ河口ヲ通過セントシタル際白軍ノ(脱)昨夜ハ果ササリシモ二十七日終ニ強行通過小樽ニ向フ

註 右電報ハ宗谷岬ヨリ發セラレタリ

一〇三七 七月五日 松村總領事(亞港出張中)ヨリ  
内田外務大臣宛

亞港對岸我軍占領地ニ於ケル露國官吏ニ對スル我軍ノ監視情况等報告ノ件

機密第八号 (七月十三日接受)

大正十年七月五日

アレクサンドロフスク出張

總領事 松村 貞雄(印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

對岸占領地方ニ於ケル露國電信局長其ノ他ノ官吏ハ從來哈府州政庁ヨリ食料品ノ交付ヲ受居処我軍占領後ハ當方ニ於テ此等ヲ監督スル必要アリ為ニ我軍ニ於テ適當ノ俸給ヲ与

へ其ノ身柄及業務ヲ監視スル事トシ哈府政庁ヨリ受クル食料品ハ黙許シテ之ニ干渉セサル方針ヲ採リツツアリ然ルニ在「マリンスク」郡長「プロカペンコ」ハ本件ニ関シ哈府行政長「ミレーエフ」ニ請訓スル所アリタル結果去ル一日「共和国官吏ハ他ヨリ給与ヲ受クルコトヲ許サス聴カサルモノハ直ニ其ノ職ヲ免スヘシ此旨尼港ニ至ル迄各地官吏ニ通達スヘキ」旨ノ回訓アリ「プロカペンコ」ハ直ニ之ヲ沿岸各地ニ通達セリト云フ因テ我出張武官ハ其ノ措置ヲ以テ我軍政ヲ妨害スルモノトシ嚴談ノ結果爾今我方ニ相談ナクシテ此種ノ措置ヲ採ラサル旨申出テタリト云フ同人ハ最近哈府「ミレーエフ」ヨリ現状報告ノ為来哈スヘキ旨ノ命ニ接シタル趣ニ有之果シテ事實ナリトセハ再ヒ我占領地方ニ帰来スルヤ否ヤ不明ナルモ兎モ角哈府ニ至リテ各方面ニ我ニ対シ惡声ヲ放ツ事ナルヘシト察セラレ候将来モ此儘哈府政庁官吏ノ占領地方駐在ヲ黙認スルハ徒ニ事態ノ紛糾ヲ惹起シ易ク甚タ面白カラサル儀ト相考居候尚ホ哈府政庁ハ自今官有船ノ終点ヲ「キセリヨフカ」「ソフィスク」上流約十五里ノ村落ニシテ其ノ奥地ニハ金鉱アリテ「バルチザン」殘党徘徊セリト称ス」トシ「マリンスク」尼港等ノ下流ニ

エフ」ニ発信セントシ我出張武官ノ為ニ阻止セラレタリ（本件ハ本月六日付公第二八号「オレーグ」号ニ関スルモノト推察ス）

浦潮ヨリ「ウドスキ」郡ニ向フ汽船ハ亜港ニ於テ檢疫ノ為留置セラレタリ本船ハ無資力ナル避難民ノ当郡ニ来ルモノ多数搭載セシカ彼等ハ老幼ヲ伴ヒ約一週間ノ食糧ヲ携ヘタルノミナルニ檢疫ノ為八日間呻吟シツツ上陸帰還共ニ多大ノ困難ヲ經テ始メテ許容セラルル為彼等ノ多クハ已ニ其ノ食糧ヲ食尽シ運命ヲ神ニ祈リツツ水サヘ碌々飲ムヲ得サリシト云フ、併モ日本軍憲ノ内政干渉ト森敵ナル圧迫ノ圈内ニアル為此種ノ愁訴ノ余ノ手許ニ達スルハ夥シク遲延スルヲ免レス察スルニ日本軍憲ハ如此檢疫等ノ場合ニ於テ自ラハ勿論赤十字ノ如キモ此種不幸ナル人民ヲ救助スル為何等ノ措置ヲモ取ラサルカ如シ、就テハ将来之レカ為亜港ヲ經テ赤十字ヲ派遣スルト共ニ一方日本政府ニ対シ露国民ノ檢疫ニ当リ饑餓等ニ関シ注意センコトヲ提議セラレタシ云々

本電ハ一応我武官ヨリ阻止セラレタリト雖必スヤ他ノ方法ニ依リテ哈府ニ通信セラレタルナラント存セラルル処之レ

至ラサル事トセルニ付下流所在官吏ハ「キセリヨフカ」ニテ麦粉ノ交付ヲ受クヘキ旨通告アリ過般来「ソフィスク」ニ我砲艦碇泊警備スルコトナリタル為之ヲ恐ルル為ナラントノ風評ナリト云フ

右申報申進候 敬具

一〇三八 七月八日 松村総領事（亜港出張中）ヨリ  
内田外務大臣宛

亜港ニ於ケル露人船客ノ檢疫ニ付ウドスキ

郡長ノ我軍ニ対スル非難ニ関スル件

機密第九号

大正十年七月八日

アレクサンドロフスク出張

総領事 松村 貞雄（印）

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

「マリンスク」ニハ目下「ウドスキ」郡長「グリゴリ、プロカペンコ」次長「イワン、アンドレーエフ」郡書記「ヨシフ、ルサノフ」同「サウエニフ」ノ四名哈府州庁派遣官トシテ駐在シ居ル処「プロカペンコ」ハ過日密カニ大要次ノ如キ意味ヲ有スル電報ヲ哈府行政監督官「ミレー

ニ依レハ「プロカペンコ」ハ全然我軍事占領ヲ認メサルハ勿論強テ惡声ヲ放テ我ヲ陥レントスルノ意思明瞭ニ有之彼ノ駐在ハ徒ラニ事態ヲ紛糾セシムルハ勿論中外ニ対シ我國ヲ讒誣中傷スル材料ト機會トヲ与フルノミニテ甚タ不利益ナリト思考セラレ候尚ホ占領地ニ於ケル「ベスト」檢疫ハ本年往電第一一号ノ通り停船五日ノ後檢疫ヲ施行スルコトト相成居候ニモ拘ラス浦潮ヨリ尼港ニ至ルニ一週間ノ食料ヲ所持スルハ已ニ無謀ノ所業ニ有之候尤モ必要ノ場合ニハ我軍政部ニ於テ相当救助スルコトト相成居候モ尚ホ義勇艦隊汽船關係者ヲシテ此種ノ無謀ノ船客ヲ搭載セシメザル様注意方モ亦必要カト存候

右御参考迄申進候

本信送付先 浦潮

一〇三九 七月十二日 在米國幣原大使ヨリ  
内田外務大臣宛

尼港邦人虐殺ニ依ル我軍ノ薩哈噠州要地占領

ニ関スル米國政府ノ抗議ニ対スル我方ノ回答

覚書送付ノ件

附屬書 右回答覚書写

機密第一二号 (八月四日接受)

大正十年七月十二日

在米

特命全權大使 幣原 喜重郎 (印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

西比利亜問題対米覚書送附ノ件

貴電第二六<sup>(註)</sup>一号ニ関シ別紙写ノ通り覚書提出致候ニ付玆ニ  
及御送附候条御査閲相成度此段申進候也

本信写送附先 在欧各大使

註 内田外務大臣発幣原大使宛電報第二六一号ニ関ベテ前出ノ

〇三五文書末尾ノ註参照

(附屬書)

七月八日附在米國日本大使館ヨリ米國國務省宛覚書ヲ

## IMPERIAL JAPANESE EMBASSY

Washington

### MEMORANDUM.

The Japanese Government have carefully considered the Memorandum of the State Department dated May 31, 1921, dealing with the situation in

Eastern Siberia. Sincerely appreciating the desire of the American Government to avoid all action which might keep alive the antagonism and distrust of the Russian people on the Siberian problem, the Japanese Government feel it due, on their part, to state as fully as possible the position and aims of Japan on the points raised in the Memorandum.

The communication under review apparently makes no distinction between the military expedition to Siberia, originally undertaken as a joint enterprise of Japan and the United States in 1918, and the occupation of the Russian Province of Sakhalin by Japanese troops consequent upon the Nikolaievsk incident of 1920. In the estimation of the Japanese Government, these two questions are wholly unrelated to each other, and call for separate consideration.

The military expedition to Siberia was admittedly based on a mutual understanding between Japan and the United States. In January, 1920, however, the

United States ordered the withdrawal of its forces without any previous communication with Japan, and even without awaiting the complete departure of Czecho-Slovak troops. Such an unexpected withdrawal of American forces naturally caused a serious dislocation in the disposition of Japanese troops to whom the duty of guarding several points along the Trans-Siberian Railways had been assigned under inter-Allied arrangements. That situation was frankly pointed out by the Japanese Ambassador in the course of his conversation with the Secretary of State on January 10, 1920, and the Memorandum of the Japanese Embassy dated January 22, 1920, contained a record of what then took place between them.

The last column of Czecho-Slovak troops safely embarked from Vladivostok in September, 1920. Ever since that time, Japan has been looking forward to an early opportune moment for the withdrawal of

her troops from Siberia. The maintenance of such troops in a foreign land is for her a costly and thankless undertaking, and she will be only too happy to be relieved of such responsibility. In fact, the evacuation of the Trans-Baikal and the Amur Provinces was already completed last year. The only district which now remains to be evacuated is a southern portion of the Maritime Province around Vladivostok and Nikol'sk.

It will be appreciated that for Japan the question of the withdrawal of troops from Siberia is not quite as simple as it was for the United States. In the first place, there is a considerable number of Japanese residents who had lawfully and under guarantees of treaty established themselves in Siberia long before the Bolshevik eruption, and were there entirely welcomed. In 1917, prior to the joint American-Japanese military undertaking, the number of such residents was already no less than 9717. In the

actual situation prevailing there, those Japanese residents can hardly be expected to look for the protection of their lives and property to any other authorities than Japanese troops. Whatever regions those troops have evacuated in the past, have fallen into disorder, and practically all Japanese residents have had precipitately to withdraw, to seek their personal safety. In so withdrawing, they have been obliged to leave behind large portion of their property, abandoned and unprotected, and their homes and places of business have been destroyed. While the hardships and losses thus caused the Japanese in the Trans-Baikal and the Amur Provinces have been serious enough, more extensive damages are likely to follow from the evacuation of Vladivostok, in which a larger number of Japanese have always been resident and a greater amount of Japanese capital invested.

There is another difficulty with which Japan is

precaution in carrying out the contemplated evacuation of the Maritime Province. Should they take hasty action without adequate provision for the future, they would be delinquent in their duty of affording protection to a large number of their nationals resident in the regions in question and of maintaining order and security in Korea.

It should be made clear that no part of the Maritime Province is under Japan's military occupation. Japanese troops are still stationed in certain places of that Province but they have not set up any civil or military administration to displace local authorities. Their activity is confined to measures of self protection against the menace to their own safety and to the safety of their country and nationals. They are not in occupation of those districts any more than American troops could be said to have been in occupation of the places in which they were formerly stationed.

faced in proceeding to the recall of her troops from the Maritime Province. Due to geographical proximity, the general situation in the districts adjoining Vladivostok and Nikol'sk is bound to affect the security of the Korean frontier. In particular, it is known that those districts have long been the base of Korean conspiracies against Japan. Those hostile Koreans, joining hands with lawless elements in Russia, attempted last year to invade Korea through the Chinese territory of Chientao. They set fire to the Japanese Consulate at Hunchun, and committed indiscriminate acts of murder and pillage. At the present moment they are under the effective control of Japanese troops stationed in the Maritime Province, but they will no doubt renew the attempt to penetrate into Korea at the first favorable opportunity that presents itself.

Having regard to the foregoing considerations, the Japanese Government have felt bound to exercise

The Japanese Government are anxious to see an orderly and stable authority speedily re-established in the Far Eastern possessions of Russia. They have shown readiness to lend their good offices for promoting the reconciliation of various political groups in Eastern Siberia. But they have refrained from supporting one faction against another. It will be recalled, for instance, that they withheld all assistance from General Rozanov against the revolutionary movements which led to his overthrow in January, 1920. They maintained an attitude of strict neutrality, and refused to interfere in those movements, which it would have been quite easy for them to suppress, if they had so desired. They held consistently to the same policy of non-interference in the recent *coup d'état* at Vladivostok. Political strife among Russians was then entirely left for them to settle, and only the use of arms by any faction threatening the safety of the population in

Vladivostok was checked.

The Japanese Government desire to add, for the confidential information of the American Government, that they have now serious contemplation practical plans which would justify them in effecting at an early date the complete withdrawal of Japanese troops from the Maritime Province, with reasonable precaution for the security of Japanese residents and of the Korean frontier regions.

The occupation of certain points in the Russian Province of Sakhalin is wholly different, in nature and in origin, from the stationing of troops in the Maritime Province. History affords few instances similar to the incident of 1920 at Nikolaevsk, where more than seven hundred Japanese, including women and children, as well as the duly recognized Japanese Consul and his staff, were cruelly tortured and massacred. No nation worthy of respect will possibly remain forbearing under such a strain of provocation. Nor was it possible for the Japanese Government

to disregard the just popular indignation aroused in Japan by the incident. Under the actual condition of things, Japan found no alternative but to occupy, as a measure of reprisal, certain points in the Province of Sakhalin in which the outrage was committed, pending establishment in Russia of a responsible authority with whom she can communicate in order to obtain due satisfaction. Her position on this question is explained in the declaration of the Japanese Government of July 3, 1920; and it is believed that such measures as Japan has taken have the sanction of international law.

Nothing is further from the thought of the Japanese Government than to take advantage of helpless conditions in Russia for prosecuting selfish designs. Japan believes that she has shown every sympathetic interest in the efforts of patriotic Russians aspiring to the unity and rehabilitation of their country. The military occupation of the Russian Province of Sakhalin will naturally come to an end as soon as

a satisfactory settlement of the question shall have been arranged with an orderly Russian Government.

# Japanese Embassy,

Washington, July 8, 1921.

(右和訳文) (註 外務省係官ノ作成セル仮訳文ナリ)

七月八日附在米國日本大使館ヨリ米國國務省宛覚書写訳文

帝國政府ハ東部西比利亞ノ事態ニ関スル一九二一年五月三十一日附國務省覚書ニ対シ慎重考慮ヲ加ヘタリ帝國政府ハ米國政府カ西比利亞問題ニ関シ露國人ノ敵愾心及猜疑心ヲ旺盛ナラシムヘキ行動ヲ回避セントスルノ希望ヲ深ク諒トシ玆ニ右覚書所載ノ諸点ニ関シ帝國ノ地位並ニ目的ヲ成ルヘク詳細ニ開陳スルヲ至当ト思惟スルモノナリ

米國政府ノ覚書ハ一九一八年ノ日米兩國ノ協調ニ基ク西比利亞出兵ト一九二〇年ノ尼港事件ニ基ク日本軍ノ薩哈連地方占領トノ間ニ何等區別スル所ナキカ如キモ帝國政府ノ見解ニ依レバ右兩者ハ相互ニ何等關係ヲ有セス從テ別箇ニ取扱ハルヘキモノナリ

西比利亞出兵カ日米兩國相互ノ了解ニ基キタルハ言ヲ俟タル所ナルカ一九二〇年一月米國政府ハ予メ帝國政府ト何等打合スルコトナク而モ「チェック」軍ノ輸送完了ヲ俟タス西比利亞ニ於ケル米國軍隊ノ撤退ヲ命シタリ此突然ナル米軍撤退ノ結果ハ聯合各國間ノ取極ニ依リ西比利亞鉄道沿線諸地方防護ノ任ニ当リ居タル日本軍ノ配備ニ非常ナル困難ヲ来シタルカ右事態ニ付テハ一九二〇年一月十日國務卿ト会谈ノ際在米帝國大使ヨリ卒直ニ指摘スル所アリ右会谈ノ内容ハ一九二〇年一月二十二日附帝國大使館ノ覚書ニ明カナリ

「チェック」軍ノ最後部隊ハ一九二〇年九月無事浦潮ヲ出帆シタル処帝國政府ハ外国領土内ノ駐兵カ徒ニ巨額ノ費用ヲ要スルノミナラス毫モ感謝ヲ受ケサルニ顧ミ偏ニスノ責任ヲ脱却セント欲シ爾來撤兵シ得ルノ時期速ニ到達センコトヲ希望シ居リタル次第ニシテ現ニ客年中後員加爾州及黒竜江州ヨリ其軍隊ヲ撤退シ目下日本軍ノ駐屯セルハ沿海州ノ南部即浦潮及「ニコリスク」附近ニ過キス

帝國ノ西比利亞撤兵問題カ決シテ米國ノ其レノ如ク簡單ナルモノニアラサルハ諒察ニ難カラサル所ナルヘシ蓋シ帝國

ハ西北利亞ニ於テ多數ノ居留民ヲ有スル処此等ハ孰レモ夙ニ過激派革命勃発前ヨリ適法且条約ノ保障ノ下ニ居住シ地方民ニ歡迎セラレタルモノニシテ一九一七年即日米共同出兵以前ニ於テ其數九千七百十七名ニ達シタルカ現下ノ狀況此等居留民ノ生命財産ノ保護ハ日本軍隊ニ依ルノ外何等他ノ官憲ニ期待スルヲ得ス曩ニ帝國軍隊ノ撤退シタル地方ハ孰レモ秩序紊亂シ在留帝國臣民ハ財産ノ大部分ヲ抛棄シ僅カニ身ヲ以テ逃ルルノ止ムナク住居、事務所モ亦破壊セララルニ至レリ斯ノ如クシテ後貝加爾、黒竜兩州ニ於ケル帝國居留民ノ受ケタル艱難損害既ニ甚大ナルモノアリ若シ帝國軍隊ニシテ急遽浦潮地方ヨリ撤兵スルカ如キコトアランカ居留民ノ數及投資額カ前記地方ニ於ケルヨリ遙ニ大ナル關係上其ノ蒙ムルヘキ損害必スヤ更ニ大ナルモノアルヘシ帝國カ沿海州ヨリ撤兵セントスルニ當リ逢着スル第二ノ困難ハ同地方カ朝鮮ニ隣接セル地理的關係上浦潮及「ニコリスク」地方ノ形勢カ必然國境ノ安全ニ影響スル所大ナルニ存ス殊ニ同地方ハ久シク帝國ニ對スル鮮人陰謀ノ根拠地タリ客年此等露領内ノ不逞分子ト連絡ヲ有スル武裝鮮人團ハ間島ヲ經テ朝鮮ニ侵入セント企テ在琿春帝國領事館ニ火ヲ

放チ殺人掠奪ヲ恣ニシタル事變アリ而シテ目下此等不逞分子ハ沿海州駐留帝國軍隊ノ監視ヲ受ケ事ヲ挙クルヲ得サルモ何等欺機アルニ於テハ直ニ朝鮮ニ進入シ来ラムコトハ疑ヲ容レサル所ナリ

前記ノ事情ニ顧ミ帝國政府カ其考慮セル沿海州撤兵ヲ実行セントスルニ當リ用意周到ヲ期スルハ止ムヲ得サル次第ニシテ何等將來ニ對スル適當ノ措置ヲ講スルコトナク急遽撤兵スルカ如キハ同地方ニ於ケル多數居留民ノ保護並ニ朝鮮ニ於ケル秩序安寧維持ノ責務ニ背クモノト云フヘシ

帝國軍隊ハ沿海州内二、三地点ニ駐屯スルニ止リ同州孰レノ地方ヲモ之ヲ占領セルニ非ス又地方官憲ニ代ルヘキ軍政又ハ民政ヲ行フコトナキ事實ハ之ヲ明白ニスルコト必要ニシテ此等地域ニ於ケル帝國軍隊ノ行動ハ自己、自國又ハ自國民ノ安全ニ對スル脅威ニ付自衛ノ手段ヲ講スルニ止マレリ米國軍隊カ曩ニ其駐屯セシ地方ヲ占領シタルモノニアラサルト同シク帝國軍隊亦此等地方ヲ占領セルモノニアラサルモノナリ

帝國政府ハ極東露領ノ政情安定セムコトヲ欲シ各地方政權ノ融和統一ニ對シ便宜ヲ与フルニ吝ナラサリシモ一党一派

ヲ助クルカ如キハ之ヲ避ケタリ例ヘハ昨年一月「ロザノフ」將軍没落ノ際日本軍ハ同將軍ニ對スル一切ノ援助ヲ禁止シテ嚴正中立ヲ守リ社会党ノ運動ヲ抑制スルコト容易ナリシニ拘ラス何等ノ干渉ヲ為セシコトナク又最近浦潮ニ於ケル政變ニ際シテモ日本軍ハ全然不干渉主義ヲ固持シ露國政爭ハ同國人ノ解決ニ一任スルノ方針ヲ執リ只孰レノ党派ニ對シテモ浦潮住民ノ安全ヲ脅スカ如キ武力ノ使用ハ之ヲ抑止シタリ

尚ホ帝國政府ハ居留民及朝鮮國境地方ノ安全ニ付相当ノ措置ヲ講シタル上成ルヘク早キ機會ニ於テ沿海州ヨリ全部撤兵セムコトヲ希望シ之カ実行計画ニ付目下考慮中ナル次第ヲ米國政府内密ノ參考トシテ茲ニ附言セントス

薩哈噠州内二三地点ノ占領ハ沿海州駐兵ト其性質及起因ヲ全然異ニス一九二〇年ノ尼港虐殺ハ歷史上稀有ノ事件ニシテ老幼婦人並ニ正式ニ承認セラレタル帝國領事及館員ヲ合セ七百有余ノ帝國臣民ハ殘虐極マル方法ニヨリ苛責殺戮セラレタリ如斯挑発の行為ハ苟モ威信アル國民ノ默視シ能ハサル所ナルヘク帝國政府ニ於テモ之レカ為ニ惹起セラレタル國民の義憤ヲ無視スルヲ得ス復仇ノ手段トシテ虐殺ノ行

ハレタル薩哈噠内若干地点ヲ占領シ以テ露國ニ責任アル政府出現シ本件ニ付満足ナル解決ヲ得ルヲ俟ツノ外ナカリシ次第ニシテ右ノ事情ハ一九二〇年七月三日帝國政府ノ宣言ニヨリ明ラカニシテ該占領ハ國際法上不当ナリト認ムル能ハス

露國ノ混亂ニ乘シ私利ヲ図ラムトスルカ如キハ全ク帝國政府ノ意思ニ非ザルノミナラズ露國ノ統一及復興ヲ熱望スル露西亞愛國者ノ努力ニ對シ常ニ同情的態度ヲ示シ来リタルハ帝國政府ノ自信スル所ニシテ露國ニ於テ正當政府出現シ本件ニ對シ満足ナル解決ヲ与フルニ於テハ薩哈噠占領ハ勿論撤廃セラルヘキモノナリ

一〇四〇 七月十五日 薩哈噠州派遣軍參謀長ヨリ  
尾野陸軍次官宛(電報)

#### 黒電江岸地方ノ情況及視察判斷報告ノ件

薩參四一九 (七月十八日外務省陸軍省ヨリ寫接受)  
本職尼港ヨリ黒電江ヲ溯リ「ソフィスク」ニ至リ「キジ」湖ヲ渡リ「デ」港ヲ經テ帰還ス此間ニ於テ得タル情況及視察判斷次ノ如シ

一、新守備隊ハ各任地ニ着キ概シテ軍ノ企圖ノ如ク配置ヲ

終り軍需品ハ黑竜江ノ水深浅ク適當ノ川船少ク殊ニ「キジ」湖浅キ為航行困難ヲ来シツアルモ之カ追送ニ努力中ナリ

二、黑竜江岸尼港ヨリ「ボゴロドスコエ」ニ至ル間ハ日本軍ニ対スル村民ノ意向極メテ良好ナルモ「マリンスク」「ソフィースク」ニアリテハ趣ヲ異ニシ日露兩國ノ圧迫ヲ受ケ板挾ミノ観ヲナシ疑惧ノ念アリテ我ニ好意ヲ表現スルコトヲ避ク

三、「プロカペンコ」ノ「マリンスク」ニ在ルハ村民ニ対シ大ナル影響ヲ与ヘ自然日本軍ノ占領ヲ不確定ナリト信ゼシムルノミナラズ「プロ」モ演芸酒宴等ノ序村民ヲ懷柔シ排日行動ニ努メツアリ又通信ニ関シテモ哈府ト氣脈ヲ通シアリ「ソフィースク」村民ハ日本軍ト民警トノ板挾ミノ観アリ民警ハ目下減少シ三十名トナレリ彼等ハ独リ（不明）ナルモ其駐屯ハ民心ニ至大ノ影響ヲ与ヘ又我軍ノ行動及情況ヲ推知セラルルハ不利大ナリ

四、尼港（？）側ハ「キシリヨーファカ」ニ逐次根拠ヲ得我ト対峙セントスルモノノ如ク目下民警約八十（近ク哈府ヨリ増加ノ模様アリ）砲艦二アリ出入船舶ノ取締、日探

総領事 松村貞雄（印）

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

軍司令官諭告公布ノ件

児島司令官教育總監部本部長ニ転シ新タニ町田中将當軍司令官ニ任ゼラレ本月二十日着任本日ヲ以テ別紙ノ通り一般民衆ニ対シ露訳文ヲ添ヘ諭告ヲ発シ候此段申進候 敬具

（写送付先 浦潮総領事）

（附屬書）

七月二十三日附町田薩哈噠州派遣軍司令官諭告

諭 告

本職茲ニ大命ヲ奉シ薩哈噠州派遣軍司令官ノ任ニ莅ムニ方リ占領地民衆ニ告ク

昨年七月三日日本帝國政府ノ宣言ニ基キ軍カ北樺太並對岸要地ヲ占領セシ以來既ニ一歳此間諸子ハ艱苦ニ耐ヘ欠乏ヲ忍ビ能ク軍ノ目的ヲ解シ官ノ施政ニ服シ今ヤ庶政概ネ其緒ニ就クニ至リシハ本職ノ深ク欣快トスル所ナリ

本職曩ニ露国ニ在ルコト前後三回ニシテ略ホ露国ノ事情ニ通シ国民ノ性情ヲ解ス今次此ノ地ニ来リ重テ露国人ト相見ユルヲ得タルハ恰モ旧知ニ遇フノ感アリ加フルニ占領地内

ノ詮議嚴ナルモノノ如シ

以上ノ情況ニテ「ソフィースク」等ハ最モ至敵ノ警戒ヲ要スル地点ナルヲ以テ軍トシテハ極力現兵力中ヨリ融通シテ万一ニ応ズル防務ヲ為シ置クヘシト雖手薄ノ感ナキ能ハズ殊ニ我方針（ニ基キ？）驅逐艦カ八月、九月頃ニ至リ撤退スル場合ハ我勢力ニ影響シ彼ニ氣勢ヲ与フルコトアルヲ以テ之ニ関シテハ第三水雷戰隊長ニ冬營ヲ可トスル意見ヲ述ベ置キタルモ万一冬營セザル場合ニハ陸軍自ラ船ヲ備ヒ武装自衛ノ覚悟ヲ要ス今后「プロ」ノ行動及ヒ彼等ノ通信ヲ拘束シ圧迫ヲ加ヘサル限りハ不安情況ハ除去シ能ハザルモノトス就テハ之ニ関シ中央ノ意向及目下並ニ将来哈府特務機關ノ行動及通信上ノ範圍並ニ程度承知シタシ

一〇四一 七月二十三日

松村総領事（亜港出張中）ヨリ  
内田外務大臣宛

新任町田薩哈噠州派遣軍司令官諭告公布ノ件

附屬書 右諭告

公第三三三號

大正十年七月二十三日

（八月四日接受）

在アレクサンドルフスク

ノ日露兩國国民及其他相倚リ相扶ケ互ニ福利ノ開發増進ニ努力シアルノ状ヲ目撃シ衷心歡喜措ク能ハサル所ナリ

本職新ニ任ニ就クト雖施政ノ根本ニ至リテハ毫モ改変スル所ナク国籍ノ如何ヲ問ハス我占領地域内ノ民衆ヲシテ均シク福祉ヲ増進セシメント欲ス諸子夫レ本職ノ意ヲ体シ能ク法ニ遵ヒテ案ヲ益々和衷協同以テ永久ノ平和ヲ確保スルコトヲ望ム

大正十年七月二十三日

薩哈噠州派遣軍司令官 町田 經宇

一〇四二 七月二十五日

尾野陸軍次官ヨリ  
埴原外務次官宛

薩哈噠州占領地域内ニ於ケルチタ政權代表者

ノ取扱方ニ関スル件

西密一二〇號

（七月二十六日接受）

大正十年七月二十五日

陸軍次官 尾野 実信（印）

外務次官 埴原 正直殿

薩哈噠州占領地域内ニ於ケルチタ政權

代表者ニ関スル件通牒

首題ノ件ニ関シ別紙<sup>(註)</sup>ノ通薩哈噠州派遣軍參謀長ヨリ申越候ニ付左記ノ通返電致置候条及通牒候也

左記

薩參四一九返

貴軍ノ占領地域内ニ於テハ「チタ」政權ノ權力ヲ認メザルヲ以テ不都合ノモノアルトキハ相等取締ヲ実行セラレ支障ナシ然レドモ近ク「チタ」政權ト非公式ニ通商開始ノ交渉ヲ予期シツツアル今日彼ト事端ヲ繁クスルコトハ得策ニアラザルヲ以テ努メテ穩和ノ手段ニヨリ解決セラレタシ我哈府ノ特務機關ハ將來モ引続存置セラルル管

註別紙薩參四一九前掲ニ付省略

一〇四三 九月十一日 鈴木通訳官ヨリ  
内田外務大臣宛

薩哈噠州占領地施政ニ関スル浦潮露字新聞記

事訳文送附ノ件

附屬書 右訳文

公第四五号

(九月十九日接受)

大正十年九月十一日

薩哈噠州派遣軍司令部附

者ニ非ズ確實ナル日本ノ証書類ヲ以テ立論ノ根拠トナスモノナリ

千九百二十年四月二十九日日本支隊長多門大佐ハ薩哈噠州住民ニ諭告ヲ發シテ曰ク日本国政府ハ居留民保護ノ目的ヲ以テ軍隊ヲ派遣セルモノナリ故ニ我軍ハ露国内政ニ干渉セズ住民ノ希望ト利益トヲ尊重シ生活ノ安定ヲ計リ而シテ日露兩國国民ノ平和的親交ノ基礎ノ上ニハ相互の尊敬ノ原則ヲ置ク可シト

日本官憲ガ兵力ヲ以テ露国領土ヲ掠奪シ前記諭告ヲ發シテ未ダ二ヶ月ヲ經過セザルニ日本政府ハ千九百二十年七月三日附ヲ以テ更ニ宣言ヲ發表シテ曰ク千九百二十年春「ニコラエフスク」ニ於ケル虐殺事件ハ帝国政府ヲシテ国家ノ威信ヲ全フセンガ為メ必要ナル措置ヲ執ルノ已ムヲ得ザラシメタリ然ルニ目下實際上交渉シ得ベキ政府ナク如何トモスル能ハザル状態ニアルヲ以テ將來正当政府樹立セラレ本事件ノ満足ナル解決ヲ見ルニ至ル迄薩哈噠州内ニ於テ必要ト認ムル地点ヲ占領スベシト斯クテ多門大佐ノ兩國民親交ニ関スル諭告ハ徒ニ声ノミ高キ言句ニシテ其裏面ニハ今回公然ニ發表セラレタル宣言ノ内容ガ潜在セシコト明瞭トナレ

公使館二等通訳官 鈴木 相之助(印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

本年八月十三日十六日十八日及二十三日附浦潮露字新聞「スローウオ」紙上ニ於テ「新日本」ト題シ当薩哈噠州派遣軍ノ占領地施政ニ関スル連載記事散見ニ及ビ候処右ハ日本軍ニ反感ヲ抱ケル一露国人ノ兒嶋司令官在任一ケ年間施政成績ニ対スル総評トモ見ルベキモノニ有之候ニ付玆ニ全文ヲ訳出シテ御参考迄及御送附候也

(附屬書)

浦潮一露字新聞ノ薩哈噠州占領地施政ニ関スル記事訳文

新日本

一

歴史ハ吾人ニ教ユ過去ヲ探リテ現在状態ヲ熟知シ然ル後將來ヲ断ジ得ルコトヲ、此金言ニ從ヒ最爾タル沿海州ノ国家の生活現象ガ現在ノ如キ情勢ナルニ於テハ同州ノ住民タル吾人ハ一刻モ早ク我隣国ノ新国家組織ニ関スル簡單ナガラモ而モ教訓のナル歴史ニ通曉セザル可カラズ余ガ本文ニ於テ新日本ト称スルハ隱密ノ間ニ最モ迅速ニ日本ノ一州ト化セル旧露西亜帝国薩哈噠州ヲ指示ス余ハ徒ニ言辭ヲ弄スル

リ多門大佐ニ代リ兒嶋中將ガ薩哈噠派遣軍司令官ニ任ゼラルルヤ同將軍ハ住民ニ対シ約スル所頗ル多ク前記宣言ヲ引用セル諭告ニ於テモ日本派遣軍ハ民衆ノ安寧ヲ保持シ其福祉ヲ増進シ又一般ノ施政ニ関シテハ成ルベク從來ノ法規慣習ヲ尊重シ産業其他諸般ノ施設ニ依リ一般民衆ノ幸福ヲ図ルモノナル旨ヲ述ベ以テ住民ヲシテ之ヲ妄信セシメタリ又該諭告ニハ兩國国民ハ深く前頭ノ趣旨ニ鑑ミ相倚リ相扶ケ親交ノ厚ヲ致スベシトノ叙述モアリタリ

露国領土ニ於ケル初代民政長官ノ露国民ニ対スル此諭告ハ如何ナル程度迄真ナリシカ吾人ハ薩哈噠州民政ノ過去一ケ年間ニ兒嶋中將ニ依リテ發布セラレタル諸法規ヲ審査シ以テ之ヲ探究セントス諸法規ニ依リテ見ルニ地方自治ニ関スル露西亜帝国ノ法律ハ全ク廢棄セラレタリ是レ千九百二十年九月二十五日發布セラレタル地方惣代並ニ相談會設置規則ニヨリテモ明カナル所ナリ

又露国民ノ財産及其他諸權利ヲ規定スル諸法規ハ徐々ニ日本法律ヲ以テ之ヲ改廢セリ然レドモ尚ホ之ヲ以テ足レリトセズ兒嶋中將ハ新法令ヲ發スルニ當リ兩國民間ノ友誼ヲ尊重セザルノミナラズ反テ一方ニ於テハ露国民ヲシテ其国民



性並ニ曾テハ偉大ナル露西亜帝國所屬ノ民族タリシコトヲ忘レシメ又他方ニ於テハ日本人ヲシテ其民族ト國民トノ存在ヲ忘レシムルコトニ努力ヲ致セリサレバニヤ過ギシ一ケ年間ニ發布セル諸法令中ニハ民政地域内ニ居住スル人ニ関シテハ一般抽象的人ニ就テ言顯シ決シテ抽象的人トシテノ露國人ニ就テハ言顯サザリキ兒嶋中將ハ其施政一ケ年間ニ於テ唯二回露國人ニ関シ規定ヲ設ケタルコトアリ即チ一ハ千九百二十年八月三十日附軍令第六号薩哈噠州派遣軍民事令ニシテ他ハ同年同月同日附第十六号外人取締規則之ナリ然レドモ同令ニ於テ露國人ハ特別ノ注意ヲ以テ尊敬セラレ（諷刺的）タリ何ヲ以テカ然カ云フ答ヘテ曰ク本令ニ於テ露國人ハ支那人ト共ニ他ノ諸外国人ト異レル特殊ノ待遇ヲ受ケ露國人ニ関シ特別ノ規則ヲ設ケタルガ故ナリト此ノ他ニ於テハ過去一ケ年間ニ發布セル法令中露國人ニ関スル規定更ニ之レ無ク單ニ「露西亞」ト云フ形容詞ダニ見出サザルナリ

過般開催セル兒嶋中將送別園遊会ニ於テ將軍ハ此法式ニ依レル薩哈噠州施政ニ関シ自己ノ成セル事業ヲ自讃シ且ツ曰ク余ガ薩哈噠州ニ於テ諸子ト共ニ諸般ノ施設ニ着手セシ以テ表現セラレタリ

八月三十日無數ノ法令ハ發布セラレタリ是等法令ハ凡テ戒嚴令若クハ非常警備狀態ニ在ル地方ニ関スル律令ニ類似ノモノナリ是ガ為メ日本人ハ勿論除外シテ各住民ハ軍隊及職權者ニ反シテ行ヒタル總テノ犯罪ニ関シテハ陸軍刑法ニ依リ日本陸軍裁判權ニ服從セシメラレ是等犯罪ニ對シテ銃殺ニ至ル迄ノ各種刑罰ニ処セラルル事トナレリ

凡ソ事件ノ審理ハ日本陸軍裁判法令ニ基キ單獨裁判官ニ委嘱セラルルナリ薩哈噠州ノ狀態ハ全然スル非常法令及峻嚴ナル処置ヲ適用スルノ必要ニ迫ラザリシモ一步ヲ譲リテ何等カノ理由ヲ有スルモノトシ前掲法令ノ發布ヲ許容セン然レドモ民事令ノ發布ニ至リテハ明カニ露國人ノ權利ヲ根底ヨリ破壊シ國際慣例ニ違背スルモノナリ如何ナル事情アルニモセヨ又占領ト云フ名義ヲ以テスルニモセヨ本令ハ認容スベカラザル不条理ナルモノト謂ハザル可カラズ本令ニ從ヘバ凡テ民事訴訟ハ日本帝國ノ法律ニ依リテ行ハレ露國人相互間ノ訴訟事件モ「公ノ秩序ニ反セザル場合ニ限り占領地ノ法令及慣習ニ依ル」ノ条項ニ依リ行ハルルモノナリ何タル讒言ゾ又露國人ノ權利ヲ蹂躪スルコト夫レ幾何ゾ民

来既ニ一歳ノ星霜ヲ経タリ此間ニ諸子ノ余ニ示サレタル援助ニ對シ深ク感謝ノ意ヲ表ス殊ニ露國人ガ専ラ人道上ノ思慮ヲ以テ余ノ意志ニ投合シ余ヲ支援セラレタルヲ深ク喜ブ余ハ委細闕下ニ奏スベシト尚終リニ臨ミ將軍ハ露國人ニ對シ希望ヲ述ベテ曰ク諸子ヨ庶幾クハ薩哈噠州開發ノ為メ採レル總テノ措置ニ對シ辛苦忍耐スル所アラシコトヲト人道上ノ如何ナル思慮ガ薩哈噠州ノ住民ヲシテ總テノ措置ニ對シテ辛苦忍耐セシメタルカ又其措置トハ如何ナルモノナルカ項ヲ改メテ述ブル所アル可シ

## 二

千九百二十年八月二十日初メテ兒嶋中將ハ露國薩哈噠州ニ到着セリ其目的ハ中將ノ言ニ從ヘバ露國過激派ガ其國民ト共ニ殘忍ナル虐殺ヲ恣ニシ之ガ為メ毀損セラレタル日本國ノ威信ヲ当地ニ於テ維持センガ為メナリト然レドモ該虐殺ニ際シテハ露國人ノ血ヲ流セルコト日本人ノソレヨリモ多ク加之前記過激派ハ一般露國民トハ何等ノ關係ヲ有セザリシナリ莊嚴ナル宣誓ニモ拘ラズ十日ヲ出デザル間ニ此ノ國威維持ハ薩哈噠州派遣軍占領地内無辜ノ人民ヨリ其期セル裁判ノ公平ト露國市民ニ固有ナル權利トヲ剝奪スルコトヲ

事ニ関スル事件モ同ジク日本法律ニ基キ訴訟金額ノ多少ヲ問ハズ單獨裁判官ノ審理ニ委ネ裁判官忌避ノ申立ノ權利モ無ク又原告側被告側ハ裁判官ノ勝手ナル裁判ヲ防止スル基本的權利ヲモ有セズ裁判官ハ自己ノ裁量ニ依リ証人ノ訊問ヲ為シ強制的ニ其決定ヲ履行セシムルノ權ヲ有ス公正証書ノ作成ハ派遣軍法院審判官日本法律ニ依リ之ヲ取扱フ然レドモ尚之ヲ以テ足レリト為サズ九月十七日新法令ヲ發布シ日本人以外ノ各人民ハ之モ所謂正義人道ニ依リ相倚リ相扶クルノ主義ニ基ケルモノナルカモ計リ難ケレドモ（諷刺的）政治宗教職務上ノ犯罪例ヘバ寺院ニ對スル不敬罪宣誓及官ノ呼出ニ応ゼザルノ罪賭博富籤其他多數ノ普通刑事事犯ニ付テモ陸軍裁判權ニ服從セシメラルルコトトナレリ

申迄モナク露國官憲ハ租借權ニ依リ占領セシ地方ニ於テモ將又団匪事件ノ際戰時權利ニ依リ占領セシ諸地方ニ於テモ未ダ曾テ日本軍ニ類似セル法令ノ適用ヲナセシ事ナク當時人民ノ私權ハ其地方ノ法律ニ依リ之ヲ保護尊重セリ

新日本ノ領土ヨリ帰來セル者ノ言ニ依レバ日本官憲ノ相互尊敬主義ニ基ケル人道的行動（諷刺的）ハ事實上露國領土内ノ露國人ハ其正当ナル權利ヲ保護サルル事ナク露國人ト

日本人間ニ訴訟事件ノ發生シタル時ハ常ニ後者ノ勝訴ニ帰スルノ結果ヲ齎スニ至レリト

其他事件ハ凡テ通訳者ヲ経ルノ必要アリ其際通訳者ハ其出願者ヨリ貢物ヲ取集ス又法令ハ日本文ヲ以テ發布セラレ文意不明ノ訳文ヲ附ス之ガ為メ誤疑ヲ生ズルトキハ勿論露国人側ノ不利益ニ解釈スルヲ常トスト「シエミヤーキン」式裁判トシテ左ニ一例ヲ挙ゲン

薩哈噠州ニ「アレキサンドロスカヤ」労働組合所屬ノ鉱区アリ同鉱区ハ島田商会之ヲ掠奪シ鉱区所有者ヲモ其鉱区ニ出入スルコトヲ許サズシテ日本人ヲ使役シテ採掘ニ着手セリ依テ鉱区所有者タル露国人側ハ訴訟ヲ提起シタル処露国人ガ正当ナル権利者ナルコト顯著ナル事実ナルヲ以テ法院トシテハ労働組合ノ請求ノ正当ナルヲ認メ其請求金額ヲ組合ニ対シテ支払フベシトノ判決ヲ下スノ外ナカリキ然レドモ之レ島田商会ノ欲セザル所ナリシヲ以テ同商会ハ兩国民間ノ友誼ノ伝教者（児嶋司令官ヲ指ス）ニ向ッテ本件ノ解決方ヲ歎願セシニ同氏ハ「ソロモン」ノ如ク鉱区ヲ何レノモノニモ与ヘズシテ之ヲ閉鎖セリ然レドモ斯克モ公平ナル判決ヲ受クルノ幸福（諷刺的）ハ未ダ普ク一般露国人ニハ

及バザルナリ（他ノ露国人ハ是ヨリ以上不公平ナル裁判ヲ受クルヲ諷刺セルナリ）

前記各種ノ法令發布セラレタル後露国人ガ如何ニ自分ヲ幸福ナルモノト感得セシヤハ（諷刺的）左ノ事実ニ依リテ之ヲ知ルヲ得ベシ

前記諸法令發布後二日ヲ経テ露国人ハハ在浦潮領事団ニ電報ヲ以テ歎願シテ曰ク露国人ハ薩哈噠州領土不可侵ヲ固ク遵守スル勇敢ナル隣国日本ノ決心ヲ疑フコトヲ欲セズ然レドモ唯々疑惑ノ念禁ズル能ハザルヲ以テ露国人ハ薩哈噠州ガ賠償（「トリヤピーツイン」一派ノ犯罪ニ対シテ？）ノ目的物ニ非ズ又同州ガ露西亜母国ヨリ分離セラルルモノニ非ズトノ確認ヲ他ノ聯合諸国ヨリ得ムト期待シ之ヲ以テ安心ヲ求メント欲スルモノニ外ナラズト

然レドモ此歎願ハ勿論名宛人ニ到達セズシテ空中ニ吊下シ広漠タル荒野ニ於テ号泣スル声ト残レルモ薩哈噠州住民ノ不安疑惑ノ念ヲ抱懷スルハ深キ根底ヲ有スルモノナル事ヲ推定スルニ難カラザルナリ

## 三

薩哈噠州ノ住民ガ其刑事犯罪ニ対シテノミナラズ自国人間

ノ訴訟事件審理ニ際シテモ露国法律ニ依リテ露国人トシテノ取扱ヲ受クルノ權ヲ剝奪セラレタルコトヲ思惟シ得タル

後間モナク千九百二十年九月五日日本軍政部ノ命ニ依リ日本労働者及兵卒ハ「アレキサンドロフスキー」市役所ノ書類全部ヲ取纏メ之ヲ車ニ載セ何処ヘカ運ビ去リ茲ニ市ノ自治ニ止メヲ刺シタリ日本軍司令部ノ公示ニ依レバ前記書類ハ全部日本軍ノ処分ニ歸スルモノナリト斯克テ簡單ニ「アレキサンドロフスキー」住民ハ永久ニ市ノ自治ト告別スルニ至レリ

是ヨリ三週間ヲ経テ特別支隊ノ占領セル州内ノ諸地方ニ於テハ地方自治ニ関スル露西亜帝國ノ諸法令ハ之ヲ廃棄スル旨ノ告示アリ其ノ代リトシテ名誉職タル地方惣代並ニ相談会招集セラレタリ総代ハ日本ノ公務ニ従事スル官吏ト異ナラス一定ノ俸給ヲコソ支払ハレザレ軍ノ考量ニ依ル報酬ヲ受ク惣代ハ新官憲ノ發布セル法規周知ニ関スル事項ヲ掌リ相談会ハ官ノ諮問ニ応シ意見ヲ答申ス此不思議ナル相談会ノ相談役ハ日本軍憲ニ依リ任免サルモノナリ日本軍ガ兩国民ノ親善ヲ標榜シ地方自治ノ為メト称シ設立セル前記相談会ノ機能ハ露国人ニハ全ク作用ヲ及ボサザルモノニシテ

斯カル機關ノ設立ヲ欠クモ露国人ハ一物ヲモ失フ所アラザルナリ

此頃ヨリ全露国人ニ対スル日本軍憲ノ討伐開始サレ多数ノ法令ヲ發布シ以テ露国人ヨリ商工業ヲ営ムノ權利職人トナルノ權利及ビ一般ニ生活ノ為メニスル營業ノ權利ヲサヘ全然剝奪シ若クハ之等諸權利ニ著シキ制限ヲ加ヘタリ剩ヘ正式ニ權利ヲ許容スルニモ複雑ナル規定ノ下ニ各種ノ条件ヲ附シ且ツ日本國庫收入ノタメ苛税ヲ課ス又露国人ガ如何ナル事業ニ従事セントスルニモ之ニ対シ特別ノ許可ヲ要シ露国人ノ一挙手一投足ニ至ル迄日本官憲ハ軌範ヲ定メ附スルニ規則違反ニ対スル制裁（監禁罰金）ヲ以テセシカバ住ミ慣レシ居所ヲ見捨テテ転住スルノ露国人統出スルニ至レリ九月十四日土地ニ関スル權利變更取締規則ヲ發布セラレ日露兩國人ハ軍政部長ノ許可ヲ得ルニ非ザレバ土地ノ売買ヲ為スヲ得ザルノミナラズ一坪ノ土地ト雖モ賃貸借スルコトヲ得ズ官有地ノ借受ケニハ種々ノ条件ヲ以テ制限ヲ加ヘ一定期間内ニ工事ニ着手スルノ義務サヘ有リ千九百二十一年二月九日不動産權利設定移轉取締規則ヲ發布アリ同令ニ違反シタルモノハ一ケ年以下ノ監禁又ハ五百円以下ノ過料ニ処

セラル

凡テ權利者ハ一定ノ期間内ニ之カ証明ヲ受ケ特別証明簿ニ登録スルノ要アリ

勞務ヲ要スル事業ハ一トシテ新官憲ノ注意ヨリ洩レタルモノ無シ狩獵規則、鉱業取締令、石炭輸出取締規則、官有山林產物処分規則、漁業取締令、漁区及製漁區貸下令、土石採取規則等各種ノ法規相次テ發布セラルルアリ實ニ先見者タル主人(日本軍憲)ノ注意ヨリ洩レタルモノ一トシテ之レ無キニ非ズヤ之等諸法規ハ凡テ薩哈噠州何処マデモ開拓シ尽サントスル為メニ利用セラルルハ言フ俟タザルナリ露國人ガ許可ナクシテ從事シ得ル事業一モ之無シ而モ其許可ヲ受クルニハ種々ノ要式手續ヲ必要トス例ヘバ石材又ハ土砂ヲ採取セント欲スルモノハ採取區域及ビ隣接地ノ図面採取地ノ面積其他ノ事項ヲ具シ出願スルヲ要スルガ如シ加之斯種ノ許可ニハ苛酷ノ税金ヲ課シ規則違反者ヲ監禁ニ処スルノ制裁アリ例ヘバ鉱業權ヲ有セズシテ鉱物ヲ採掘シタル者ハ之ヲ十年以下ノ監禁ニ処スルガ如シ

今茲ニ是等法規全般ニ亘リテ詳細ニ報道スルハ紙面ノ許サザル所ナルヲ以テ本件ニ趣味ヲ有セラルルノ士ハ編輯局ニ

傍者児嶋中将ガ薩哈噠州行政長官ノ任ニ莅ムニ当ルヤ直ニ在住者取締規則ヲ發シ其法ノ効力ヲ以テ公安ヲ害シ風俗ヲ紊スル虞レアリト認メタル場合ハ在薩哈噠州土着ノ露國人ヲシテ同州ヲ退去セシムルヲ得ルコトトシ且ツ定刑ノ範圍ヲ擴大シテ行政上必要アルトキハ監禁退去若クハ過料等ニ取捨伸縮ノ余地アラシメタリ

新日本ニ入国スルハ最モ困難ノ業ナリ入国スルニハ旅券査証ノ必要アリ若シ旅券ノ提出ヲ拒ミ帰還スルヲ肯ゼザルトキハ過料ニ処セラル又千九百二十一年一月規定ヲ設ケテ薩哈噠州領土ニ到来スルモノハ予メ適當ナル許可ヲ受クルヲ要スルコトトセリ

斯クノ如クニシテ薩哈噠州在住露國人ノ生活事情ハ我慢ノ強キ者強情ナラザル者迄モ成ルベク速ニ其財産ヲ始末シ其事業ヲ整理シテ從來ノ位置ヲ見捨ツルノ已ムナキニ至ラシム露國人ニハ今ヤ薩哈噠州ニ於テハ手ヲ袖スルノ外ナキナリ如何トナレバ同州ニ於テハ彼等ハ加フベキ勞務モ見出スコト能ハズ露國人ノ勞務ハ最早存在セザルガ故ナリ之ニ反シ各汽船入港毎ニ日本人ノ上陸スル者数百ヲ以テ数フ彼等ハ永住ノ決心ヲ以テ「アレキサンドロフスキー」及其他ノ

至リ原本ノ法規ヲ熟覽セラレムコトヲ望ム兎ニ角禁止令ニモ等シキ之等ノ手枷及苛酷ナル実施条件等ガ露国企業家ヲシテ相次テ其事業ヲ閉鎖シ若クハ売却スルノ已ムナキニ至ラシメタルノ事實ハ之ヲ認ムルノ要アリ

「スタヘーエフ」ノ如キ大商会スラ三菱ニ其事業ヲ売渡シ唯ダ露國人トシテノ財産ヲ保持スルノ余儀ナキニ至レルニ非ズヤ鉱業ニ関スル行政ハ今ヤ日本官憲之ヲ掌リ一人ノ露國人モ之ニ干与スルコト能ハズ前記三菱ハ注目ニ値スル事業ハ凡テ之ヲ掌中ニ収メント焦慮シツツアリ目下同会社ハ貸下ヲ受ケタル鉱區ノ採掘ニ從事シ日本ニ向ケ船舶ヲ以テ石炭ヲ輸出シ居レルモ勿論石炭ニ對シテハ如何ナル税金ヲモ支払フコト無シ

元來斯ル税金ハ其所有主タル露国政府ニ支払ハルベキモノナルモ今ヤ「トリヤピーツイン」虐殺事件ノ損害賠償トシテ日本人ノ所得ニ歸ス是レ余リニ過大ナラズヤ

## 四

新日本ニ於テハ露國人ノ一挙一動ニ對シ重稅ヲ課シ苛斂誅求止ム処ヲ知ラズ然レドモ尚之ヲ以テ少シト為シ露國人ヲ日本官憲ノ嚴重ナル警戒ノ下ニ置キ之ガ為メニハ人道ノ標

地点ニ盛ニ建築工事ヲ起シ中ニハ急速ニ家屋ヲ建築セムトテ出来合ノ家ヲ解キテ輸入スル者スラ少カラズ家屋ニハ地方ノ氣候ニ適スベキ暖炉ノ設備アリ建築落成スレバ直ニ住人其ノ中ニ充満ス其大部分ハ小売商人ナリ酒焼酎ヲ以テ唯一ノ商品トナス又日本国到ル所蔓レル夫ノ醜業婦ハ此処ニモ数ヘ切レヌ程其姿ヲ現セリ

先進国タル日本ノ文明扶植ト称スルハ要スルニ前掲ノ外ニ出デズ少クトモ児嶋中将ノ立法機能ニハ文化教育ノ問題ニ関スル作用ハ未ダ之レアラザルナリ

郵便電信行政機關等凡テ日本人ノ掌中ニ有ルハ云ハズモガナ薩哈噠州ヨリ到来セルモノノ談ニ抛ルニ韃靼海峽ハ今ヤ日本ノ内海ト化シ此処ニハ日本ノ汽船、帆船、小蒸汽船等多數輻輳スルヲ見ルナリ

日本人ハ是等船舶ヲ露国沿岸ニ碇泊セシメ以テ「スウェトラヤ」灣以北ノ漁場ノ全部ヲ其掌中ニ収メ其処ニハ壮大ナル罐詰工場ヲ建設セリ又此沿岸ヨリハ盜伐セル木材ヲ盛ニ搬出シ薩哈噠州ニ於テハ油田ニ至ル輕便鐵道ヲ布設セル等日本人ノ所業實ニ驚クベキモノアリト

曾テ露国汽船ガ「デカストリー」ニ寄港セントセントキー

ノ日本軍小蒸汽接近シ来リ同船ニ対シ「我国法ニ依リ外国船ノ「デカストリー」ニ入港スルコトヲ禁ズ」トノ字句通りノ申渡ヲ為セリ日本官憲ニハ之レ以上為スベキ道ナシト見ユ

今ヤ薩哈噠嶼及薩哈噠州ハ大急行ヲ以テ日本官憲累次ノ声明ヲ外ニシテ露國ノ一州ヨリ日本ノ新一州ヘト変化シツ、アリ凡テ之等ハ勿論吾人露國人ガ果テシ無ク党争ヲ繼續スルノ故ニノミ行ハル、モノナリ我地方ニハ果テシ無ク政治ヲ論シ國民議會ニ於テ常ニ言論ヲ弄スルヲ以テ惟レ能事トナス者ノミ有リテ未ダ一人トシテ露國ノ一州ガ過激派一小団ノ犯罪ノ為メ露西亞ノ母國ヨリ分離シテ日本ノ一州ト化シツ、アルコト及ビ其レト共ニ飢餓ニ瀕セル露國民ヲ養フニ充分ナル此州ニ於ケル無尽財宝ノ何等報酬ナクシテ日本國庫ニ流転シ行ク事トヲ全世界ニ向ツテ絶叫シ以テ我等共有ノ母タル露西亞國ヲ最後ノ滅亡ヨリ救出セントスルモノ之レ有ラザルナリ

(終)

一〇四四 九月十三日 尾野陸軍次官ヨリ  
埴原外務次官宛

薩哈噠軍ニ於ケル露國人電報取扱ニ關スル件

冬營ノ必要輕減セラレタルカ如シト雖今冬勘察加方面ニ於ケル情勢ノ變化ニ関シテハ浦潮政變ノ推移ニ関聯シ遽ニ逆睹スル能ハサルモノアリ事情ノ許ス範圍ニ於テ帝國艦艇ヲ勘察加方面ニ冬營セシメ居留邦民ノ保護及利權擁護ニ任スルハ万全ノ策ニシテ事情止ヲ得サルモノト認メラルルヲ以テ左記要領ニ依リ之ヲ処理スルコトニ致シ度

記

- 一、特務艦關東ヲ「ペトロパヴロフスク」ニ冬營セシム
- 二、關東冬營ノ目的ハ在「ペトロパヴロフスク」帝國領事館及同地居留邦民保護ヲ主トシ兼テ勘察加方面漁区及罐詰工場番人ノ收容ニ任ス
- 三、海軍兵力ハ露國內政ニ對シテハ主義トシテ不干渉ノ態度ヲ保持スヘキモ要スレハ露人及土人ヲ救恤スルト共ニ
- 四、匪ノ情勢ニ依リテハ自衛上必要ナル手段ヲ講ス
- 四、予算ハ二百万円以内トシ別途要求スルコト

(終)

一〇四六 十月十四日 埴原外務次官ヨリ  
尾野陸軍次官宛

薩哈噠軍ニ於ケル露國人電報取扱ニ關シ回答

一一 薩哈噠州占領地域施政關係一件 一〇四六 一〇四七

陸軍省送達西発第九〇五号 (九月十四日接受)  
大正十年九月十三日

陸軍次官 尾野 実信(印)

外務次官 埴原 正直殿

首題ノ件ニ関シ左記ノ通取扱方認可ニ付貴見承度候也

左記

薩哈噠州派遣軍ニテ管理シアル大陸方面占領地域内ノ露國電信線路ハ諸種ノ關係上占領地域外ヘノ発信ヲ許スヲ有利ト認メラレ候ニ付料金ニ関シテハ露國從來ノ規定ニ依リ我軍ニテ徴收シ他日政府間ニ決算ヲ為スコトトシテ実施セントス

一〇四五 九月十三日 閣議決定

冬期勘察加警備ニ關スル件

軍艦石見及特務艦關東ハ西比利亞方面不穩ノ情勢ニ鑑ミ大正九年七月閣議決定ニ基キ昨冬勘察加州「ペトロパヴロフスク」ニ冬營越年シ勘察加方面居留邦民ノ保護及利權擁護ニ任セリ

現下四匪ノ情況ハ昨年ニ比較シ其趣ヲ異ニセルヲ以テ軍艦

ノ件

歐一機密第一三〇号

本件ニ関シ客月十三日附西発第九〇五号ヲ以テ御申越ノ趣了承右ハ当坐便宜ノ方法トシテ且ツ露國人ノ電報ヲモ取扱フ了解ノ下ニ実施方当方ニ於テ異存無之ニ付右様御承知相成度此段申進候也

一〇四七 十月十九日 鈴木通訳官ヨリ  
内田外務大臣宛

アレクサンドロフスク及デルビンスコエ間輕便鐵道開通ノ件

附屬書 右開通ノ概況

公第五三三号 (十月二十六日接受)

大正十年十月十九日

薩哈噠州派遣軍司令部附

公使館二等通訳官 鈴木 相之助(印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

北樺太亞港及デルビンスコエ間輕鐵開通ニ關スル件

本件ニ関シ概況別紙ノ通り御参考迄ニ及御報告ニ候条可然御査閱相成度此段申進候也

(附屬書)

北樺太亞港及デルビンスコエ間輕鉄開通

亞港「デルビンスコエ」間輕便鐵道ハ十月十四日開通セリ  
本鐵道ハ亞港ヨリ「ルイコフ」ニ通セシムル目的ヲ以テ昨  
年八月十二日ヲ以テ起工シ人夫約三千人ヲ使役シテ先ツ亞  
港附近ニ於ケル輕便鐵道ヲ敷設シ同時ニ前方ノ工事進捗ニ  
努メ十月二十四日亞港停車場ヲ起點トシテ約十吉米ノ敷設  
ヲ為シ其作業ヲ中止ス

冬期間ニ本年度工事ノタメ架橋材料ト伐採並ニ其他ノ準備  
作業ヲ行ヒ本年四月積雪尚融解セザルモ工事進捗ノ關係上  
臨時人夫ヲ以テ先ツ昨年度ノ工事ヲ繼續シテ開始シ五月下  
旬職工傭人約千五百人到着スルヤ工事ハ益々活氣ヲ呈スル  
ニ至リ爾來約一ヶ月ニシテ線路ハ第二「アルコワ」迄開通  
セリ第二「アルコワ」ヨリ前方「カメンシーエ」峠迄ノ線  
路ハ本線中ノ難工事ニシテ時恰モ炎暑ノ候ニ際シ之ヲ突破  
スルタメ一大努力ヲ要セシモ幸ニ工事ハ着々進捗シ八月十  
五日終ニ海拔一千尺ノ峠上ニ機關車ヲ進ムル事ヲ得タリ  
其後工事ハ益々順調ニ進捗シ九月十六日「アルムダン」停  
車場ヲ開設シ十月八日敷設頭ハ終ニ本年度工事ノ終點タル

アレクサンドロフスク対岸地方最近情報

一、尼港 (ニコライエフスク)

(一) 住民

イ、日本人

大部分ハ商人ニシテ露人ニ財力無キタメ一攫千金ノ夢破レ  
タリト雖軍建築班ニ於テ支払ヒタル拾七万円ヲ始メトシ其  
他軍隊官衙等ニ於テ支払ヒシ金額モ亦寡カラズ為ニ多少市  
内ヲ潤シ秋季ニ入り漁獲ノ豊カナリシ等ノ關係上稍々順調  
ニシテ甚シキ落伍者ヲ認メズ目下冬營又ハ帰還準備ノタメ  
多忙ヲ極メツ、アリ

ロ、朝鮮人

大部分ハ労働者及農夫ニシテ不逞ノ徒モ若干混入セルモノ  
ト認メラル、モ目下ノ情況憂慮スベキモノヲ見ズ蔬菜ノ収  
穫漁場其他ニ於ケル労働ニ依リ一般相当ノ收入アリテ比較  
的安全ニ生活シツ、アリ

ハ、露人

一般ニ平穩ニシテ過激派ノ言動ヲ敢テスルモノ無ク安堵シ  
テ皇恩ニ浴シツ、アリ尼港市内ハ勿論各村落ニ至ル迄日本  
人ニ信倚セザレバ到底自立シ能ハザルコトヲ十分ニ自覺シ

「ツイミ」河左岸地区ニ達シ茲ニ「デルビンスコエ」仮停  
車場ヲ設ケ十月十一日ヨリ亞港「デルビンスコエ」間一日  
往復三列車ノ運轉ヲ開始スルニ至レリ

線路ノ全長ハ亞港終點間六十五吉米七百米亞港埠頭間三吉  
米三百米其他支線約二吉米ヲ合シ總計七十二吉米即チ約四  
十四哩ナリ

(以上)

一〇四八 十月十九日 鈴木通訳官ヨリ  
内田外務大臣宛

亞港對岸地方最近ノ情報報告ノ件

附屬書 右情報

公第五五号

大正十年十月十九日

(十一月一日接受)

薩哈噠州派遣軍司令部附

公使館二等通訳官 鈴木 相之助 (印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

對岸地方最近情報ノ件

本件ニ關シ別紙ノ通り御参考迄ニ及御報告ニ候条可然御査  
閱相成度此段申進候也

(附屬書)

アリト認ム

尼港市民ハ市成立ノ關係上自治精神ニ富ミ租税等ノ義務ヲ  
了解シ教育等ニ熱心ナリ然レドモ元來遊惰ニシテ勤儉自ラ  
運命ヲ開拓スルノ氣力ニ乏シク軍關係事業及秋漁等ニ依リ  
若干ノ收入ヲ得テ生活ニ余裕ヲ得タル如ク察セラル、モ猶  
昨日ノ收入ハ今日ノ飲酒料ト化スルノ徒多ク未ダ俄ニ恢復  
ノ見込ナキ情況ニ在リ

其他ノ各村落モ昨年來疲弊其極ニ達シ「コガ」「ポリシエ  
ミハイロフスコエ」「ボゴロドスコエ」ノ如キ大村落ハ比  
較的物資輸入セラレタリト雖モ本年ノ夏漁皆無ナリシノミ  
ナラズ秋漁亦黑竜江減水ノ結果尼港上流ノ各村漁獲小数ニ  
シテ糧食問題ニ困難シツ、アリ特ニ「ボゴロドスコエ」附  
近ノ「ギリヤーク」ハ犬ノ飼料ニモ窮スルノ現状ナリ

ニ、支那人

概シテ朝鮮人ト同一ノ景況ニ在リ而モ市内家屋建築用大工  
ノ如キハ殆ド独專ノ現況ニアリ

(二) 人口

尼港市ニ於テハ現今日本人一、二九二人、朝鮮人一、一三  
五人、露人二、一一八人、支那人九五三人 合計五、四九

八名ニ上レリ各村落ニ於テハ大村落ノ外未ダ調査ヲ了セズ  
(三)冬營準備

冬營人員未ダ確定セズ目下届出済ノモノ日本人四七四人露人八七五人朝鮮人一六人支那人一六人ノミナルモ實際ハ現在人員ノ約六割以上冬營スベシト察セラル冬營間ノ糧秣ハ日本人ノ大商店ニ勸告シ多量輸入ヲ計リタル結果略ホ越年ニ支障ナキ程度ニ達セル見込ナリ

#### 四軍政上ノ施設

##### 其一、總代及相談会

尼港ニ於ケル日本人總代及相談会ハ八月二十七日成立シ爾後二回マデ開催シタリ役員克ク誠意ヲ以テ諮詢ニ応ジ大イニ便宜ヲ与ヘツ、アリ

露人總代ハ尼港及「セルギロゼストウエンスカヤ」「ボリシエミハイロスカヤ」自治村団ニ各一名ヲ置ケリ

露人相談会ハ未ダ設置ヲ見ズ学校其他調査等ニ利用シツ、アルモ土地曠漠ニシテ交通ノ便ヲ欠キ未ダ總代制ノ実ヲ挙グルニ至ラズ

##### 其二、学校

尼港ニ於テハ九月一日以来小学教育所ヲ開設シ目下生徒数

ニシテ軍政部ノ承認ヲ得タル部並ニ軍政署長ノ管理ニ属スル土地ハ区劃ヲナシ貸下実施中ナリ現在貸下ゲヲナシタルモノ日本人七八件露人ニ二件アリ

官有建築物ニシテ現在住民ニ貸下中ノモノ左ノ如シ

日本人 七七

露人 五一

朝鮮人 三九

支那人 一

計 一六八

尚河岸ニ在ル倉庫ニシテ軍ニ於テ使用セザルモノハ軍倉庫長ト協議ノ上住民ニ貸下ヲナシツ、アリ

其他官有建築物焼跡ノ整理ニ就テハ市内警防衛生組合該不用品ヲ無償譲渡ヲ受ケ公私事業ニ使用セント出願セシヲ以テ上申中ナリ又焼栈橋ノ復旧整理ニ関シテハ予メ在留帝國商人ノ主ナルモノ相談リ露人ト協同之ニ当ラント目下研究中ニ属ス

#### (四)水産

本年夏漁ハ殆ド不漁ニシテ拳グルニ足ラズ秋漁ハ江口附近豊漁ニシテ一日ニ二十一尾ヲ漁獲シタルコトモアリシガ尼

二〇二名ニシテ尚多少増加ノ見込ミナリ市民ノ切ナル希望ニ依リ高等小学校設立準備中ナリ校舍ハ昨年ヨリ使用セシ黒竜江汽船会社ノ家屋ヲ利用シツ、アリ高等小学教育所ノ為メニハ運輸部事務室ヲ冬季閉鎖中充当スル予定ナリ学校用品書籍等殆ド不備ニシテ目下調査中ナリ

各村団ニ於テハ昨年ヨリ教育ヲ継続セシモノ「ヤルギー、ロゼンストウエンスカヤ」村団内ニ一及ビ「ボリシエミハイロフスカヤ」村団内ニ五アルヲ以テ本年ハ先ヅ此六校ヲ開校スル予定ニテ既ニ教師ノ任命学校用品等ノ配当ヲ了リ近ク授業ヲ開始スル見込ナリ

##### 其三、慈惠院

慈惠院ニハ目下二十一名ヲ收容シツ、アリ院内ニ監督者一名ヲ置キ治療ハ囑託露人看護長之ニ任ス同院所屬癩病院ハ薩哈噠州ノ癩病患者ヲ強制的ニ收容セシ所ニシテ目下收容患者三〇名アリ治療監督共ニ一名ノ露人看護長ヲシテ之ニ当ラシメツツアリ

##### 其四、土地建物ノ調査及貸下

市内ノ土地調査ハ全部終了セリト雖モ尚權利ノ移転其他所有權ノ疑ハシキモノ等アリテ引続キ整理中ナリ官市有土地

港上流ハ黒竜江減水ノ結果魚道例年ト異リ河ノ中央部ヲ通過セシタメ無智ノ露人特ニ土人ハ之ヲ捕獲スル材料ヲ有セズ空シク好機ヲ逸シタリ秋漁ノ漁獲高ハ明確ナラザレ共各方面ノ情報ヲ綜合スレバ概ネ左ノ如シ

江口以北ノ大陸側 二一五、〇〇〇石

同 以南ノ大陸側 二、〇〇〇石

黒竜江下流区 一五、〇〇〇石

本年度軍政署長委任事項ニ基キ漁業ノ許可ヲ与ヘタルモノ四十二件ニシテ不許可処分數ハ二十件トス

##### (六)軍政收入

建築物貸下ヨリ生ズル軍政收入毎月二千元ヲ下ラズ然レドモ十一月以後ハ市場ヲ閉鎖スル關係上殆ド拳グルニ至ルモノナキニ至ルベシト予想サル

##### (七)屠殺場

屠殺場ハ市設ノモノアリシガ昨年焼棄セラレ僅ニ一部ヲ存スルヲ以テ無償ニテ經營者ニ貸下ゲ漸次修繕ヲ行ハシメツツアリ

獸肉ノ検査ハ山砲隊ノ獸医之ニ任ス

尚ホ屠獸數ハ僅少ニシテ拳グルニ足ラズ

二、泥港（デカストリー）

同地軍政署ハ六月四日ヨリ開設セラレ管内主要ナル地方ハ「マリンスク」「ソフィースク」及泥港トス而シテ「マリンスク」「ソフィースク」ノ兩地ハ純然タル露人ノ部落ニシテ占領以來日尚ホ浅ク而モ軍ノ第一線ニ位置セルヲ以テ直ニ軍所定ノ諸法令ヲ実施スルモ徒ニ人心靜謐ヲ害シ疑懼ニ陥ラシムルノ虞アルガ故ニ時ノ必要ニ応ジ徐徐ニ軍令及部令等実施スルノ方法ヲ採リ過般漁業取締令公安維持ニ関スル軍令其他數箇ノ軍令ヲ公布実施セリ尚ホ「マリンスク」「ソフィースク」共応急設備ヲ以テ小学校ヲ開設スルノ運ビニ至レリ

(一)市街

軍ノ計画ニ依ル指定市街地ハ目下差当リ約四万五千坪ニシテ之ヲ二百二十戸ニ区画シ家屋建築ヲ条件トシテ土地貸下ヲ準備セルモ今日迄ニ土地貸下ヲ願出デタルモノ九十九戸ニ過ギズ然ルニ昨今ニ至リ二三返地ヲ申出デタルモノスラアリ

道路ハ最初予算ナキタメ兵力ニ依リ不取敢基礎的溝渠ヲ設ケ漸次応急設備ヲ完成スルノ計画ナリシモ守備隊及建築班

本年ノ冬營者ニ関シテハ軍ノ指示ニ從ヒ調査ヲ終リ其數六十九戸五九五名ナレドモ尚ホ減少スル見込ミナリ而シテ冬營間ニ要スル糧食及薪炭等ハ居住民各自自發的ニ其必要ヲ覺悟シ目下準備中ニシテ便船毎ニ輸入シツ、アリサレバ冬營間不足ヲ感ズルコトナキ見込ナリ

(二)住民ノ健康状態

一般ニ良好ニシテ八月初旬脳脊髄膜炎ニテ死亡セシモノ一名アリシノミ然レドモ未ダ医師ノ渡來セルモノナキヲ以テ当地分院ニ託シテ一時患者ノ診察ヲナサシメツ、アリ早晚診療所公設ノ必要ヲ認メツ、アリ

軍倉庫ニ納入ノ薪炭材料及ビ居住民自家用薪用材ヲ得ル目的ヲ以テ近時漸ク山林払下ゲ許可數増加シ其伐採ヲ實施シアルモ中ニハ誤伐及契約条項ヲ確守セザルモノ等アリテ常ニ嚴重ナル監視ヲ要スベキモ目下署員少數ニシテ其機關ヲ設クル能ハズ

三、マリンスク

当地ニハ日本人ノ在住者ナク唯ダ泥港及泥港居住者中時々当地ニ往來スルモノアルニ過ギズ是等本邦人ハ何レモ我軍ノ駐屯ヲ徳トシ好感ヲ有シ軍人軍屬ニ対シ常ニ尊敬ノ意ヲ

トモ援助ノ余力ナク其力ヲ俟ツ能ハザリシガ幸ニシテ新ニ予算ノ余裕アルニ至リ過般請負人ニ命ジ道路ノ築設ニ着手シ十月中ニ全部完成ノ見込ナリ

住民ノ飲料水ハ唯ダ一条ノ水流ニ依ルノミナレドモ目下ノ所ハ相応ニ需用ヲ充シ居レリ然レドモ夏季河流ノ枯渴及ビ冬季結氷間ハ水流ニ依ル能ハズ之ヲ顧慮シ居住民ノ用途ニ供スルタメ四箇ノ井戸ヲ準備シ其他河流ノ貯水場ニ防塞設備ヲ施シ冬期ノ使用ヲ試験セントス

(二)居民

泥港ハ由來露人ノ居住スルモノ僅カニ四戸三十二名ニシテ全ク草莽ノ地ニ過ギザリシガ日本人ノ渡航者ハ六月十日ヲ初航トシ十余回ニ亘リテ目下一、一〇〇名ニ達ス而シテ渡航者中ニハ小資本ニテ最初ヨリ本年冬期迄商業ヲ營ミ而シテ帰航セントノ意志ニテ渡來セルモノ尠カラズ又各自建築ノ終了迄商業ヲ營マシムルハ自他共ニ便益ナルヲ思ヒ別ニ仮居住地ヲ定メ來ル十一月下旬迄居住營業ヲ許可シタリシガ今ヤ其數百十戸ニ達シ宛然飯市街地ヲ形成セリ

職業ハ各種ニ亘リ居住者ノ需要ヲ充スヲ得ベキモ就中多數ナルハ料理店並ニ雜貨店ナリトス

払ヒツ、アリ

朝鮮人ノ在住者ハ八戸アリテ農業ヲ營ミ或ハ露人ニ傭役セラレ下等ノ生活ヲ為シ概ネ質朴ニシテ我軍ノ占領ニ対シテハ好感ヲ以テ之ヲ迎ヘ不逞鮮人ト認ムベキモノ無シ

支那人ハ十一戸中商業ヲ營ムモノ五戸農業トセルモノ六戸アリ是等支那人ハ何レモ貨殖ニノミ留意シ露國ノ政下ニ在ルト日本軍ノ施政ノ許ニアルトハ敢テ意トセザルモノノ如クナルモ日本軍ノ占領ニ依リ一般秩序維持セラレツ、アルタメ我軍ニ対シ好感ヲ有シ居レリ

露國人ハ我軍上陸當時ハ住民概ネ危惧ノ念ニ駆ラレ居リシモ其後地方一般ノ秩序恢復シ生活ノ安定ヲ得ルニ至リシヲ以テ我軍ノ駐屯ヲ徳トシ概ネ好感ヲ抱キツ、アリ然レドモ知多政府派遣行政官等ハ居住民ニ対シ私カニ各種宣傳ヲ為スニ依リ一部蒙昧ノ民ハ多少其言動ニ誘惑セラレ日本軍ニ親シミ浅キノミナラズ時トシテハ窃ニ反感ヲ以テ行動スルモノアリ

(以上)

一一一 薩哈噠州占領地域施政關係一件 一〇四九

一〇四九 十月二十二日 薩哈噠州派遣軍參謀長ヨリ  
參謀次長宛(電報)

ウドスキー郡長プロカベンコ自発的ニマリンスク退去ノ件

薩參謀第一〇号 (十月二十四日外務省写接受)  
在「マリンスク」「プロカベンコ」ノ妻カ悪宣伝ヲ為セシ  
廉ニヨリ同地守備隊ハ彼女ノ退去ヲ命シタルニ「プロ」モ  
自発的ニ二十一日哈府行汽船ニテ退去セリ彼ハ来春再ヒ来  
ル様語レリ(次長、次官、浦潮濟)

一〇五〇 十月二十四日 薩哈噠州派遣軍參謀長ヨリ  
陸軍次官宛(電報)

プロカベンコノマリンスク退去動機ニ関シ報  
告ノ件

薩參謀一一号 (十月二十五日外務省写接受)  
一、在「マリンスク」知多政府派遣「プロカベンコ」カ自  
発的ニ同地ヲ撤退セルコトハ前電報ノ如クナルカ從來ノ  
彼ノ行動ニ鑑ミルトキハ今後彼ハ我軍ニ依リテ撤退ヲ強  
請セラレタル事或ハ我軍ノ施設ニ対シ惡宣伝ヲ為スコト  
明ナリ其ノ結果武市哈府ニ於ケル我カ特務機關ニ対スル

シ派遣軍反駁ノ件

附屬書 右反駁書

公第五九号 (十一月二十八日接受)

大正十年十一月十一日

薩哈噠州派遣軍司令部附

外務書記生 北川 義一(印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

浦汐新聞ニ対スル薩哈噠州派遣軍ノ

反駁書ニ関スル件

曩ニ本年九月十一日附公第四五号ヲ以テ申進候浦汐露字新  
聞「スローウオ」ノ攻撃論ニ対シ今回當軍ニ於テハ之ヲ反  
駁スベク別紙ノ通り声明候ニ付テハ御参考ノタメ右内容及  
通牒ニ候

因ニ該反駁書ハ當軍ヨリ浦汐派遣軍ニ宛テ發送相成候

敬具

(附屬書)

浦汐露字新聞ニ対スル薩哈噠州派遣軍

ノ反駁書

凡ソ一事ヲ批判セント欲スレバ須ラク其実相ヲ詳ニシ其ノ

一一二 薩哈噠州占領地域施政關係一件 一〇五一

一一二二

該地官憲ノ態度ニ變化ヲ生セサルヤノ虞アリ参考ノ為彼  
カ退去ノ動機ヲ左ニ

露国婦人「エフゲニフカ」ハ今春哈府官憲ヨリ「ダリ  
タ」ノ通信宣伝員トシテ「マリンスク」ニ派遣セラレ  
タル者ナルカ約三月ノ期限ニテ上陸ヲ許シタリ然ルニ  
彼女ハ「プロ」ト自由結婚シ(不明)ニ赴キテ地方住  
民間ニ惡宣伝及革命気分ノ養成ニ努メ我カ国ノ為有害  
ナリト認メラレタルヲ以テ我カ出先官憲ハ最近他ノ有  
害人物二三ト共ニ彼女ノ退去ヲ命シタルニ「プロカベ  
ンコ」ハ女ノミヲ去ラシムルニ忍ヒストテ任意ニ上流  
ニ去レリ尚彼ハ哈府ニ帰ル時ハ身辺ニ危險ノ虞アルヲ  
知リテ「キシリヨフカ」附近ニ停マルモノト察セラル  
二、(不明)浦潮軍ヲ經テ哈府官憲ニ忠告シ尚「マリンス  
ク」林少佐ヲシテ同様ノ通告ヲ為スコトシ管内一般ニ  
対シテハ「プロ」ノ撤退ヲ宣伝シ民心ノ安定ヲ計ルコト  
トセリ

一〇五一 十一月十一日 北川書記生ヨリ  
内田外務大臣宛

占領地施政ニ関スル浦潮露字新聞ノ批判ニ対

因テ来ル所ヲ察シ其ノ及ボス所ヲ究メ公平無私ノ立場ヨリ  
之ヲ為サバルベカラズ徒ニ攻撃ソレ自身ヲ目的トスル攻撃  
ハ世ヲ毒シ人ヲ誤リ延テハ人類ノ平和ニ対シ不勘障礙ヲ成  
スモノニシテ吾人ハ断ジテ之ヲ排除セザルベカラズト信ズ  
ルモノナリ

頃者「新日本」ト題シ浦汐ニ於テ発刊スル新聞「スローウ  
オ」ニ掲載セラレタル薩哈噠州占領地ニ於ケル日本ノ施政  
ニ関スル記事ヲ讀ミ其事実ヲ誣フル事ノ余リニ甚シク実況  
ニ通ゼザル者ヲシテ日本ノ真意ヲ誤信セシムルノ虞レアル  
ヲ以テ玆ニ該記事ノ全然事実ヲ誤レル点ヲ指摘シ日本ノ施  
設ノ極メテ公正ナルコトヲ世界ニ向ツテ公開セント欲スル  
モノナリ蓋シ之レハ吾人ノ当ニ果スベキ義務タルヲ信ズレ  
バナリ

論者ノ謂フ所ハ要スルニ日本軍ノ施政ノ方針ガ徒ニ露国人  
ノ權利ヲ蹂躪若クハ制限シ為メニ露国人ハ生活ノ不安ニ堪  
ヘズシテ漸次占領地域内ヨリ退出シ露西亞ノ一州タル薩哈  
噠ハ聽テ日本ノ新シキ一州ト化セントスト云フニアリ其原  
因トシテ日本軍ノ發布セル諸法規ノ露国ノ旧慣ニ適セザル  
ヲ論ジ司法制度ノ不完全ノ点ヲ挙ゲ尚ホ行政施行ノ不当ナ

一一二三



ルヲ細々シク論述シテ右ノ結論ヲ為セルモノナレドモ其論  
ズル所概ネ事實ニ遠ザカレルカ或ハ牽強附会以テ故意ニ日  
本軍ノ施設ニ中傷セントスルモノニシテ吾人ハ此点ニ於テ  
甚シク遺憾ノ念ヲ抱クモノナリ

帝國政府大正九年七月三日ノ声明ニ基キ我軍ノ薩哈噠州要  
地ヲ占領スルヤ兒島軍司令官ハ同年八月二十日ヲ以テ占領  
地民衆ニ對シ施政ニ関シテ可成從來ノ法規慣習ヲ尊重シ諸  
般ノ施設ニ依リ一般民衆ノ福祉増進ヲ図リ信教ノ自由ヲ確  
保シ且ツ裁判ノ公平ヲ期スル旨ノ諭告ヲ發シ爾來終始一貫  
占領地ニ於ケル立法司法行政ハ凡テ此主旨ニ出デザルモノ  
ナク又民衆ノ取扱ヒニ関シテハ人種国籍ノ如何ヲ問ハズ均  
等ニ待遇シ且ツ其權利ノ保護ニ努メ過般軍司令官ノ更迭ア  
リタルモ叙上施政方針ニ毫モ改變スル所ナキハ町田軍司令  
官ノ大正十年七月二十三日ヲ以テ占領地民衆ニ對シ發シタ  
ル諭告ニヨリ明カニシテ一般民衆ハ我軍ノ民政ニ信頼シテ  
其堵ニ安ンジ業ヲ励ミ聊モ動揺スルガ如キ情況ニアルヲ認  
メズ占領地從來ノ法規慣習ヲ尊重シ殊ニ露國人ノ權利ヲ保  
護セムトスルハ我軍ノ民政ニ関スル法規制定上ノ大原則ニ  
シテ民事実体法ナル大正九年八月三十日制定ノ民事令ハ民

事ニ関スル事項ハ占領地ノ法令及ビ慣習ヲ參酌シテ帝國法  
令ニ依ルト定メ從來ノ占領地ニ於ケル先例ニ倣ヒタル外更  
ニ進ンデ露國人相互間ノ民事ニ付テハ公ノ秩序ニ反セザル  
限り全然占領地ノ法令及ビ慣習ニ依ル旨ヲ規定シ刑事実体  
法ナル同日制定ノ刑事令及ビ軍律並ニ同年九月十七日制定  
ノ占領地公安維持ニ関スル罰則ハ占領軍ニ對シ危害ヲ加ヘ  
又ハ占領地ノ公安ヲ害スル行為ニ對シ總テ極刑ヲ以テセル  
從來ノ占領地ニ於ケル先例ト異リ帝國法令及ビ占領地ノ法  
令慣習ヲ參酌シ所犯ノ性質及ビ其輕重ニ從ヒ軍罰ヲ科スル  
旨ヲ定メ且ツ其軍罰モ極メテ寛大ナルノミナラズ占領地ニ  
アル日本人ハ帝國內ニ在ルト同一ノ刑罰法規ノ適用ヲ受ク  
ル結果微細ノ犯行ニ對シテモ処罰ヲ免レザルニ日本人以外  
ノ者ニ適用スベキ前述ノ刑事実体法ハ真ニ占領軍ニ危害ヲ  
加ヘ又ハ占領地ノ公安ヲ害スル行為ヲ規律スルニ止マリ微  
細ノ犯行ニ及バズ其他各種ノ法規モ上記ノ大原則ニ基カザ  
ルモノナキハ公布セル法令ヲ通觀スレバ自ラ之ヲ釈明スル  
コトヲ得ベシ

占領地ノ安寧秩序ヲ維持シ民衆ノ權利ヲ保護スルタメ裁判  
ノ公平ヲ期スルコトハ司法ノ大方針ナルガ故ニ大正九年八

月三十日裁判令ヲ制定シテ軍法院ヲ置き占領地ニ於ケル民  
事訴訟、非訟事件、公證、不動産證明、執達等ノ民事々件並ニ  
軍令ニ違反スル刑事々件ヲ管轄セシメ円熟セル専門法官ヲ  
以テ裁判官ニ充テ之ニ優秀ナル通訳老練ナル書記ヲ配屬シ  
周到精密ノ審理ヲ遂ゲ民事ニ関シテハ公平ナル判決ヲナシ  
刑事ニ関シテハ適切ナル処罰ヲ宣告シタル結果民事々件ハ  
漸次増加シ既ニ八百余件ニ上リ其約四分ノ三ハ露國人ヲ原  
告トスル事件ニシテ尚益々増加ノ傾向アリ亦刑事々件ハ住  
民増加シ各種事業ノ勃興スルニ伴ヒ幾多ノ取締規則ヲ制定  
シタルニ不拘著シキ増加ヲ示サズ処罰人員ノ総數ハ六十余  
名ニテ露國人ノ被処罰人ハ其半數ニモ達セザルノミナラズ  
犯人ノ大部分ハ殺人傷害強盜竊盜等ニシテ被害者ノ多數モ  
亦露國人ナリ而シテ日本人ノ被処罰人ハ上記処罰人員中ニ  
十數名ヲ含ムニ過ギザルモ各種取締規則違反者トシテ憲兵  
ノ即決処分ニ依リ軍罰ニ処セラレタルモノ六十余名ニ上リ  
(日本人以外ノ者ニシテ憲兵ノ即決処分ヲ受ケタルモノナ  
シ)殊ニ前述ノ如ク日本人ハ帝國內ニ於ケルト同一ノ刑罰  
法規ノ適用ヲ受ケ其犯罪事件ノミヲ管轄スル軍法會議ノ処  
罰人員ハ既ニ百八十余名ヲ數ヘ合計二百五十余名ニ達シ露

國人ノ処罰ヲ受ケタルモノノ約十倍ニ当ル勿論不実ノ主張  
若クハ答弁ヲナシタル結果敗訴セシ民事訴訟当事者又ハ軍  
令ニ違反シ処罰セラレタル者ニシテ中傷の言動ヲ為スモノ  
有ルハ免レザル所ナルモ叙上民事々件及ビ刑事々件ノ実績  
ハ裁判ノ公平ナルコトヲ事實ヲ以テ之ヲ証明スルモノナリ  
從來自治制ヲ認ムルコトハ我軍占領当初ノ方針ナリシガ占  
領地ニ於ケル自治制ハ創設以來僅々十ヶ年ヲ経ルニ過ギザ  
ルノミナラズ革命ニ次グニ革命ヲ以テシ最近ノ制度ハ大正  
九年五月ヨリ實施セラレ其基礎極メテ薄弱ニシテ名実相伴  
ハザルモノアリ之ヲ繼續スルハ却テ民衆ノ福祉増進ヲ図ル  
途ニ非ザルガ故ニ同年十月八日ヲ以テ從來ノ自治制ヲ停止  
シ代フルニ地方總代並ニ相談會ヲ置キ民政ノ機關トシタル  
モノニシテ自治ノ精神ヲ没却シ全然其制度ヲ認メザルモノ  
ニ非ズ

論者又占領地内ニ於テ日本軍ヨリ發布セル諸法規ニ就キテ  
頻ニ惡声ヲ放テルモ幸ニモ我施設ノ失当ナルコトヲ吾人ヲ  
シテ反省セシムルニ至ラザルヲ欣ブモノナリ

論者ノ謂フ所ノ外国人取締規則ト云ヒ土地ニ関スル權利取  
締規則ト云ヒ其他列举セル法規ノ如キ何レモ露國人ノ權利

ヲ蹂躪シ又ハ其生活ヲ不安ニ導クガ如キ規定ハ一モ存セザルコトハ是等法規ヲ一読スレバ何人ニモ首肯シ得ル所ナリ一方ニ於テ權利ノ移轉變更又ハ各種事業ノ許可等ニ付キ慎重ナル手續ヲ要スルコトヲ定メタルハ他面ニ於テ正當ナル權利者ノ正當ナル權利ヲ擁護スル所以ナルヲ察セザルベカラズ蓋シ數年間ニ於テ露國ハ不幸ニシテ擾亂相續キ國內ノ秩序甚シク整ハザリシヲ以テ權利取得ノ原因等ニ付キ頗ル疑ハシキモノ尠カラズ正確ナル記録等ニ基キテ嚴重ニ其權利ノ源ヲ審査スルニ非ザレバ輕々シク權利ノ移轉變更等ヲ自由ニナシ難キヲ認メタレバナリ凡ソ總テノ取締規則等ヲ設ケテ人民ノ自由ニ多少ナリトモ制限ヲ加フル所以ノモノハ不正當ナル者若クハ善良ナラザル者ヲ取締ラムトスルニアリテ其結果善良ナルモノ若クハ正當ナルモノハ多少ノ制限ヲ受ケ時トシテ不便ヲ感ズルコトナシトセズ乍然是ニ依リテ一般公共ノ秩序ヲ保持シ得ルノ所以ヲ思ハバ是ハ一般人民ノ須ク忍バザルベカラザルノ制限ナリ總テノ人民ガ悉ク善良ナル者ナルニ於テハ有ラユル取締規則ハ速ニ廢棄シテ可ナルベク裁判所ハ即日之ヲ閉鎖シテ敢テ不都合ナカルベキナリ乍然薩哈噠ノ実況ハ未ダ不幸ニシテ斯ノ如キ理想

ルモノナリ

占領地ニ於テ日本軍ガ民政ヲ布キタル當然ノ結果トシテ從來ノ露國行政權及ビ行政機關ハ一時廢除セラレ代フルニ新タナル日本軍ノ諸機關ノ設立セラレタルコトハ彼等均シク眼前ノ事実トシテ認メ居ル所ナリ然リト雖モ之ガ為ニ日本軍ガ露國人ヲ圧迫シ居ルナドノ事ハ實際上思ヒモ寄ラザル所ナルコト亞港ニ於ケル現今ノ実況ヲ一見スレバ何人ニモ直ニ首肯シ得ル所ナリ其教育ニ於テハ露國人ノタメニ有ラユル便益ト補助トヲ与ヘ宗教ニ関シテハ何等制限ヲモ加ヘズ絶対ニ自由ナラシメ經濟上ニ於テハ最善ノ方策ヲ實施シテ其發展ニ努メタリ從而占領以來有ラユル産業ハ徐々ニ勃興シ來リ為ニ露人ハ各種ノ職業ニ従事スルコトヲ得日本軍及ビ其他ノ日本人ガ内地ヨリ持來リテ亞港ニ散ゼル物資ハ自然露人ノ生活ヲモ豊カナラシメ日本軍ノ公明正大ナル民政ノ施行ニ依リテ社会的ノ秩序ハ嚴然トシテ確保セラレ亞港ニ於ケル總テノ住民（国籍ノ如何ヲ問ハズ人種ノ如何ヲ論ゼズ）ハ些ノ不安ナクシテ其生業ニ励ムコトヲ得ルニ至リ今ヤ亞港ハ露人ノタメニ露國內ノ如何ナル他ノ地方ヨリモ安住ノ樂土トナレリト云フモ決シテ過言ニアラザルベシ

郷ナラザルヲ如何ニセンヤ

論者又曰ク日本軍ハ薩哈噠在住ノ露國人ノ一挙手一投足ニモ重税ヲ課シ苛斂誅求止ム所ヲ知ラズト云フト雖モ何ヲ以テ此言ヲ為スヤ事實ハ余リニ明白ニ此言論ヲ裏切り居ルハ論者ト雖モ恐ラク之ヲ認メザルヲ得ザルベシ

凡ソ占領地ニ於テハ占領地ノ領土權ヲ有スル國ノ政府ノ利益ノタメ從來課セラレタル租稅賦課金等ハ占領軍ニ於テ公然之ヲ徵收シ得ベキコトハ國際法規ニ於テ明カニ之ヲ認ムル所ナリ從而日本軍ガ薩哈噠州占領地ニ於テ其在住者ニ對シ租金若クハ其他ノ取立金ヲ賦課セムト欲セバ何時ニテモ正當ニ之ヲ賦課シ得ベキ所ナレドモ住民ノ經濟上ノ情況ヲ顧慮シ未ダ何等ノ賦課ヲ為サザルハ吾人ノ世界ニ對シ公然ト發表セントスル一点ナリ加之日本政府ガ薩哈噠開發上支出シツ、アル經費タルヤ不尠負担ヲ日本人ニ加重シタルモノナリ乍去占領地ニ於ケル安寧秩序ヲ保持シ以テ住民ノ生活ヲ安ゼシムルコトヲ以テ占領軍ノ義務タルヲ信ズルニ於テハ是ハ當然ノ結果ナリト云ハザルベカラズ由テ以テ占領地ニ於ケル主權ガ將來何レニ歸着スルトモ日本軍ノ占領中ニ於テ採リタル措置ノ極メテ公正ナルコトヲ示サムト欲ス

論者又曰ク占領軍司令官ノ統治機關中ニハ少クモ文化教育ノ問題ニ関スル作用ハ未ダ之レ有ラザルナリト

機關ノ分課ニ付テハ論議スルノ必要ナシ要ハ其實質ノ如何ニアリ軍ガ此地ヲ占領セシ當時ニアリテハ庶政混沌亂麻ノ如クニシテ秩序サヘ維持セラレザリシガ軍ハ此間ニ処シテ文化教育ノ一日モ忽諸ニ附スベカラザルヲ認メ從來閉鎖中ノ學校ヲ開キ教師ヲ聘シ學業用品ヲ官給シ授業ヲ開始シ今ヤ占領地域内至ル所唱歌ノ声ヲ聞カザルナク現ニ開校シアルモノ実業學校一高等小學校二尋常小學校二十ニシテ修學兒童數千三百余名ニ達スルニ至レリ

凡ソ正義ノ觀念ハ世界ノ有ラユル國民ニ通有ノ心理狀態ナルベシ乍然日本人ハ正義ヲ重ンズル点ニ於テ他ノ何レノ國民ニモ讓ルコトナキハ從來ノ涉外事件ニ於テ日本ノ執リタル態度ニ鑑ミテ何人モ之ヲ認メ居ル所ナルベシ人モ知ル日本固有ノ武士道ノ精神モ基ク所ハ此正義ノ觀念ニ外ナラザル所ニシテ日本ガ極メテ短期間ニ於テ今日ノ如キ世界的地歩ヲ占メ得タルモ畢竟スル所コノ根本主義ニ則リ些ノ野心ナク聊ノ暴戾ナクシテ世界的事件ニ從ヒタル結果ニ因ルモノナルベシ暴逆ヲ挫キテ弱キヲ助クルノ精神ハ

日本人天賦ノ特性ナリ今や露國人ハ暴逆ニシテ天人共ニ相許サザル「バルチザン」若クハ之ニ類スル徒輩ノ為メニ塗炭ノ苦ヲ嘗メツ、アリ彼等暴戾ヲ挫キテ人類平和ノタメニ更ニ一般ノ貢獻ヲ為サントスルハ日本人共有ノ大理想ナリ之ハ唯ダ独リ露國人ノ幸福ノタメノミニ非ザルナリ

以上列記シタル事實並ニ大方針ニ基ケル日本軍ノ施設ガ露國人ヲ圧迫スルトカ露國人ノ一挙手一投足スラモ自由ナラシメズト為スガ如キハ到底想像ダニナシ能ハザル所ニシテ如斯ハ畢竟為メニスルコトアル捏造ノ言ニ過ギザルハ敢テ贅言ヲ要セザルモノナリト信ズルモノナリ

論者ノ述ブル所概ネ牽強附會事實ヲ枉ゲテ攻撃ノ的ト為セルモノニシテ茲ニ一々反駁ヲ加フルノ要ヲ見ザルナリ吾人ハ論者ガ親シク薩哈噠占領後ニ於ケル日本軍ノ施設ヲ見虚心坦懷是ヲ是トシ非ヲ非トシ吾人ヲシテ真ニ論者ノ言論ニ耳ヲ傾ケシムルニ足ルノ説ヲ述ベラレンコトヲ切望シテ止マザルモノナリ

(以上)

一〇五二 十一月二十五日

警視庁ヨリ  
外務省宛

ニコライエフスクヨリ最近帰朝セル島田元太郎ノ現地状況ニ関スル談話報告ノ件

外秘乙第一五六〇号

大正十年十一月二十五日

「ニコライエフスク」ヨリ最近帰朝セル

者ノ談

東京ステーションホテル止宿

島田商会主 島田元太郎

右者二十余年間引続キ「ニコライエフスク」市ニ於テ漁業林業製材業其他種々ナル事業ヲ經營シ居ルモノニシテ同地方ニ於ケル日露人ノ人望厚キ者ナルガ同地方ノ状況ニ関シ左ノ如ク語レリ

一、昨春ノ尼港事件ノ突発前マデハ一般露國人ハ日本ハ信頼スベキ国日本人ハ親愛スベキ国民ナリトノ觀念ヲ抱キ凡テノ事業ノ如キモ日露共同シテ經營センコトヲ欲シ又尼港事件勃発後ハ日本軍ノ駐屯ニ依リ彼等ノ生命財産ハ保護セ

薩哈噠州占領地域内ニ於ケル産業事項中農牧地ノ管理鉅業既得權並鉅業許可ノ条件ハ左記ノ通定ムルコトヲ致度

#### 左記

#### 第一、農牧地ノ管理

一、占領地域内ニ於ケル農牧地貸下許可ノ出願ニ對シテハ軍司令官充分其資格ヲ審査シ大正九年七月二十七日閣議決定ノ主旨ニ基キ適當ト認メタルモノニ別記条件ノ下ニ其許可ヲ与フルコト

二、前項ノ出願アル場合ニ於テ実施ノ必要ヲ認メタル時農牧地ノ調査管理ヲ実施スルコト

三、占領終了後其企業ヲ中止スルノ止ムヲ得サルニ至リ當業者ノ損害ヲ受クヘキ場合アルモ政府ハ之ヲ賠償スルノ責ニ任セサルコト

四、以上ノ処理ニ要スル經費ハ臨時軍事費ヨリ支弁スルコト

#### 農牧地貸下条件

一、農牧地貸下ニハ料金ヲ課ス但未開ノ農牧地ニ在リテハ之ヲ無料トスルコトヲ得

二、貸下地上ノ自然ノ產物ハ年度別土地使用面積或ハ起

一〇五三 十二月十三日

陸軍省ヨリ  
外務省宛

薩哈噠州占領地域内ニ於ケル産業ニ関スル閣議案ニ付外務省ノ意見問合ノ件

業方法書ニ応シ其借受人ニ特売ス但直接起業ニ必要ナルモノニ限り其区域内ヨリ無償交付スルコトヲ得

三、貸下期間中ト雖モ外交關係公用公益ノ為其他已ムヲ得サル事由アルトキハ貸下ノ許可ヲ取消シ之ヲ返還セシム

四、前項ノ場合ニ於テ借受人ハ一切損害賠償ヲ請求スルヲ得ス

## 第二、鉱業既得権

鉱業既得権ハ樺太ノ鉱業台帳ニ登録シアルモノノ内帝政及「ケレンスキー」時代ノモノニ限り認許シ其以後ノ分ハ之ヲ認メス新ニ軍ニテ許可スル形式トシ其適当ナルモノニ対シテハ特別ノ優先権ヲ認ムルコト

## 第三、鉱業許可ノ条件

一、鉱業権者ニハ鉱区税及鉱産税ヲ課スルコト

二、軍事上及公益上必要ナル施業ノ方法ヲ定メ之ヲ嚴格ニ遵守セシメ若シ違反スル者アルトキハ相当ノ制裁ヲ課スルコト

三、稼業中ト雖外交關係公用公益其ノ他已ムヲ得サル事由ノ生シタル場合ニハ何時ニテモ許可ヲ取消シ其稼業

ヲ停止スルコト

四、前項ノ場合ト雖一切損害賠償ノ責ニ任セサルコト

## 説明

薩哈噠州占領地域内ニ於ケル移住民等ノ住宅地ハ従来軍ニ於テ条件ヲ附シ貸下ケツツアルモ農牧地ハ右住宅地トハ多少其趣ヲ異ニスル点アルヲ以テ今日迄其貸下ヲ実施シアラサリシカ近来占領地域内ニ於ケル施政モ漸次其緒ニ就キ該地方ヘノ渡航者増加シ農牧ノ経営ヲ請願スル者多シ然ルニ新移住者ハ目下農牧経営ノ為ニハ高価ヲ以テ在来ノ居住露人ヨリ借地権ヲ買取ルノ外方法無ク然カモ占領地ノ大部分ハ荒蕪ノ儘ニ放棄セラレアル現状ニテ甚タ遺憾ナルノミナラス「ツイモフスキー」ニハ在来ノ農事試験場アリテ占領後軍ハ其経営ヲ継続シ研究ヲ進メツツアルノ情況ナルヲ以テ此際露國従来ノ施政ヲ継承シ森林鉱山ノ例ニ準シ農牧地ヲ貸下クルコトト致度

又薩哈噠州占領地域内ノ鉱業ニ就テハ鉱業権ノ整理ヲ遂ケ終ル迄テ一時的ノ意味ニテ客年八月軍ニ於テ鉱業取締令ヲ發布シ其當時現ニ稼業ヲ実施中ノモノノミニ限り其稼業ヲ許シ其他ハ鉱業権ノ出願移転行使等ヲ禁止シアリタルヲ以

多少ノ変更ヲ詮議スルコトアルヘシ

二、閣議案第二（鉱業ノ既得権及優先権）ニ就テハ

前項所載時期決定前ト雖之ヲ実施シ差支ヘナシ

## （欄外註記）

「十二月二十七日ノ閣議ニ於テ陸軍閣議案ニ左ノ通り記入ノ上決

定

第一項及第三項所載事項ノ実施時期ハ外務省陸軍省協議ノ上決定ノコト（内田外相印）

註 右閣議案ニ関スル意見問合ニ対シ外務省ハ左記諒解ノ下ニ同意ノ旨ヲ表明セリ

一、閣議案所載事項ノ実施時期ハ追テ陸軍外務両省

間ニ協議ノ上決定スルコト

但シ実務ノ際華府會議ノ成行等ニ鑑ミ内容ニ就キ